

大学概要  
2017・2018

大学概要 2017-2018

公立大学法人



名桜大学  
MEIO UNIVERSITY



全国で最も開花の早い桜の名所沖縄県名護市にある名桜大学のシンボルマークは、四角の中に桜の花びらが描かれています。桜の五枚の花びらは、真・善・美・聖・健の人類普遍の価値を象徴し、途切れのない四辺は、四海同胞を意味しており、平和・自由・進歩の建学の精神を、沖縄県北部やんばるから世界に発信する核となろうとする象徴です。

公立大学法人  
名桜大学  
MEIO UNIVERSITY



# 平和・自由・進歩

名桜大学は、平和を愛し、自由を尊重し、人類の進歩と福祉に貢献する国際的教養人と専門家の育成を建学の精神とする。

名桜大学は、1994年、沖縄県並びに名護市を中心とする北部12市町村によって設立された沖縄県唯一の公設民営の私立大学であったが、2010年「平和・自由・進歩」の建学の精神はそのまま継承され、公立大学に生まれ変わる事となった。

人類の歴史をたどると、それは戦争の歴史であったといっても過言ではなく、それだけに人類の平和を希求する精神は絶えることはない。とりわけ第二次大戦最後の激戦地と化したわが沖縄県においては、熾烈な地上戦が展開され、われわれの祖先が築きあげた文化遺産がことごとく破壊され、20万余の尊い生命が失われた。従って県民の平和に対する願望は強烈なものがある。

本学は、そのような歴史的背景を踏まえ、世界平和の維持と構築に貢献することによって、平和発信の使命を果たすべく創設された。

平和なくして自由はありえない。自由への闘争もまた人類の歴史そのものであった。独裁者からの解放、圧制からの解放、社会的階級からの解放、差別からの解放、貧困や飢餓からの解放を目指して人類は戦ってきた。わが国でも自由を圧迫する封建社会や軍国主義の時代を経験した歴史があり、本県の場合は沖縄戦に続き27年間にわたる米国の占領と施政権下におかれた。本学が最も強調していることは、いうまでもなく言論・信条・学問の自由であることは論を俟たない。自由なくして大学の教育研究の進展はありえない。

平和と自由なくして人類社会の進歩はありえず、平和と自由なくして文化の創造はありえない。現代の科学の進歩は著しく、人類の幸福に多大な貢献をしている。それにともなって社会構造も急速な変化を遂げてきた。また、その結果、国際化・グローバル化は

急速に進展し、各国は相互依存の関係にあり、もはや孤立することは許されなくなった。本学は、国際的な教育研究を通して学術の向上と進歩に努め、地域社会と人類社会の福祉に貢献することを使命のひとつとした。

この「平和・自由・進歩」の三本柱のもとに、本学は、国際社会で活躍できる人材の育成を教育目標に掲げた。そのためには心を解放し、自由な発想で、国際的視点から問題をとらえ、解決できる人材を育成することを教育の基本理念とした。本学がリベラルアーツを強化したのはまさに国際的教養人を養成するためである。その基盤に立って、高度の専門的教育研究を推進することによって地域・国際社会に貢献できる人材の育成を期する。

## CONTENTS

建学の精神	01
学長あいさつ	03
社会連携の考え方	04
公立大学法人へ移行の趣旨	
大学創設の経緯	05
沿革	06
組織図／教職員数	07
役員／教育研究審議会委員／経営審議会委員／大学役員	08
大学の使命・目的および全学的三つのポリシー	09
名桜大学の教養教育	15
<b>国際学群</b>	<b>19</b>
■国際文化専攻	
■語学教育専攻	
■観光産業専攻	
■経営専攻	
■情報システムズ専攻	
■診療情報管理専攻	
<b>人間健康学部</b>	<b>23</b>
■スポーツ健康学科	
■看護学科	
<b>助産学専攻科</b>	<b>27</b>
<b>大学院</b>	<b>29</b>
■国際文化研究科	
■看護学研究科	
総合研究所	33
外部資金	34
地域貢献Ⅰ	35
地域貢献Ⅱ	37
校舎等施設	39
在学生状況	43
志願者・入学・卒業・修了状況	46
進路・就職状況／教員免許取得状況	49
大学間交流	51
学費・奨学金等	53
クラブ・サークル	55
学年暦	56
名桜大学のFD活動／自己点検・評価、認証評価の取組み	57
交通アクセス	58



## 「学びのコミュニティ」をめざして —名桜大学の教育と使命—

名桜大学学長 **山里勝己** Katsunori Yamazato, Ph.D.

Profile: 本郷出身。琉球大学教授・同大副学長を経て、  
2013年名桜大学副学長・国際文化研究科長、  
2014年度第五代学長に就任。専攻はアメリカ文学・文化論。

- 【略歴】 1972年 琉球政府立琉球大学英語英文科卒業  
1974年 University of Hawaii, Manoa 大学院(修士課程)英米文学専攻修了(MA)  
1987年 University of California, Davis 大学院(博士課程)英米文学専攻修了(PhD)  
琉球大学名誉教授、琉球大学国際沖縄研究所初代所長、日本文学・環境学会会長、九州アメリカ文学学会会長、アメリカ学会理事、アメリカ文学学会誌編集委員、ハワイ大学アメリカ研究学科学科大学院研究連携教授、アメリカ文学・環境学会誌 *ISLE*(オックスフォード大学出版局)編集顧問
- 【著書】 『場所を生きる—ゲーリー・スナイダーの世界』(山と溪谷社、2006年)  
『琉大物語 1947-1972』(琉球新報社、2009年)  
『<移動>のアメリカ文化』(共編、ミネルヴァ書房、2011年)  
『<オキナワ>人の移動、文学、ディアスポラ』(共編、彩流社、2013年)  
*The Literature of Nature: An International Sourcebook*. London: Fitzroy and Dearborn, 1998.(共編)  
*Living Spirit: Literature and Resurgence in Okinawa*. Honolulu: U of Hawaii P, 2010.(共編)  
『戦後沖縄とアメリカ—異文化接触の50年』(共編、沖縄タイムス社、1995年)、その他。
- 【受賞】 第5回琉球新報短編小説賞受賞(1976年)、  
沖縄タイムス芸術大賞受賞(文学研究・文学批評)(2008年)

名桜大学は、1994年に公設民営の大学として設立され、2010年に公立大学法人名桜大学として生まれ変わりました。本学の建学の理念は「平和・自由・進歩」であり、「国際社会で活躍できる人材」の育成を大学の使命・目的として掲げてきました。建学の理念と大学の使命・目的は、公立大学法人化後も変わることなく現在に引き継がれています。

本学は国際文化、経営情報、観光産業の3学科からなる単科大学として出発し、2007年に国際学部を国際学群に改組しました。2005年には、人間健康学部スポーツ健康学科を開設、さらに2007年に同学部に看護学科を設置し、2017年には、助産学専攻科が設置されました。

この間、名桜大学は、国際基準の大学教育のあるべき姿を模索してきました。21世紀のグローバル化する世界に対応するには、大学はどのようなカリキュラムを編成して学生を教育し、十分な学力を身につけた人材として社会に送り出すべきか。また、学生はどのような知識や技能(スキル)を学ぶべきか。あるいは、国際的に活躍し、地域社会に貢献する人材を育成するために、大学はどのような教育体制を構築すればいいのか。

このような問いに答え、時代の要請に応えるため、本学は2011年にリベラルアーツ教育を推進する「教養教育センター」を設置し、2015年には同センターを「リベラルアーツ機構」として改組しました。リベラルアーツ教育とは、人文科学、社会科学、自然科学を幅広く柔軟に学び、批判的かつ論理的な知識体系を身につけ、同時に自立した思考を深め、知的倫理性を実践することを目的とした教育です。また、本学では、(1)母語を中心とする文章力、(2)数理的な判断・分析能力、(3)外国語、(4)ICTリテラシーの4つをリベラルアーツ教育の基本的スキルと考え、ライティング

センター、数理学習センター、言語学習センターを設置しています。この3つのセンターは、チュータリング制による先端的な学習を推進していて、本学の大きな特色となっています。

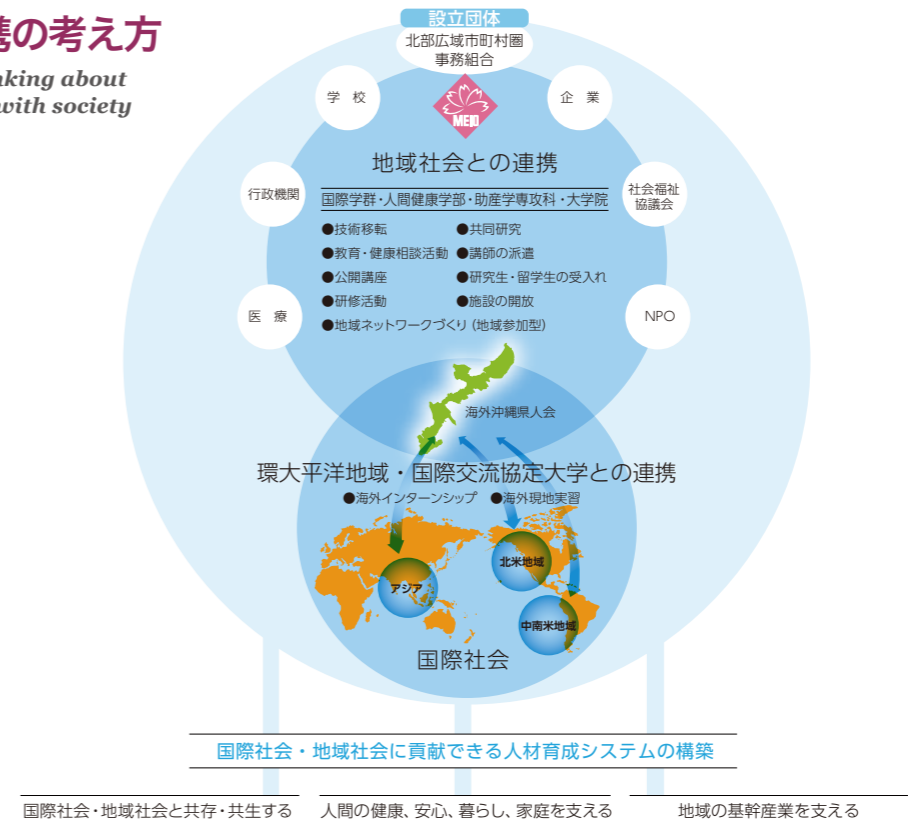
名桜大学の学部4年間のカリキュラムは、リベラルアーツ教育を基礎として円満な人間形成をめざし、専門分野で深い知識を探究できるよう設計されています。これは、21世紀の先進的な大学教育を推進するため、入学時からアクティブラーニングを基本としたカリキュラムで学生を教育し、そのような教育を多様な専門分野に有機的に接続しようとするものです。たとえば、国際学群では、3年に進級するさいに専門分野を決定しますが、それまでは柔軟に幅広く学ぶことができるようにカリキュラムが編成されています。また、看護学科とスポーツ健康学科を擁する人間健康学部でも、リベラルアーツ教育を取り入れながらカリキュラムを設計しています。

本学では、現在、2年終了後に全学生の学修の中間評価を実施し、大学教育の質保証を確かなものにする準備を進めています。名桜大学は、このような教育を国際基準に従って推進し、地域社会と国際社会で活躍できる人材を育成します。また、このような教育は、生涯を通して自立して学び続ける人材の育成を目標としています。

大学院について言えば、本学は2001年に国際文化研究科(修士課程、5教育研究領域)を設置、さらに2011年には看護学研究科(修士課程)を設置しました。これは高度職業人と研究者の養成を目的としたものです。また、より魅力あるカリキュラムと教育研究体制を構築するために、国際文化研究科では領域によっては英語を中心としたバイリンガル教育が行われ、看護学研究科では看護と健康に関する特色ある研

## 社会連携の考え方

Ways of thinking about  
Connecting with society



究が推進されています。いずれも、地域貢献と国際貢献をめざすカリキュラムとなっています。

さらに、名桜大学の特色として、このような正課のカリキュラムに加えて、学生ボランティアによる学生支援のための「ウェルナビ」、地域の健康に貢献するボランティア活動、グローバル化する沖縄北部の観光やイベントに貢献する「通訳協力隊」など、学生による地域貢献活動が挙げられます。これは本学のユニークな教育支援・地域貢献システムであり、その活動の多くは教員の指導のもとで学生ボランティアが担い、学生のコミュニケーションスキル、リーダーシップ、自律性、協働精神などを育成することに大きな役割を果たしています。

2014年に完成した6階建ての学生会館「SAKURAUUM(サクラウム)」は、共同学習や学際的コラボレーションのための空間や設備や機器を備え、アクティブラーニングを推進する中核的な施設になっています。

このような教育や課外活動を推進することで、本学は学生を主体とした特色ある「学びのコミュニティ」を創造してきました。

「国際社会で活躍できる人材」とは、グローバルなパースペクティブを有するだけでなく、同時に自らが立っている地域についても深い理解を有する人材を意味します。本学は、国内外に多くの交流協定大学と企業等との連携プログラムを有し、海外留学、海外スタディツアー、地域でのインターンシップやプロジェクト学習の機会を学生に提供することで、このような人材の育成に努めています。

大学は人類の知の伝統を広く深く学び、同時にその最先端で他者と切磋琢磨しながら自らを成長させていく場です。本学の先進的なカリキュラムと美しいキャンパスで、学生諸君が大きく飛躍することを期待しています。

## 公立大学法人へ移行の趣旨

The meaning of the shift to being  
A public university

名桜大学は、名護市を中心とした北部12市町村と沖縄県からの出資によって設立された公設民営の大学である。

開学以来、4,041人(2008年現在)の学部学生、90人の大学院生を輩出し、進学機会の拡充と若者の県内定着といったことで大きな役割を果たすとともに、産業界や行政機関と連携を行い受託研究や共同事業を行うなど地域に貢献する大学として着実な成果を上げてきた。

名桜大学では、設立の目的である県内産業の振興や人材育成など県勢浮揚に向けて大きな役割を果たしていくために、公立大学法人化によって公立の大学という位置づけを明確にし、柔軟で効率的、機動的な運営を保ちながら、受験生の根強い国公立大学志向にこたえることで、意欲的な学生の確保や教育研究活動の更なる充実につなげていくことが望ましいと考え、公立大学法人化の取り組みを早急に進めてきた次第である。(平成21年12月 公立大学法人名桜大学 設立認可書 公立大学法人化実施の方針・要約)

# 大学創設の経緯

The founding of the University

## 大学創設の趣旨

### 1. 産業振興への対応

大学設置時(平成6年度)における沖縄県の産業別総生産は、第一次産業2.5%、第二次産業20.7%、第三次産業80.2%(就業率:70.7%)であった。特に第三次産業の中核である『観光産業』についての研究と人材の養成が求められていた。

### 2. 教育の機会均等

沖縄県の大学等進学率は、28.8%(全国:43.3%、平成6年)であったことから、県内に大学を創設して、高等教育への機会を提供する必要があった。

### 3. 沖縄県北部の地域活性化

沖縄県北部地域は、県人口の約10.8%(平成8年)で過疎化が進行している地域であった。特に高等教育機関が県の中南部に所在していることもあって、若年層の定着を図るとともに、大学設置による人材の養成、教育文化の向上、地域の活性化と産業振興を図る必要があった。

## 創設経緯

昭和54年	名護市に『大学誘致懇談会』設置
昭和55年	名護市条例に基づく『大学誘致委員会』発足
昭和59年～60年	北部12市町村で『北部広域圏市町村協議会』組織。大学誘致について検討
平成3年	3月 名護市で『名護市総合学園(大学)』設立に関する決議
	4月 名護市に総合学園設立準備室設置
	7月 『名護市総合学園設立審議会』発足。大学の基本計画、敷地等について検討開始
	『学校法人名護総合学園設立準備委員会』発足
	『学校法人名護総合学園設立準備事務局』発足
平成4年	4月 文部省に法人設立基本構想及び大学設置基本構想を提出
	7月 第一次申請
平成5年	3月 敷地造成工事着工
	6月 第二次申請
	7月 校舎建築工事着工
	12月 法人設立認可及び大学設置認可
平成6年	4月 第1回名桜大学入学式(入学生384人)

## 創設経費

創設経費	6,629,357千円		
補助金	6,629,357千円	沖縄県	1,030,000千円
		名護市	5,299,057千円
		北部11町村	300,300千円
建物等工事等	6,062,220千円(造成費、その他含む)		

## 学校法人名護総合学園設立準備委員会

1991(平成3年)7月14日 発足  
1993(平成5年)12月21日 学校法人名護総合学園設立認可及び名桜大学設置認可(文部大臣)

氏名	職名(当時)	備考
東江 康治	琉球大学名誉教授	設立代表者
外間 守善	法政大学文学部教授	設立者
阿部 充夫	放送大学学園理事長	〃
瀬名波 榮喜	琉球大学教育学部教授	〃
山里 清	琉球大学理工学部教授	〃
崎間 晃	琉球銀行代表取締役頭取	〃
稲嶺 恵一	(株)りゅうせき代表取締役社長・沖縄県経営者協会会長	〃
比嘉 幹郎	ブセナリゾート(株)代表取締役	〃
比嘉 茂政	恩納村長・北部市町村長会会長	〃
安里 進	名護市議会議長	〃
比嘉 鉄也	名護市長	〃

# 沿革

History of the University

平成3年	7月	学校法人名護総合学園設立準備委員会発足 学校法人名護総合学園設立準備事務局設置
平成4年	4月	学校法人名護総合学園設立基本構想申請(文部省へ)
	7月	名桜大学設置基本構想申請 第一次審査 文部省(大学設置・学校法人審議会)
平成5年	6月	第二次審査 文部省(大学設置・学校法人審議会)
	9月	現地調査実施 文部省(大学設置・学校法人審議会)
	12月	学校法人名護総合学園寄附行為認可(文部大臣)
平成6年	4月	名桜大学開学 第1回入学式 附属図書館完成 留学生センター完成(平成11年1月増築分完成)
平成7年	4月	開学記念式典
平成8年	4月	名桜大学総合研究所設立
平成9年	10月	名桜大学後援会設立
	11月	名桜大学完成記念植樹
平成10年	3月	第1回卒業式
平成11年	4月	沖縄県植樹祭
	6月	多目的ホール完成
	7月	開学5周年式典
平成12年	6月	名桜大学大学院国際文化研究科設置認可申請
	12月	名桜大学大学院国際文化研究科設置認可
平成13年	4月	名桜大学大学院国際文化研究科開設
平成14年	2月	名桜大学同窓会設立
平成15年	3月	名桜大学大学院国際文化研究科第1期生 修了
平成16年	9月	名桜大学人間健康学部設置認可申請
	10月	北部生涯学習推進センター完成
	12月	開学10周年記念式典
平成17年	1月	名桜大学人間健康学部設置認可(文部科学大臣)
	3月	屋内温水プール完成
	4月	名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科開設
平成18年	3月	人間健康学部実験・実習棟完成
	6月	名桜大学人間健康学部看護学科設置認可申請
	7月	名桜大学国際学群国際学類設置届出
	9月	名桜大学国際学群国際学類設置認可(文部科学大臣)
	11月	名桜大学人間健康学部看護学科設置認可(文部科学大臣)
平成19年	4月	名桜大学国際学群国際学類開設 名桜大学人間健康学部看護学科開設
平成21年	3月	北部地域看護系医療人材育成支援施設(看護学科棟)完成
	12月	北部広域市町村圏事務組合より「公立大学法人名桜大学」設立認可申請(沖縄県へ) 学校法人名護総合学園より設置者変更認可申請および学校法人解散認可申請(文部科学省へ) ※それぞれ12月21日付申請
平成22年	3月	公立大学法人名桜大学設立認可(沖縄県知事) 学校法人の設置者変更および解散認可(文部科学大臣) ※それぞれ3月19日付
	4月	公立大学法人名桜大学開設
	5月	名桜大学大学院看護学研究科設置認可申請
	10月	名桜大学大学院看護学研究科設置認可(文部科学大臣)
平成23年	4月	名桜大学大学院看護学研究科開設
平成26年	12月	開学20周年・公立大学法人化5周年記念式典
平成27年	4月	学生会館SAKURAUM完成、学食・売店リニューアル
平成28年	10月	名桜大学助産学専攻科 文部科学大臣が指定する看護師学校等の指定申請
平成28年	11月	多目的グラウンド完成
平成29年	1月	名桜大学助産学専攻科 文部科学大臣が指定する看護師学校等として指定(文部科学大臣)
平成29年	4月	名桜大学助産学専攻科開設

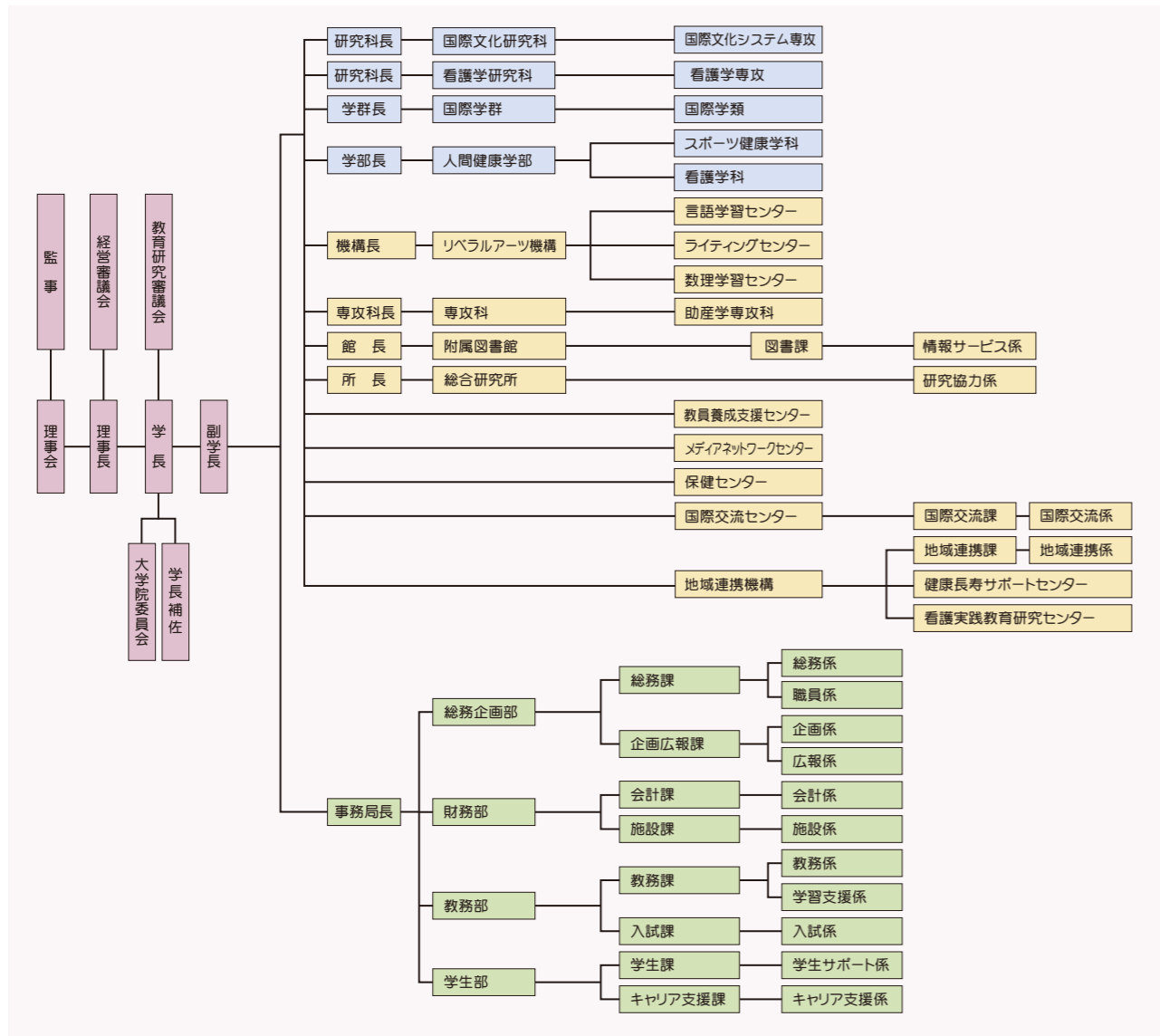
## 歴代理事長・学長・客員教授等

歴代理事長	歴代	氏名	就任
	初代	東江 康治	平成6年4月1日
	第2代	比嘉 鉄也	平成12年4月1日
	第3代	嘉数 啓	平成22年4月1日
	第4代	比嘉 佑典	平成24年6月1日
第5代	比嘉 良雄	平成26年4月1日	
歴代学長	歴代	氏名	就任
	初代	東江 康治	平成6年4月1日
	第2代	東江 平之	平成12年4月1日
	第3代	安田 晃次	平成15年4月1日
	第4代	瀬名波 榮喜	平成18年2月17日
第5代	山里 勝己	平成26年4月1日	
名誉学長	称号記番号	氏名	称号授与年月日
	第1号	東江 康治	平成13年5月30日
	第2号	瀬名波 榮喜	平成26年6月28日
名誉客員教授	称号記番号	氏名	称号授与年月日
	第1号	外間 守善	平成15年9月24日
	第2号	島袋 嘉昌	平成20年10月22日
	第3号	比嘉 幹郎	平成20年10月22日
	第4号	平 恒次	平成25年11月17日
名誉教授	称号記番号	氏名	称号授与年月日
	第1号	伊江 朝章	平成11年4月30日
	第2号	古波倉 正偉	平成11年4月30日
	第3号	外間 完和	平成11年4月30日
	第4号	平敷 浩邦	平成11年4月30日
	第5号	島袋 哲	平成12年4月21日
	第6号	山里 将晃	平成12年4月21日
	第7号	宮平 進	平成12年4月21日
	第8号	小谷 達男	平成12年4月21日
	第9号	上江洲 均	平成15年9月24日
	第10号	東江 平之	平成15年9月24日
	第11号	上間 隆則	平成15年9月24日
	第12号	山里 清	平成15年9月24日
	第13号	瀬名波 榮喜	平成16年5月27日
	第14号	喜屋比久 浩	平成16年5月27日
	第15号	宮城 真宏	平成16年5月27日
	第16号	芝野 治郎	平成18年5月29日
	第17号	安井 祐一	平成18年5月29日
	第18号	新城 敏男	平成20年6月18日
	第19号	山端 清英	平成20年6月18日
	第20号	石川 清治	平成20年6月18日
	第21号	内間 直仁	平成21年4月28日
	第22号	西平 守孝	平成21年4月28日
	第23号	竹内 伸也	平成21年4月28日
	第24号	杉本 英夫	平成21年4月28日
	第25号	久手堅 憲一	平成21年4月28日
	第26号	ガイエル、ティモシー C.	平成23年6月3日
	第27号	シーキンス、ドナルド M.	平成23年6月3日
	第28号	清水 則之	平成23年6月3日
	第29号	吉川 安一	平成24年6月23日
	第30号	眞喜屋 尚美	平成24年6月23日
	第31号	高宮城 繁	平成24年9月4日
	第32号	仲地 清	平成25年6月22日
	第33号	中村 誠司	平成25年6月22日
	第34号	上間 篤	平成25年6月22日
	第35号	宮里 捷	平成25年6月22日
	第36号	レイサムキャロライン C.	平成26年6月28日
	第37号	平識 善盛	平成27年6月28日
	第38号	稲垣 綱代	平成27年6月28日
	第39号	金城 祥教	平成28年3月26日
	第40号	金城 やす子	平成29年3月29日
第41号	金城 利雄	平成29年3月29日	
客員教授	氏名		
		小和田 恆	
		川嶋 辰彦	
		山谷 正己	
		西平 守孝	
		船戸 高樹	
		吉原 真理	
		ゲーリー・Y・オキヒロ	
		フランク・スチュアート	
		根路銘 国昭	
		野村 一成	
		我那覇 宗孝	
		佐藤 優	
		中路 重之	
	我部 政男		

# 組織図 教職員数

Organizational Chart/  
Number of Administrative and Teaching staff

## 組織図



## 教員数

平成29年5月1日現在

区分	教授			上級准教授			准教授			助教			合計			助手			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
学長	1	0	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	1	-	-	-	
国際学群	21	2	23	13	3	16	4	4	8	0	0	0	38	9	47	0	0	0	
人間健康学部	国際学類	4	1	5	2	1	3	4	1	5	1	0	1	11	3	14	0	0	0
	スポーツ健康学科	2	8	10	1	4	5	5	8	13	1	4	5	9	24	33	0	5	5
リベラルアーツ機構	0	1	1	1	1	2	1	1	2	1	0	1	3	3	6	0	0	0	
教職員総計	28	12	40	17	9	26	14	14	28	3	4	7	62	39	101	0	5	5	

## 職員数

平成29年5月1日現在

大学事務局長			部長・参与			課長・主幹			係長・主査			主任			係員			合計		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1	0	1	4	0	4	9	2	11	9	3	12	5	3	8	9	5	14	37	13	50

# 役員／教育研究審議会委員／ 経営審議会委員／大学役職員

Officers/  
Education and Research Council Members/  
Management Council Members/  
University Executive staff

## 役員(理事・監事)

平成29年5月1日現在

役職	氏名	所属先役職
理事長	比嘉 良雄	公立大学法人名桜大学理事長
副理事長	山里 勝己	名桜大学学長
理事	鈴木 啓子	名桜大学副学長
理事	當眞 淳	宜野座村長

役職	氏名	所属先役職
理事	山里 将雄	名護市副市長
理事	岸本 能子	名護市母子寡婦福祉会会長
監事	三宅 俊司	三宅俊司法律事務所
監事	原田 泰人	やんばる会計事務所

## 教育研究審議会委員

平成29年5月1日現在

役職	氏名	所属先役職
議長	山里 勝己	名桜大学学長
委員	鈴木 啓子	名桜大学副学長
委員	高嶺 司	名桜大学国際学群長
委員	砂川 昌範	名桜大学人間健康学部長
委員	木村 堅一	名桜大学リベラルアーツ機構長

役職	氏名	所属先役職
委員	小川 寿美子	名桜大学附属図書館長
委員	中村 浩一郎	名桜大学総合研究所長
委員	田代 豊	名桜大学大学院国際文化研究科長
委員	佐久川 政吉	名桜大学大学院看護学研究科長
委員	中里 収	名桜大学教務部長

## 経営審議会委員

平成29年5月1日現在

役職	氏名	所属先役職
議長	比嘉 良雄	公立大学法人名桜大学理事長
議長	山里 勝己	名桜大学学長
委員	高嶺 司	名桜大学国際学群長
委員	砂川 昌範	名桜大学人間健康学部長
委員	金城 正英	名桜大学事務局長

役職	氏名	所属先役職
委員	大門 達也	名桜大学同窓会長
委員	荻堂 盛秀	前名桜大学後援会長
委員	比嘉 克雄	北部広域市町村圏事務組合事務局長
委員	比嘉 幹郎	ザ・テラスホテルズ特別顧問・名桜大学名誉客員教授
委員	宮里 好一	医療法人クビック沖縄リハビリテーション病院理事長

## 大学役職員

平成29年5月1日現在

氏名	職名
比嘉 良雄	理事長
山里 勝己	学長・副理事長
鈴木 啓子	副学長
高嶺 司	国際学群長
砂川 昌範	人間健康学部長
木村 堅一	リベラルアーツ機構長
小川 寿美子	附属図書館長
中村 浩一郎	総合研究所長
田代 豊	大学院国際文化研究科長
佐久川 政吉	大学院看護学研究科長
高安 美智子	学長補佐(北部地域教育担当)
新垣 裕治	学長補佐(COC+担当)
住江 淳司	学長補佐(国際交流担当)
嘉納 英明	国際学群国際文化教育研究学系長
田邊 勝義	国際学群経営情報教育研究学系長
伊良皆 啓	国際学群観光産業教育研究学系長
奥本 正	人間健康学部スポーツ健康学科長
永田 美和子	人間健康学部看護学科長

氏名	職名
菅野 敦志	国際学群国際文化専攻長
小嶋 洋輔	国際学群語学教育専攻長
宮平 栄治	国際学群経営専攻長
田邊 勝義	国際学群情報システムズ専攻長
大城 真理子	国際学群診療情報管理専攻長
許 点淑	国際学群観光産業専攻長
島田 友子	助産学専攻科長
渡慶次 正則	外国語教育主任(言語学習センター長)
高安 美智子	数理学習センター長
奥本 正	ライティングセンター長
天願 健	メディアネットワークセンター長
板山 勝樹	教員養成支援センター長
前川 美紀子	保健センター長
住江 淳司	国際交流センター長
大城 凌子	地域連携機構長
高瀬 幸一	健康長寿サポートセンター長
永田 美和子	看護実践教育研究センター長
金城 正英	大学事務局長

# 大学の使命・目的および全学的 **三つのポリシー**

## 国際社会で活躍できる人材育成

名桜大学は、建学の精神「平和・自由・進歩」を基本理念とし、「国際社会で活躍できる人材の育成」を教育目標として、次のような人材を育成することを目指します。

1. グローバル化に対応できるコミュニケーション力（英語を含む外国語力、母語によるライティング力）、数理的分析能力、ICT 活用能力を持った人材
2. 豊かな教養と専門性、総合的な判断力と論理的な思考力、創造性、協調性、積極性、自立性、主体性を併せ持ち、生涯学び続けることができる人材
3. 自由な発想のもと、俯瞰的に問題を把握し解決する能力を有し、知性と感性のバランスのとれた円満な人格を備えた国際的教養人

このような人材を育成するために、以下の能力を身につけた学生に学位を授与します。

### I ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性
2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続けるための生涯学習力
3. 自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に思考し、解決する力
4. 多様な視点を尊重し、自らの考えをわかりやすく表現する力

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

### II カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

1. 豊かな教養と高度な専門知識を統合しつつ、グローバル化に対応できるコミュニケーション力（英語を含む外国語、母語によるライティング力）、数理的分析能力、ICT 活用力、現代社会の諸問題を解決する能力を4年間かけて育成できるカリキュラムを編成する。
2. 科目のナンバリングを行い、単位の実質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。
3. 全ての年次に地域社会や国際社会の課題に取り組む演習科目を配置することで、自立した主体的な学びを促すとともに、批判的・論理的な思考力を育成する。
4. 全ての学生を対象として教育課程における学習成果の中間評価を行うとともに、卒業論文等により最終評価を行う。

名桜大学の教育目標を達成するために、本学に入学を希望する人には以下のことを求めます。

### III アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

1. 豊かな個性と強い学習意欲を有し、主体的に取り組む姿勢をもっていること。
2. 基本的な学習スキルを活用し、他者との対話や議論を通して、現代社会の課題を理解・分析したうえで、自らの考えを多様な方法で表現できること。
3. 入学を希望する学群・学部・学科等の特徴を正しく理解し、その教育課程で学ぶために必要な知識・技能を持っていること。

# 国際学群の三つのポリシー

国際学群は、「平和・自由・進歩」の建学の精神に基づいた幅広い教養を持ち、言語文化、経営情報および観光産業分野で国際的に活躍する人材を育成します。

## I ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

### I-(1) 国際文化専攻／語学教育専攻

▶ 国際学群(国際文化専攻／語学教育専攻)は、以下の能力を身につけた学生に学士(国際文化学)の学位を授与します。

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性
2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続けるための生涯学習力
3. 自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に思考し、解決する力
4. 多様な視点を尊重し、自らの考えをわかりやすく表現する力
5. 高度な言語運用能力と多文化理解力を兼ね備え、地域社会や国際社会に貢献する力

### I-(2) 経営専攻／情報システムズ専攻／診療情報管理専攻

▶ 国際学群(経営専攻／情報システムズ専攻／診療情報管理専攻)は、以下の能力を身につけた学生に学士(経営情報学)の学位を授与します。

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性に加え、優れた実践力
2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続けるための生涯学習力と組織運営力
3. 自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に思考し、解決する力と自己検証力
4. 多様な視点を尊重し、自らの考えをわかりやすく表現するとともに、調整し統合する力
5. 社会変化や科学技術の革新を数量的に分析し、評価する力

### I-(3) 観光産業専攻

▶ 国際学群(観光産業専攻)は、以下の能力を身につけた学生に学士(観光産業学)の学位を授与します。

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性
2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続けるための生涯学習力
3. 自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に思考し、解決する力
4. 多様な視点を尊重し、自らの考えをわかりやすく表現する力
5. 社会の変化に対応し、地域社会や国際社会において観光産業の発展に貢献する力

## II カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

### II-(1) 国際文化専攻／語学教育専攻

▶ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 豊かな教養と高度な専門知識を統合しつつ、グローバル化に対応できるコミュニケーション力（英語を含む外国語力、母語によるライティング力）、数理的分析能力、ICT 活用力、現代社会の諸問題を解決する能力を4年間かけて育成できるカリキュラムを編成する。
2. 科目のナンバリングを行い、単位の実質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。
3. 全ての年次に地域社会や国際社会の課題に取り組む演習科目を配置することで、自立した主体的な学びを促すとともに、批判的・論理的な思考力を育成する。
4. 全ての学生を対象として教育課程における学習成果の中間評価を行うとともに、卒業論文等により最終評価を行う。
5. 沖縄を含む国内外の諸地域における言語と文化の体系的学習を行い、知識を実践する機会として実習科目を配置する。
6. 専門知識や技術を統合し、問題解決力と創造力を育成するため、卒業研究を実施し、丁寧な個別指導を行う。

### II-(2) 経営専攻／情報システムズ専攻／診療情報管理専攻

▶ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 豊かな教養と高度な専門知識を統合しつつ、グローバル化に対応できるコミュニケーション力（英語を含む外国語力、母語によるライティング力）、数理的分析能力、ICT 活用力、現代社会の諸問題を解決する能力を4年間かけて育成できるカリキュラムを編成する。
2. 科目のナンバリングを行い、単位の実質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。
3. 全ての年次に地域社会や国際社会の課題に取り組む演習科目を配置することで、自立した主体的な学びを促すとともに、批判的・論理的な思考力を育成する。
4. 全ての学生を対象として教育課程における学習成果の中間評価を行うとともに、卒業論文等により最終評価を行う。
5. 学生が自主的に計画・行動・検証・改善できる実習・演習を重視したカリキュラムを編成する。

## II-(3) 観光産業専攻

- ▶ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。
1. 豊かな教養と高度な専門知識を統合しつつ、グローバル化に対応できるコミュニケーション力(英語を含む外国語力、母語によるライティング力)、数理的分析能力、ICT 活用力、現代社会の諸問題を解決する能力を4年間かけて育成できるカリキュラムを編成する。
  2. 科目のナンバリングを行い、単位の実質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。
  3. 全ての年次に地域社会や国際社会の課題に取り組む演習科目を配置することで、自立した主体的な学びを促すとともに、批判的・論理的な思考力を育成する。
  4. 全ての学生を対象として教育課程における学習成果の中間評価を行うとともに、卒業論文等により最終評価を行う。
  5. 地域社会や国際社会で観光産業の発展に貢献できる人材を育成するため、観光ビジネスや観光政策、環境・エコツーリズム、観光文化などの専門科目を設置する。

## III アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

- ▶ 国際学群の教育目標を達成するために、本学群に入学を希望する人には以下のことを求めます。
1. 豊かな個性と強い学習意欲を有し、主体的に取り組む姿勢を持っていること。
  2. 基本的な学習スキルを活用し、他者との対話や議論を通して、現代社会の課題を理解・分析したうえで、自らの考えを多様な方法で表現できること。
  3. 国際学群の特徴を正しく理解し、高等学校教育における教科(英語、数学、国語、理科、社会等)の内容をバランスよく修得していること。

# 人間健康学部スポーツ健康学科の三つのポリシー

スポーツ健康学科は、健康に生きるために、人間の「からだ」と「こころ」や人間をとりまく「社会」について科学的に探究し、知・徳・体のバランスのとれた能力を備え、健康寿命の延伸に寄与できる健康支援人材を育成します。

## I ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)

- ▶ スポーツ健康学科は、以下の能力を身につけた学生に学士(スポーツ健康学)の学位を授与します。
1. 高い倫理観を持ち、社会人として必要な幅広い教養およびスポーツ健康科学分野における専門的知識・技能
  2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続けるための生涯学習力
  3. 自由な発想で課題を発見・設定し、批判的・論理的に思考・判断しつつ解決する力。また、その内容をわかりやすく表現する力
  4. 多様な視点を尊重し、協働して問題を解決していくために必要なチームワークやリーダーシップ
  5. 心身ともに健康に生きるため、自己の可能性を肯定的に考え、自らを律しながら、主体的・計画的に行動する力

## II カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施方針)

- ▶ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。
1. 豊かな教養と高度な専門知識を統合しつつ、グローバル化に対応できるコミュニケーション力(英語を含む外国語力、母語によるライティング力)、数理的分析能力、ICT 活用力、現代社会の諸問題を解決する能力を4年間かけて育成できるカリキュラムを編成する。
  2. 科目のナンバリングを行い、単位の実質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。
  3. 全ての年次に地域社会や国際社会の課題に取り組む演習科目を配置することで、自立した主体的な学びを促すとともに、他者との対話や議論を通して批判的・論理的な思考力を育成する。
  4. 全ての学生を対象として教育課程における学習成果の中間評価を行うとともに、3年次および4年次における卒業研究演習を必修科目と位置づけ、卒業論文等により最終評価を行う。
  5. スポーツおよび健康に関する専門基礎科目群を配置する。専門性を高めるため、2年次から「スポーツ領域」または「健康領域」を選択し、より探究的な専門科目群を配置する。

## III アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

- ▶ スポーツ健康学科の教育目標を達成するために、本学科に入学を希望する人には以下のことを求めます。
1. 豊かな個性と強い学習意欲を有し、主体的に取り組む姿勢を持っていること。
  2. 基本的な学習スキルを活用し、他者との対話や議論を通して、現代社会の課題を理解・分析したうえで、自らの考えを多様な方法で表現できること。
  3. スポーツ健康学科の特徴を正しく理解し、高等学校教育における教科を全般的に修得していること。また、スポーツ健康科学に必要な保健および体育の内容について基礎的・基本的な知識および技能を身につけていることが望ましい。
  4. 健康を科学的視点から探究し、地域社会や国際社会において健康づくりを支援する意欲があること。
  5. スポーツ科学や健康科学に興味・関心があり、大学においても習慣的な運動や健康づくりの意欲があること。

# 人間健康学部看護学科の三つのポリシー

看護学科は、人間としての尊厳・健康に生きる権利を擁護し、自己評価能力・自己教育力を身につけ、広く社会に貢献できる看護職者を育成します。

## I ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)

- ▶ 看護学科は、以下の能力を身につけた学生に学士(看護学)の学位を授与します。
1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性を兼ね備え、生命の尊厳と人権を尊重し擁護する力
  2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続けるための生涯学習力
  3. 自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に思考し、解決する力を身につけ、人々の健康と福祉に寄与する力
  4. 多様な視点を尊重し、自らの考えをわかりやすく表現する力
  5. 看護を必要とする人を全人的に捉え、科学的根拠に基づき、看護を計画的に実践する力
  6. 自律性と参画力を備え、関連する専門職者および地域と協働・連携する力

## II カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施方針)

- ▶ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。
1. 豊かな教養と高度な専門知識を統合しつつ、グローバル化に対応できるコミュニケーション力(英語を含む外国語力、母語によるライティング力)、数理的分析能力、ICT 活用力、現代社会の諸問題を解決する能力を4年間かけて育成できるカリキュラムを編成する。
  2. 科目のナンバリングを行い、単位の実質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。
  3. 全ての年次に地域社会や国際社会の課題に取り組む演習科目を配置することで、自立した主体的な学びを促すとともに、他者との対話や議論を通して批判的・論理的な思考力を育成する。
  4. 全ての学生を対象として教育課程における学習成果の中間評価を行うとともに、卒業論文等により最終評価を行う。
  5. 看護学の専門基礎教育科目および専門性を探求する専門教育科目を適切に配置する。
  6. 4年間を通して学生主体・参画型の少人数教育を実施し、「自己との対話」「他者との対話」「地域社会との対話」を通して自己教育力を育む。
  7. 専門的な知識・技術を統合し、看護の専門性を発展させる能力や態度を育む。

## III アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

- ▶ 看護学科の教育目標を達成するために、本学科に入学を希望する人には以下のことを求めます。
1. 豊かな個性と強い学習意欲を有し、主体的に取り組む姿勢を持っていること。
  2. 基本的な学習スキルを活用し、他者との対話や議論を通して、現代社会の課題を理解・分析したうえで、自らの考えを様々な方法で創造的に表現できること。
  3. 看護学科の特徴を正しく理解し、文系・理系に偏ることなく高等学校教育における基礎的な学力を身につけていること。なお、生命科学の基礎となる生物、化学については、基礎的な知識を身につけておくことが望ましい。

# 国際文化研究科の三つのポリシー

国際文化研究科は、グローバル化、情報化が進展する国内外の諸課題に対応できる高度専門職業人および研究能力を有する人材を育成します。

## I ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

▶ 国際文化研究科は、以下の能力を身につけた大学院生に修士(国際文化)の学位を授与します。

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性に支えられた高度な研究能力
2. 地域社会や国際社会の課題に取り組み探求し続ける生涯学習力
3. 自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に思考し、解決する力
4. 多様な文化と視点を理解・尊重し、自らの研究成果を明晰に表現する力

## II カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

▶ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 豊かな教養、深い専門性、高い倫理性に支えられた高度な研究能力を育成できるカリキュラムを編成する。
2. 科目のナンバリングを行い、単位の実質化を図り、多様な教育方法を実践しながら国際基準に沿った教育を行う。
3. 全ての学生を対象として、修士論文の中間評価を行うとともに、修士論文審査に合格することを修了の条件とする。
4. 国際的かつ学際的な広い視野と洞察力を持って問題を解決するために、総合的・科学的に取り組むことができる高度な能力を養うことを目的として、「共通科目」および以下の各領域の「教育研究領域科目」を配置する。

### 【言語文化教育研究領域】

沖縄と日本に加え、環太平洋地域（アジア、中南米、北米地域）の言語と文化を探究する人材を養成するための科目等を配置する。

### 【社会制度政策教育研究領域】

グローバル化、情報化が進展する国内・国際社会において、広い視野と洞察力を持って問題を解決する人材を養成するための科目等を配置する。

### 【経営情報教育研究領域】

グローバルな立場から地域社会や国際社会の問題を俯瞰的・客観的に分析し、地域の経済、産業、情報化を担う人材を養成するための科目等を配置する。

### 【観光環境教育研究領域】

観光に関する学術的な研究を通じて、沖縄をはじめとする諸地域が直面する問題に総合的かつ科学的に取り組む人材を養成するための科目等を配置する。

### 【健康科学教育研究領域】

国際的かつ学際的な視野と人間の健康に関する総合的な知識・技能を養うとともに、自立的・創造的な研究に取り組む人材を養成するための科目等を配置する。

## III アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

▶ 国際文化研究科の教育目標を達成するために、本研究科に入学を希望する人には以下のことを求めます。

1. 強い研究意欲を有し、何事にも主体的に取り組む姿勢を持っていること。
2. 専門分野の基本的な研究手法を活用し、現代社会の課題を正確に理解・分析したうえで、その結果を様々な方法で創造的に表現できること。
3. 本研究科教育課程で学ぶために必要な基本的知識・技能を有すること。

なお、各教育研究領域では次のような人材を求める。

### 【言語文化教育研究領域】

言語を中心とする人間の文化に関する独創的な研究を計画し遂行することを目的とし言語や文化の領域でグローバルな視点から貢献できる人材

### 【社会制度政策教育研究領域】

グローバル化が進展する現代社会を背景にして、国内諸問題に関心を寄せ、歴史、政治、経済、法律、国際関係などの視点から究明し、その解決策を提言する政策立案者、研究者を目指す人材

### 【経営情報教育研究領域】

専門的職業人として地域の経済、産業、情報化、人材育成に貢献できる高い研究意欲を有する人材

### 【観光環境教育研究領域】

観光を文化、亜熱帯性・海洋性・島嶼性に関する環境、政治経済の視点から総合的に研究するために、観光学についての基盤となる知識を有する人材

### 【健康科学教育研究領域】

人間の健康とスポーツの諸科学についての基本的な理解と、今後の展開について考究し、地域社会や国際社会の健康に関して、健康科学の視点から学術的に探求できる人材

# 看護学研究科の三つのポリシー

看護学研究科は、健康問題を創造的に解決できる専門性の高い看護実践能力と教育研究能力を有する人材を育成します。

## I ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

▶ 看護学研究科は、以下の能力を身につけた大学院生に修士(看護学)の学位を授与します。

1. 科学的思考と倫理的・文化的感受性に基づいた研究能力
2. 地域社会や看護の課題に取り組み、看護学の専門性を探求する生涯学習力
3. 地域の特性を踏まえ保健医療ニーズを分析し、多職種と協働し看護を実践する能力
4. グローバルな視野で、看護の役割を創造する能力

## II カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

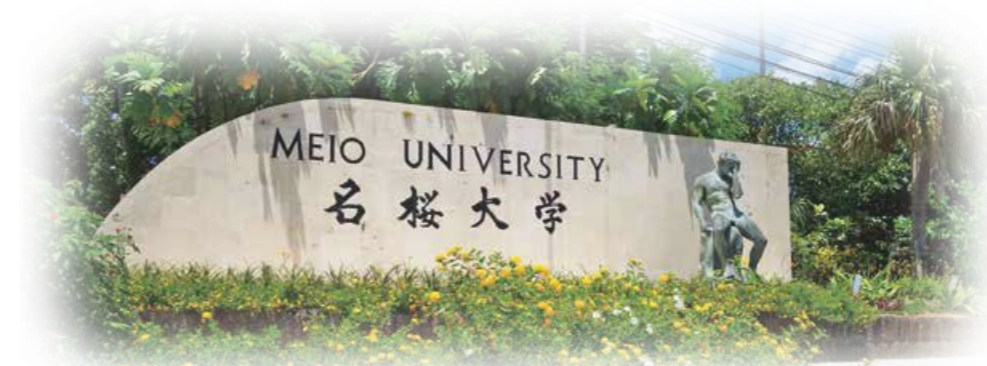
▶ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)であげた能力を育成するため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 看護専門職として実践・研究を遂行するにあたり、基盤となる批判的・論理的思考力を育成するために、共通必修科目と共通選択科目を配置する。
2. 看護実践および研究の質の向上に資する専門科目を配置し、志向する専門分野（基盤看護学分野、臨床看護学分野）における看護学の専門性を探求する能力を育成する。
3. 研究方法、研究デザイン、研究計画等、研究に必要な基礎を修得する演習科目（専門演習）および修士論文を作成する研究科目（特別研究）を配置する。
4. 修士論文の中間評価を行うとともに、修士論文審査に合格することを修了の条件とする。

## III アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

▶ 看護学研究科の教育目標を達成するために、本研究科に入学を希望する人には以下のことを求めます。

1. 看護学の発展に向けて、自ら進んで取り組む意欲と探求する姿勢を持っていること。
2. 多様化・複雑化・高度化する看護ニーズに応えるため、高度な知識、看護実践能力および研究能力の習得を目指していること。
3. 看護実践・教育・研究を通して地域社会や国際社会に貢献する意思を持っていること。
4. 本研究科教育課程で学ぶために必要な基本的知識・技能を有していること。





## 名桜大学の教育目標

本学は、教育基本法および学校教育法に基づき深く専門の学芸を教授研究し、幅広い知識を授け、世界の文化の進展と人類の平和に貢献しうる人材を育成することを目的とする。

## 教養教育の目標

自由な発想のもと、批判的・論理的に思考し分析して、俯瞰的に問題を解決する能力を培うとともに、知性と感性のバランスのとれた円満な人格を備えた国際的教養人を育成することを目標とする。

## 共通コア科目の目標と科目群

共通コア科目は、大学で学ぶことの意義について考えるとともに、市民的生活のために必要となる基盤を形成することを目標とする。

科目区分	目標	科目
アカデミックスキル	アカデミックスキル科目は、大学生活に適應し、学習意欲を向上させ、主体的に学ぶための基礎的なスキルを修得することを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教養演習Ⅰ～Ⅱ</li> <li>● コンピュータ・リテラシー</li> <li>● アカデミックライティングⅠ～Ⅱ</li> <li>● アカデミックスキル特別講義</li> </ul>
ライフデザイン	ライフデザイン科目は、学生が主体性と創造性を持ち、大学で学ぶことの意義を理解し、生涯の生活設計を描き、実現するために必要な知識や方法を修得することを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大学と人生</li> <li>● キャリアデザイン</li> <li>● プロジェクト学習</li> <li>● ライフデザイン特別講義</li> </ul>
思想と論理	思想と論理科目は、ひとつの視点にとらわれることなく、批判的・論理的に思考し分析して、俯瞰的に問題を解決する能力を培うことを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人間と環境</li> <li>● 生命と倫理</li> <li>● 科学入門</li> <li>● 論理学</li> <li>● 思想と論理特別講義</li> </ul>
沖縄理解	沖縄理解科目は、自らが生活する沖縄の歴史、文化、社会、自然を理解し、国際人として情報を発信できる能力を養うことを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 沖縄学</li> <li>● 沖縄の自然</li> <li>● 沖縄の言語</li> <li>● 沖縄理解特別講義</li> </ul>
健康スポーツ	健康スポーツ科目は、健康・体力を増進するための健康科学に関する知識やその実践能力を獲得し、精神のおよび身体的にバランスのとれた人間性を有する人材の育成を目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 体育実技Ⅰ～Ⅱ</li> <li>● 健康・スポーツ科学</li> <li>● 健康スポーツ特別講義</li> <li>● 健康スポーツ特別実技</li> </ul>

## 共通選択科目の目標と科目群

共通選択科目は、ひとつの視点にとらわれることなく、人間存在の成り立ちを基本から考察し、平和の価値についての理解を深め、目的実現のために主体的に行動し、国際化社会の中で問題解決能力を養うことを目標とする。

科目区分	目標	科目
外国語	外国語科目は、グローバル化する社会の中で、外国語を理解し、異文化理解やコミュニケーション能力を身につけ情報を発信できる基礎的な学力の修得を目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ベーシック・イングリッシュⅠ～Ⅱ</li> <li>● イングリッシュ・コミュニケーションⅠ～Ⅱ</li> <li>● アカデミック英語基礎</li> <li>● ドイツ語Ⅰ～Ⅱ</li> <li>● フランス語Ⅰ～Ⅱ</li> <li>● スペイン語Ⅰ～Ⅱ</li> <li>● ポルトガル語Ⅰ～Ⅱ</li> <li>● 中国語Ⅰ～Ⅱ</li> <li>● 韓国語Ⅰ～Ⅱ</li> <li>● タイ語Ⅰ～Ⅱ</li> <li>● プラクティカルイングリッシュⅠ～Ⅱ</li> <li>● ビジネス英語Ⅰ～Ⅱ</li> <li>● 外国語特別講義</li> </ul>
国際理解	国際理解科目は、グローバル化、情報化する社会の中で、多様な価値観や考えを理解し、主体的に行動できる資質を身につけることを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国際学入門</li> <li>● 異文化接触論</li> <li>● 国際社会と日本</li> <li>● 人権と平和</li> <li>● 国際コミュニケーション論</li> <li>● 海外スタディツアー</li> <li>● 国際理解特別講義</li> </ul>
人文科学	人文科学科目は、人間と文化の歴史および人間としてのあり方や生き方を理解し、知性と感性のバランスのとれた円満な人格を形成する上で必要な知識を身につけることを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生活と音楽</li> <li>● 美術の歴史と鑑賞</li> <li>● 哲学</li> <li>● 心理学</li> <li>● 歴史学</li> <li>● 教育学</li> <li>● ヒューマンケアリング</li> <li>● 文学</li> <li>● 人文科学特別講義</li> </ul>
社会科学	社会科学科目は、様々な角度から社会のしくみを理解し、社会の一員であることの自覚と責任感を持ち生きていく力を涵養することを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 法学</li> <li>● 憲法</li> <li>● 政治学</li> <li>● 経済学</li> <li>● 経営学</li> <li>● 社会学</li> <li>● 人文地理学</li> <li>● 社会科学特別講義</li> </ul>
自然科学	自然科学科目は、自然や物の成り立ちについて理解し、論理的に思考する能力を身につけるとともに、情報化する社会に参画する知識を養うことを目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 数学</li> <li>● 統計学</li> <li>● 物理学</li> <li>● 化学</li> <li>● 生物学</li> <li>● 地学</li> <li>● 情報科学と社会</li> <li>● 自然科学特別講義</li> </ul>

リベラルアーツ機構は、豊かな感性と知性を持った円満な人格形成を目指す「名桜大学型リベラルアーツ教育」を推進し、多様化する学生のニーズに対応するリベラルアーツ教育プログラムの開発・運用および学習支援を図ることを目的として平成27年に開設した。

## リベラルアーツ機構の業務内容

リベラルアーツ機構の目的を達成するために(1)全学的な教養教育課程の運営、(2)全学的な学生の教育交流の実施、(3)全学的な学習支援の実施、(4)全学的な教養教育方法の改善、(5)全学的な教養教育課程の運営並びに学習支援実施の自己点検・評価、(6)全学的な教養教育課程の学年暦、時間割編成、登録等の手続き、(7)リベラルアーツ機構および学習支援センターの運営、(8)学生会館SAKURAUM運営に係る連絡調整などを行うとともに、学習支援を行う言語学習センター、数理学習センター、ライティングセンターを設置し運用している。

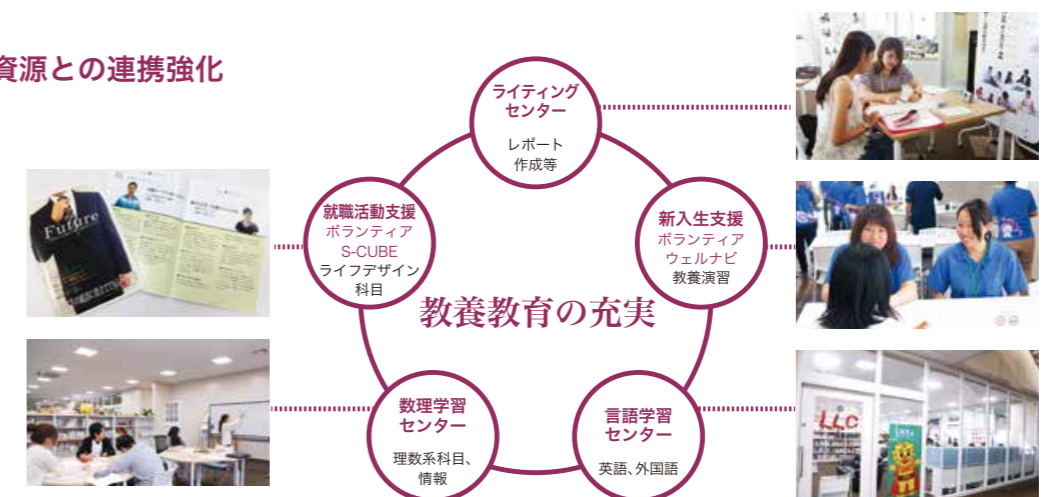
また、機構の活動の拠点を学生会館SAKURAUMに置き、教養教育の運営、学習支援センターの運営、学習環境づくりのマネジメントが連携できる体制を整えつつある。

## 教育スタッフ

平成29年5月1日現在

リベラルアーツ機構	機 構 長	木村 堅一 教授(国際学群所属)
	副 機 構 長	小番 達 教授(国際学群所属)
言語学習センター	セン ター 長	渡慶次 正則 教授(国際学群所属)
	副センター長	メーガン クックルマン 准教授(国際学群所属)
	担 当 教 員	笠村 淳子 助教(リベラルアーツ機構所属)
数理学習センター	セン ター 長	高安 美智子 教授(リベラルアーツ機構所属)
	副センター長	大城 真理子 上級准教授(国際学群所属)
ライティングセンター	セン ター 長	奥本 正 教授(人間健康学部スポーツ健康学科所属)
	副センター長	小番 達 教授(国際学群所属)
	担 当 教 員	真喜屋 美樹 准教授(リベラルアーツ機構所属)
外国語教育	中 国 語 教 育	山城 智史 上級准教授(リベラルアーツ機構所属)
		賀 南 上級准教授(リベラルアーツ機構所属)
	英 語 教 育	タン エイハン 准教授(リベラルアーツ機構所属)
		玉城 本生 助教(リベラルアーツ機構所属)

## 学内資源との連携強化



リベラルアーツ機構は教養教育カリキュラムや学習支援プログラムの開発と運用に力を入れている。具体的には、新入生の学力把握(入学時共通テスト)、GPA制度の実質化、授業評価アンケートに基づく新カリキュラムの評価・点検を、科目責任教員とともに推進し、また、教養教育を担う教員用のFD(ファカルティ・ディベロップメント)や、専任講師と非常勤講師との連携の場をつくることに力を入れている。通常の授業時間だけでは十分な教育効果は保証されないため、先輩・後輩コミュニティを活用した学習支援・学生支援プログラムの開発と運用、そしてTA・SA制度の点検・改善を積極的に行い、着実に教養教育および学習支援のPDCAサイクルを運用することが目標となっている。

言語学習センター(LLC) 学生会館サクラム 4階

平成13年4月開設



Language Learning Center (通称LLC)。国際語としての英語と留学生を対象とした日本語の二つをメインに、名桜大学で科目を開講しているスペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語、タイ語、ドイツ語、フランス語の計9か国語の辞書や資料などを揃え、学生の自主学習の場を提供している。

また、留学生を含む専属の学生チューターが利用者へのアドバイス、自主学習へのサポートを行っている。トレーニングプログラムを修了した学生チューターは、米国のいくつかの教育機関からなるCRLA(College Reading and Learning Association)が発行認定しているITTPC(International Tutor Training Program Certification)のチューター資格を得ることができる。LLCでは、学生チューターによる語学ワークショップも開催しており、利用者に異文化交流も提供している。

※LLCの教材(平成29年3月)

各国語の教材 (辞書・資料・その他)	英語 関連	日本語	スペイン	ポルトガル	韓国	中国	タイ	フランス	ドイツ	インドネシア	ベトナム	アラビア	その他
合計	2,615	319	48	13	33	31	12	18	23	15	8	2	506
語学教材総数 3,643													

※現在、新図書システム導入の為、本館の全冊数を確認中(平成29年5月現在)

ライティングセンター(MWC) 学生会館サクラム 4階

平成27年4月開設



Meio Writing Center(通称 MWC)は、2016 年度に開室。ライティングセンターとは学生のレポートや論文作成をサポートする場所で、MWC は、沖縄県内の大学では唯一の組織的に文章作成を支援する仕組みが整ったセンターである。

MWC では、学部生がチューターを担うという全国でも珍しいライティング支援を行っており注目を集めている。実際のチュータリングでは、トレーニングを受けたチューターが「持ち込まれた文章のどこに問題があるのか?」「書き手はどの辺りで問題を抱えているのか?」などを学生の皆さんと一緒に考え、学生自身の気づきを促していく。このようなチュータリングを通して、MWC は書き手である学生自らの書く力を養うことを目指している。

数理学習センター(MSLC) 学生会館サクラム 4階

平成21年5月開設



Mathematical Science Learning Center (通称 MSLC)。数理学習センターでは学生チューターが中心となり、数理系科目を中心とした学習支援とセンター運営を行っている。数理系の教科書、参考書、問題集の他、SPI 問題集や公務員試験対策問題集等も取り揃えており、施設内で自習をしながらチュータリングを受けることもできる。また、センターには SPSS が使える PC があり、卒業研究の資料作りなどにも気軽に利用できる。

数理学習センターの特色は、数理系科目の授業連携で 15 週計画的・継続的に受講生の学習支援を行っていることである。数学が苦手な学生にとって、心強い学習支援センターとなっている。さらに、専任教員とチューターが協働でチューター育成プログラムを開発し、チューターの数理能力の向上と社会人基礎力の向上を目指して、毎週チュータートレーニングを行っている。チューター同士の学び合いで MSLC 運営を継承・発展させているのも MSLC の特徴である。

他学生支援機関

S-CUBE(キャリア形成支援の学生団体) 学生会館 SAKURAU 5階

平成22年3月開設



S-CUBE(エス・キューブ)は、「名桜生の名桜生による名桜生のためのキャリア形成支援を行う学生団体」である。S-CUBE は、学生の目線でキャリア支援課に対し、学生のキャリア形成に関する提案を行っている。また、キャリアコーチやキャリア支援課と連携し、就活意欲向上のためのイベントやセミナーの企画、名桜生に特化した就活冊子(Future)を発行している。さらに、学生へキャリア開発委員会及びキャリア支援課が提供する『就職ガイダンス』の参加を促すメッセージャー、キャリア支援課及び就職相談員の活用を促すナビゲーターの役割を果たしている。

名桜ウェルナビ 学生会館 SAKURAU 5階

平成19年4月開設



ボランティアで構成される新入生支援組織。先輩学生が新入生に大学生活や履修方法などをアドバイスする。また、学内のイベントの企画・運営も行う。

平成28年度 主な活動実績

- 新入生サポート(履修登録等、学生生活全般の相談)
- 新入生交流会・歓迎レク
- オープンキャンパス学生スタッフ
- 教養演習のボランティアチューター
- 学内美化活動
- 名桜杯(草野球大会)運営

教員養成支援センター 学生会館 SAKURAU 5階

平成18年7月開設



教員養成支援センターでは、小中学校の教職経験豊かなスタッフが、教職を希望する学生の支援活動を行っている。また1年次から4年次までの系統的な教員養成プログラムを提供し、教育現場に適応した質の高い教育実践者の育成をめざしている。年間を通じて、支援センター主催の教職に関わる様々な行事を計画・実施している。たとえば、教員採用試験対策講座や全国模擬試験を実施し、また学生に人気のある教職合宿(伊江島、一泊二日)、教職学びの旅(平成22年度:台湾台北市、平成24年度:石垣島・黒島・竹富島・小浜島、平成25年度:台湾台北市、平成26

年度:石垣島・竹富島)、南部平和学習会等である。

本学は、名護市を含む北部11市町村教育委員会と教育に関する相互協力関係の協定を結び、多くの教職履修生は、小中学校等の学習支援ボランティアとして活躍している。夏期休業期間には、国頭村、伊是名島・伊平屋島・水納島での滞在型学習支援ボランティア(1週間程)も実施している。教職の学生リーダーは、毎年、独自の学生行事を企画・実施し、教職履修生のつながりを強めている。

メディアネットワークセンター(MNC)

平成13年6月開設



Media Network Center (通称 MNC) では、情報関連技術を用いて本学の教育・研究に係る情報処理の高度化を促進している。

学内外のネットワーク監視を行い、安全かつ安定したネットワーク環境の提供を実現している他、PC・ソフトウェア操作指導や導入に係る検討を行っている。

また、「アクティブラーニング教室」を設置し、PC やタブレットの貸出、大型モニターを使用し、プレゼンテーションが行える環境を整え、自主学習の推進を行っている。

## 個性豊かな人材の育成を目指す6つの専攻

国際学群は、21世紀地球市民として、「地域社会及び国際社会で活躍できる人材」を育成する。すなわち、地球規模での協調・共生と、一方で国際競争力の強化が求められる時代の中で、柔軟かつ総合的に判断できる能力の育成が重要であるという認識のもとに、多様なニーズに対応できる人材を育てることを教育目標としている。

### 取得できる免許

- 中・高等学校教諭一種免許状(英語)
- 高等学校教諭一種免許状(商業)
- 高等学校教諭一種免許状(情報)

### 取得を目指す資格

- 英語検定
- TOEFL
- 中国語検定
- スペイン語検定
- 漢字検定
- 日本語検定
- 日本語教育能力検定試験
- CRLA(学習支援チューター)
- 日商簿記検定
- 診療情報管理士受験資格
- 基本情報技術者
- ITパスポート
- .com Master
- 観光ビジネス実務士
- CONEリーダー(自然体験リーダー)
- 観光英語検定
- 国内旅行取扱業務管理者
- 総合旅行業務取扱管理者
- 環境カウンセラー
- パーソナル・トレーナー
- キャンプインストラクター
- スクーバダイビング
- 数学検定
- 統計検定
- 医療情報基礎知識検定 など

### 現地実習・インターンシップ(派遣実績推移)

#### 1. 現地実習派遣学生数(人)

コース	年度						合計
	1996~2011 平8~平23	2012 平24	2013 平25	2014 平26	2015 平27	2016 平28	
中南米コース	665	4	12	8	—	ポルトガル語圏コース 2 スペイン語圏コース 5	696
アジアコース	261	4	23	7	東アジアコース 6 東南アジアコース 6	東アジアコース 6 東南アジアコース 5	318
英語圏コース	128	6	5	6	3	6	154
沖縄・日本コース	129	1	5	13	10	7	165
日本コース	—	—	—	12	4	5	21
国際協力コース	—	9	7	8	13	14	51
教育支援コース	—	—	9	11	7	10	37
合計	1,183	24	61	65	49	60	1,442

※国際学部国際文化学科(～平成20年度)・国際学群(平成21年度～)

#### 2. インターンシップ派遣学生数(人)

派遣地	年度						合計
	1996~2011 平8~平23	2012 平24	2013 平25	2014 平26	2015 平27	2016 平28	
県内企業・事業所等	2,050	140	142	130	131	110	2,757
県外企業・事業所等		0	2	20	20	12	
合計	2,050	140	144	150	151	122	2,757

※国際学部経営情報学科・観光産業学科(～平成20年度)、国際学群(経営専攻、情報システムズ専攻、診療情報管理専攻、観光産業専攻。平成21年度～)

#### 3. 海外インターンシップ派遣学生数(人)

年度	2001~2011	2012	2013	2014	2015	2016	合計
	平13~平23	平24	平25	平26	平27	平28	
合計	34	4	9	5	4	2	58

※国際学部観光産業学科(～平成20年度)・国際学群観光産業専攻(平成21年度～)

※派遣地:マレーシア、台湾、韓国

### 国際学群教育スタッフ 平成29年5月1日現在

学群長 高嶺 司

#### 国際文化教育研究学系

教授 板山 勝樹 嘉納 英明 小番 達 シャイヤステファロック 住江 淳司 高嶺 司 渡慶次 正則 中村 浩一郎  
山田 均 与那覇 恵子 李 鎮榮  
上級准教授 上江洲 基 小嶋 洋輔 菅野 敦志 照屋 理 ノーマン・フィーウェル 屋良 健一郎  
准教授 上原 なつき メーガン・クックルマン 迫田 幸栄

#### 経営情報教育研究学系

教授 アリ、ファテヘルアリム、F 木村 堅一 金城 亮 佐久本 功達 田邊 勝義 仲尾次 洋子 中里 収 宮平 栄治  
上級准教授 アラスーン・ピーターM 大城 真理子 大城 渡 天願 健 林 優子  
准教授 上門 要 大城 美樹雄 草野 泰宏

#### 観光産業教育研究学系

教授 新垣 裕治 田代 豊 朴 在徳 長谷川 順一郎  
上級准教授 伊良 皆 啓 大谷 健太郎 角谷 尚久 許 点淑 宮城 敏郎  
准教授 卯田 卓矢 柳 銀珠

(職階内五十音順)

### 6つの専攻

#### 国際文化専攻



沖縄県が持つ地理的、歴史的、文化的条件を活用し、アジア、中南米、日本などの環太平洋地域で活躍できる国際性豊かな人材を育成する。

- 教育分野
- 沖縄コース
  - 東アジアコース
  - 中南米コース
  - 日本コース
  - 東南アジアコース
  - 国際協力コース

学士(国際文化学)

#### 語学教育専攻



国際共通語としての英語力、および母語である日本語力を実践的、専門的レベルにおいて養成する。言語を通して自己を深く探究し他者に広く関わり、幅広い教養と高い専門力を持った、地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成する。

- 教育分野
- 英語コミュニケーション
  - 英語教師としての専門
  - 日本語教師としての専門

学士(国際文化学)

#### 経営専攻



社会や企業経営の諸問題の解決に必要な経営の専門的知識、課題設定力、情報収集力、情報分析力、プレゼンテーション能力、グループ力、マネジメント力を理論と実践を通じて育成する。

- 教育分野
- 人間行動システム
  - 社会制度システム
  - 企業経営システム
  - 情報管理システム

学士(経営情報学)

#### 情報システムズ専攻



情報技術と社会人基礎力を磨くとともに情報活用能力、システム思考能力、問題解決能力を有する人材を育成する。

- 教育分野
- ネットワーク技術
  - システム開発
  - 情報管理
  - デジタルコンテンツ

学士(経営情報学)

#### 診療情報管理専攻



医療現場の現象を数量化・文章化した医療情報を作成し、可視化することで業務改善ができる医療情報のプロフェッショナルを育成する。

- 教育分野
- 医学領域
  - IT 領域
  - 経営領域
  - 診療情報管理領域

学士(経営情報学)

#### 観光産業専攻



観光・ホスピタリティ産業を通して国際社会と地域社会に貢献できる多様な能力を持ったスペシャリストを育成する。

- 教育分野
- 観光政策・ビジネス研究
  - 環境・エコツーリズム研究
  - 観光文化ガイド研究

学士(観光産業学)

### 目指す進路・就職先

- 公務
- 教育・学習支援業
- 専門・技術サービス業
- 卸売業・小売業
- 流通
- 金融業・技術サービス業
- 情報通信業
- 医療、福祉
- 宿泊業・飲食店
- 生活関連サービス業、レジャー産業
- 中学校教諭(英語)
- 高等学校教諭(英語、商業、情報)
- 診療情報管理士
- 国内外への大学院進学
- その他



### 専門教育科目

#### 学類共通専門教育科目

##### 人文科学系科目

- 日本語理解論
- 日本文化概論
- 文化人類学
- 人間関係論
- 日本語表現論

##### 社会科学系科目

- 経営統計学
- 観光学概論
- 地域研究方法論
- 社会調査法
- 経営情報論
- 地域社会論
- 社会心理学

##### 自然科学系科目

- コンピュータ概論
- 情報処理論
- 情報化社会論
- 自然保護論
- 沖縄の天然記念物
- 島嶼環境論
- 情報と職業

##### 学際・統合系科目

- 国際学群特別講義
- 国際文化系基礎演習
- 語学教育系基礎演習
- 経営系基礎演習
- 情報システムズ系基礎演習
- 診療情報管理系基礎演習
- 観光産業系基礎演習
- 国際文化専門演習Ⅰ～Ⅳ
- 経営情報専門演習Ⅰ～Ⅳ
- 観光産業専門演習Ⅰ～Ⅳ

合計.....  
国際学群の総科目数 321 科目  
(教養教育科目 78 科目、  
外国人留学生対象科目9 科目含)

学位.....  
学士 (国際文化)  
学士 (経営情報学)  
学士 (観光産業学)

学位の分野.....  
文学関係  
経済学関係  
社会学・社会福祉学関係

卒業要件.....  
教養教育科目 44 単位以上  
専門教育科目 必修8単位、選択46単位  
合計54単位以上  
自由選択科目 26 単位以上  
卒業要件単位数 合計124単位以上

授業期間等.....  
1 学期の学期区分 2 学期  
1 学期の授業期間 15 週  
1 時限の授業時間 90 分

#### 専攻専門教育科目

##### 人文科学系科目

- 漢文講読
- 書写・書道概論
- 中級英語リスニング
- 中級オーラルコミュニケーション
- 中級英語講読
- 中級英作文
- 比較芸術論
- 比較宗教論
- 比較思想論
- 日本の歴史
- 英米文化概論Ⅰ
- 英米文化概論Ⅱ
- 異文化コミュニケーション論
- 沖縄地域文化論
- 島嶼文化論
- 観光文化論
- 比較映像文化論
- 言語学概論Ⅰ
- 言語学概論Ⅱ
- 日本語学概論
- 南島歌謡
- 日本語学史
- 中南米の言語と文化
- 英語音声学
- 英文法
- イギリス文学
- 沖縄の文学
- 準高等英語リスニング
- 準高等オーラルコミュニケーション
- 準高等英語講読
- 準高等英作文
- 高等英語リスニング
- 高等オーラルコミュニケーション
- 高等英語講読
- 高等英作文
- 観光実用英語Ⅰ
- 観光実用英語Ⅱ

- ビジュアルコミュニケーション入門
- 沖縄の社会
- アジアの宗教
- 国際文化特別講義
- 語学教育特別講義
- 言語と文学
- 日本史料講読
- 観光実用韓国語
- 観光実用中国語
- 中南米の歴史
- 日本古典文学史
- 日本近代文学史
- 日本古典文学概論
- 日本近代文学概論
- 日本の社会
- 日本の宗教
- 移民と異文化
- 中南米の社会
- 地域文化演習
- 現地実習
- アジアの言語
- 英語学概論
- アメリカ文学
- アジアの文学
- アジアの歴史
- アジアの文化
- 通訳技法
- 外書講読
- 小学校英語教育教授論
- 職業指導Ⅰ
- 職業指導Ⅱ
- 日本語教授法
- ティベート
- 現代日本語論
- 日本近代文学論
- 日本古典文学論
- 中南米の民俗

##### 社会科学系科目

- 民法と市民生活
- 簿記原理
- 上級簿記
- 経営学総論
- ミクロ経済学
- マクロ経済学
- 観光産業特別講義
- 観光学総論
- 地誌学
- レジャー・レクリエーション論
- 観光関連法規
- 会社法
- 行政法
- 西欧経済史
- 財政学
- 沖縄観光
- 観光行動論
- 流通論
- 観光開発論Ⅰ
- マーケティング論
- 観光調査法
- 観光交通論
- 最新ビジネス事情
- 原価計算
- 経営組織論
- 経営戦略論
- 会計学原理
- イベント事業論
- エコツーリズムⅠ
- 国際機構論
- ホスピタリティ概論
- 観光事業論
- 国際経済論
- 金融論
- ベンチャービジネス
- 経営特別講義
- 観光地理学

- 観光産業論
- 経営管理論
- 問題解決の心理学
- 旅行業経営論
- 旅行業法と約款
- 人的資源管理論
- 地方自治論
- 国際関係論
- 国際政治論
- 市場調査論
- 交通産業論
- 経済政策
- 観光政策論
- 地域経済学
- 観光経済学
- 観光開発論Ⅱ
- ホテル計画論
- ロジスティックス論
- 産業情報論
- ホスピタリティ マーケティング論
- 経営分析論
- ホテル実務
- インターンシップ基礎
- インターンシップ実践
- 海外インターンシップ
- エコツーリズムⅡ
- ホテル経営論
- 国際コンベンションビジネス
- ホスピタリティマネジメント論
- 観光資源論
- アジアの政治と社会
- 組織心理学
- 対人コミュニケーション論
- チームマネジメントの心理学
- 余暇社会学
- 地域マーケティング論

##### 自然科学系科目

- プログラミング入門
- コンピュータ・グラフィックス
- ウェブデザイン
- ウェブグラフィックス
- 診療情報管理論
- 人体構造・機能及び医療用語
- 医療概論及び臨床医学総論
- 臨床医学各論Ⅰ
- 医療管理総論
- 医療事務総論
- 医療情報学
- ゴルフⅠ
- ゴルフⅡ
- スクーバダイビング
- 野外活動演習
- 救急処置
- データ処理入門
- 地球の環境とその保全
- 医療統計学
- 診療情報管理特別講義
- 沖縄の植物と保護
- 自然地理学概論
- 国際ネットワーク論
- ネットワークの構築と運用
- プログラミング言語論
- 上級プログラミング
- アルゴリズム論
- データベース概論
- データベース実践
- ネットワーク技術Ⅰ
- ネットワーク技術Ⅱ
- ウェブコンテンツ実践
- 臨床医学各論Ⅱ
- 臨床医学各論Ⅲ
- 臨床医学各論Ⅳ
- 国際疾病分類法概論
- 国際疾病分類法演習Ⅰ

- 空手
- スポーツ産業論
- ウェルネス概論
- 環境調査法
- 情報システムズ特別講義
- 環境アセスメント論Ⅰ
- 環境アセスメント論Ⅱ
- 健康と長寿
- 自然観察指導法
- システム設計論
- ネットワーク技術Ⅲ
- 国際疾病分類法演習Ⅱ

## 健康支援人材の育成を目指す

人間健康学部は、「人間の生き方」、「人間が心身を充実させてよりよく生きること」を学ぶことを基本理念とし、「スポーツ」、「健康」、「看護」を通して科学的に探求・究明することにより「健康支援人材」及び「看護職」を養成する。



### 取得できる免許

#### スポーツ健康学科

- 中・高等学校教諭一種免許状（保健体育）
- 養護教諭一種免許状
- 第一種衛生管理者免許

### 取得できる資格

#### スポーツ健康学科

- 健康運動指導士受験資格
- 健康運動実践指導者受験資格
- トレーニング指導者（JATI）受験資格
- 日本体育協会公認スポーツ指導者受験資格（共通科目免除、ジュニアスポーツ指導員、スポーツプログラマー）
- 社会福祉主事任用資格

#### 看護学科

- 養護教諭二種免許状
- 第一種衛生管理者免許
- ※ 養護教諭二種免許・第一種衛生管理者免許は保健師資格取得後申請により取得可能

#### 看護学科

- 看護師国家試験受験資格
- 保健師国家試験受験資格
- ※ 保健師国家試験資格は選択コースのみ取得

### 人間健康学部教育スタッフ

平成29年10月1日現在

#### 学部長

砂川 昌範

#### スポーツ健康学科

教授	小川 寿美子	奥本 正	高瀬 幸一	田原 亮二	平野 貴也
上級准教授	伊礼 優	小賦 肇	遠矢 英憲	前川 美紀子	
准教授	石橋 千征	大峰 光博	仲田 好邦	東恩納 玲代	山本 健司
助教	神谷 義人	玉城 将			

#### 看護学科

教授	大城 凌子	小西 清美	佐久川 政吉	島田 友子	田場 真由美	鈴木 啓子	砂川 昌範	永田 美和子	松下 聖子
上級准教授	横川 裕美子								
准教授	清水 かおり	玉井 なおみ	比嘉 憲枝	平上 久美子					
助教	安里 葉子	伊波 弘幸	金井 優子	木村 安貴	鬼頭 和子	佐和田 重信	下地 幸子	下地 紀晴	鶴巻 陽子
助手	徳橋 知子	名城 一枝	八田 早恵子	本村 純					
助手	大浦 早智	小柳 弘恵	島袋 尚美	長嶺 絵里子	西田 涼子	野崎 希元			
助手	安仁屋 優子	鯉淵 乙登女	新城 慈	松田 めぐみ	吉岡 萌				

(職階内五十音順)

## スポーツ健康学科

こころとからだを一体として捉え、人間の健康を理解した健康支援を担う人材を育成する。



### 教育の特色

多様で充実した専門分野を、学際的に横断するという斬新な方法論でスポーツと健康を科学的に探究し、グローバル化に対応した専門教育を実践している。

- 1 スポーツ・健康活動支援の人材育成**  
生涯にわたってスポーツを健康増進や生活習慣病予防に応用できる知識と技能を備えた人材育成。
- 2 多様で充実した実践・実習・演習**  
保健体育免許取得のための教育実習、養護教諭免許取得のための看護臨床実習及び養護実習、健康運動指導士資格取得のための健康増進施設における実習、企業・社会福祉施設・地方公共団体・野外教育施設等におけるインターンシップなど。
- 3 社会と人間理解のための多角的研究**  
人体の構造と生理的特性、社会における体育・スポーツの位置づけ、ウェルネス・ヘルスプロモーション・保健・栄養などから捉える健康教育などのあらゆる観点からスポーツと健康を探究する。
- 4 特色ある実技科目**  
沖繩の地の利を生かした海洋スポーツ実技（ウィンドサーフィン、スクーバダイビングなど）、沖繩ならではの伝統種目（空手・古武道、琉球舞踊など）、県外で行うウィンタースポーツ（スキー・スノーボード）、その他トレーニングルーム、室内温水プールで行う各種実技科目を提供。

### 学士（スポーツ健康学）

### 目指す進路・就職先

- 中・高等学校教諭（保健体育）
- 養護教諭
- 公務
- 医療・福祉現場などでの心理・福祉職
- スポーツ団体やトレーニング施設
- 一般企業での衛生管理職
- 大学院進学など

## 看護学科

あらゆる人々の「人間としての尊厳」と「健康に生きる権利」を擁護できる看護職を育成する。あわせて自己教育力・自己評価能力を身につけ成長し続ける看護職として、広く地域に貢献できる看護職を育成する。



### 教育の特色

看護実践能力の向上を目標とし、学生が主人公となり主体的な学習者として成長していく教育課程を参画型看護教育として展開している。看護実践能力の最も重要なコンピテンシー（competency）は協働参画力、自己教育力、自己評価力であり、更にこれらのコア（核）となる能力をコミットメント能力として概念化し、下記の3つの対話を教育理念に掲げて多くのプログラムを実践している。

- 1 自己との対話：**  
学生は自分自身との対話を通して自己理解を深め看護職としてのキャリア開発をめざす。
- 2 他者との対話：**  
学生は授業や課外活動・学内行事などにおいて友人・教師・職員との対話を通して自らが授業や大学における教育活動に参画していく。
- 3 地域との対話：**  
学生はフィールド活動や看護実習を通して地域の人々とふれあい、人々との対話を通してケアリング文化を継承し発展させる。

### 学士（看護学）

### 目指す進路・就職先

- 看護師・保健師（病院、診療所、保健施設、福祉施設、保育園、訪問看護ステーション、保健所、保健センター、企業の健康管理室、行政職、看護教育機関）
- 養護教諭（小学校、中学校、高等学校）
- 大学院進学

# スポーツ健康学科専門教育科目一覧 (平成29年度入学者適用)

Subject List for The Department of Sports And Health

## 専門基礎教育科目

- スポーツ健康学総論
- スポーツ健康演習
- ウェルネス概論
- 発育発達学
- 救急処置
- 生涯スポーツ論
- 人体機能学
- 社会福祉概論
- 医学一般
- 解剖学
- 生理学・運動生理学
- 衛生学・公衆衛生学
- 栄養学

## 専門教育科目

- 体育原理
- スポーツ健康学特別講義I
- スポーツ健康学特別講義II
- スポーツ健康学特別実技I
- スポーツ健康学特別実技II
- 運動学
- 体育心理学
- 体育社会学
- 体育経営管理学
- コーチ学
- トレーニング論
- 体力・健康測定と評価
- スポーツ指導論
- スポーツ栄養学
- スポーツマネジメント
- スポーツ障害と予防
- 運動処方論
- 安全管理論及び方法
- 野外教育論
- レジャー・レクリエーション論
- 空手・古武道概論
- 体育・スポーツ史
- スポーツバイオメカニクス
- 球技論
- 健康教育
- 学校保健
- 精神保健
- 養護概説
- 看護学I
- 看護学II
- 学校救急看護学
- 健康相談活動の理論及び方法
- 医学一般II
- 病理学
- 免疫学
- 微生物学
- 薬理概論
- 心の健康
- 健康心理学
- 保健衛生学
- 労働衛生学概論
- 労働法規I
- 労働法規II
- 介護概論
- 社会福祉援助技術
- 児童福祉
- 障害者・高齢者福祉
- グローバルヘルス
- 生理学・運動生理学演習
- 衛生学・公衆衛生学演習
- 動作学演習
- スポーツ心理学演習
- トレーニング論演習
- 海洋スポーツ演習
- 看護臨床実習I
- 看護臨床実習II
- 運動負荷試験
- 健康産業施設等現場実習
- コーチング演習
- 体操
- 器械運動
- 陸上競技
- 水泳
- バスケットボール
- ハンドボール
- サッカー
- バレーボール
- 柔道
- 剣道
- 空手
- 舞踊
- 琉球舞踊
- エアロビクス
- レクリエーション実技
- ゴルフI
- ゴルフII
- ウインドサーフィン
- スクーバダイビングI
- スクーバダイビングII
- スキー・スノーボード
- テーピング・マッサージ
- インターンシップI
- インターンシップII
- 地域ウェルネスプロジェクト
- 卒業研究演習I
- 卒業研究演習II
- 卒業研究演習III
- 卒業研究演習IV

自由選択科目に「ライフデザイン科目」(教養教育科目)、「専門基礎教育科目」、「専門教育科目」及び「教職に関する科目」を含めることができる。

合計.....  
 スポーツ健康学科の総科目数184科目  
 (教養教育科目 78 科目、  
 外国人留学生対象科目9 科目含)  
 学位.....  
 学士 (スポーツ健康学)

卒業要件及び履修方法.....  
 教養教育科目 32単位以上  
 専門基礎教育科目 必修12単位、選択10単位、合計22単位以上  
 専門教育科目 必修8単位、選択52単位以上、合計60単位以上  
 自由選択科目 10単位以上  
 卒業要件単位数 124単位以上

学位の分野.....  
 保健衛生学

授業期間等.....  
 1 学期の学期区分 2 学期  
 1 学期の授業期間 15 週  
 1 時限の授業時間 90 分

# 看護学科専門教育科目一覧 (平成29年度入学者適用)

Subject List for The Department of Nursing

## 専門基礎教育科目

- 人間の理解**
  - 解剖生理学
  - 病態生理学 (含: 病理学)
  - 生化学
  - 人間関係論
  - 生涯発達論
  - 家族社会学 (含: ジェンダー論)
  - 精神保健
- 健康の理解**
  - 健康相談活動の理論と方法
  - 病態治療学 I (内科系疾患)
  - 病態治療学 II (外科系疾患)
  - 病態治療学 III (小児疾患)
  - 病態治療学 IV (母性疾患)
  - 病態治療学 V (精神疾患)
  - 老年学
  - 薬理学
  - 免疫学
  - 微生物学
  - 栄養学 I
  - 栄養学 II
- 環境の理解**
  - 公衆衛生学
  - 保健統計学
  - 疫学
  - 保健福祉行政論
  - 看護と福祉
  - 学校保健
  - 産業看護学
  - 保健医療と法
  - 医療英語
  - 養護概説
  - 保健行動論

## 専門教育科目

- 専門分野 I**
  - 基礎看護**
    - 看護学概論
    - 看護援助論
    - 基礎看護技術 I
    - 基礎看護技術 II
  - 看護実践方法論**
  - フィジカルアセスメント**
  - 基礎看護実習 I**
  - 基礎看護実習 II**
- 専門分野 II**
  - 成人看護**
    - 成人看護学概論
    - 成人看護学方法論 I
    - 成人看護学方法論 II
    - リハビリテーション看護論
    - 成人看護実習 I
    - 成人看護実習 II
  - 母性看護**
    - 母性看護学概論
    - 母性看護学方法論
    - 母性看護実習
  - 高齢者看護**
    - 高齢者看護学概論
    - 高齢者看護学方法論
    - 高齢者看護実習
  - 小児看護**
    - 小児看護学概論
    - 小児看護学方法論
    - 小児看護実習
  - 精神看護**
    - 精神看護学概論
    - 精神看護学方法論
    - 精神看護実習
- 統合分野**
  - 在宅看護**
    - 在宅ケア論
    - 在宅ケア実習
  - 総合看護**
    - ケアリング文化実習
    - 感染看護
    - 看護研究方法
    - 卒業研究
    - 沖縄の文化と看護
    - ターミナルケア論
    - 看護実践と理論
    - 看護管理
  - 看護政策論**
  - 家族看護学**
  - 看護教育論**
  - 国際看護学 I**
  - 国際看護学 II**
  - 災害看護論**
  - 島嶼・過疎地看護論**
  - 総合実習**
- 保健師教育分野**
  - 公衆衛生看護**
    - 公衆衛生看護学概論
    - 公衆衛生看護活動論
    - 公衆衛生看護方法論 I
    - 公衆衛生看護方法論 II
    - 公衆衛生看護管理論
    - 公衆衛生看護実習 I
    - 公衆衛生看護実習 II
    - 公衆衛生看護実習 III

合計.....  
 看護学科の総科目数169科目  
 (教養教育科目 78 科目、  
 外国人留学生対象科目9 科目含)

卒業要件及び履修方法.....  
 教養教育科目 28単位以上  
 専門基礎教育科目 33単位以上  
 専門教育科目 68単位以上  
 卒業要件単位数 129単位以上

学位.....  
 学士 (看護学)

授業期間等.....  
 1 学期の学期区分 2 学期  
 1 学期の授業期間 15 週  
 1 時限の授業時間 90 分

学位の分野.....  
 保健衛生学

# 助産学専攻科



安心して健康な子どもを  
産み育てられる  
地域づくりに貢献する  
助産師を育成

## 専攻科の 特色

助産学専攻科は、沖縄の地理・歴史的文化的特性、とりわけ健康長寿社会の中で育まれた人々の豊かなケアリング文化に根ざした助産ケアを提供できる助産師の養成を目指し、地域社会の保健・医療・福祉との連携を推進することを特色とする。

## 養成する人材像

助産学専攻科は、以下のような人材を養成する。

- (1) 安全で質の高い助産実践能力および他職種と協働できる能力を身につけ、地域住民と相互にパートナーシップを築く存在として自己研鑽し、地域・国際社会の母子保健の発展に貢献できる助産師。
- (2) 豊かな人間性と倫理観に基づき、地域特性や対象のニーズを踏まえた適格な対応ができ、女性とその家族のライフサイクルに応じた健康支援を自立して実践できる助産師。

## 教育目的

助産学専攻科は、看護学を基盤に、人間の生命の尊厳を守り、人権を擁護できる豊かな人間性を培うとともに、女性、母子やその家族を全人的に理解し、寄り添い、かつ、継続的に健康教育支援ができる助産師を養成する。また、安全で質の高い助産実践能力を維持し、他職種と協働して、地域・国際社会の母子保健の発展に貢献できる自律した助産師を養成することを目的とする。

## ディプロマ・ポリシー(学生が修了時にもつべき能力)

助産学専攻科では、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。

- (1) 思いやりのある豊かな人間性を培い、すべての人の生命の尊厳を守り、権利を擁護できる能力。
- (2) 思春期の健康教育をはじめとする女性のライフサイクル各期におけるリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する支援ができる能力。
- (3) 離島・へき地の地理的特性を踏まえた周産期における母子及び家族の健康課題の支援ができる能力。
- (4) 高度化する周産期医療に対応できる助産診断技術を持ち、産む人のニーズを尊重した満足で安全な分娩介助が自立してできる能力。
- (5) 保健・医療・福祉・行政との連携を図り、協働して継続的な支援ができる能力。
- (6) 助産師としての責任と義務を認識し、グローバルな視点で地域・国際社会に貢献できる能力。
- (7) 社会の変化を敏感に察知し、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を身につけ、助産学の発展に貢献できる能力。

## 取得できる資格・免許

- 助産師国家試験受験資格
- 受胎調節実地指導員申請資格
- 新生児蘇生法修了認定(Aコース)受験資格

## 目指す進路・修了後の進路

- 病院などの医療機関
- 助産所
- 保健所・保健センター
- 大学院進学

## 助産学専攻科教育スタッフ

専攻科長	島田 友子
教授	島田 友子
准教授	鶴巻 陽子
助教	小柳 弘恵

## 教育課程編成の基本的な考え方

助産学専攻科の教育課程は、助産師国家資格取得に必要な指定規則28単位を含む「助産学基礎領域」、「助産学実践領域」、「助産学関連領域」の3つの領域で構成し、以下の編成方針及び実施方針に基づき体系的に編成する。

## 教育課程の編成方針

- (1) 助産学基礎領域では、生命尊重・倫理観を深めながら、沖縄のケアリング文化を理解し、命に寄り添う助産師の役割や、保健医療福祉関係者との協働・連携について学ぶ。
- (2) 助産学実践領域では、現代社会における女性や子どもを取り巻く状況や、沖縄県が抱える周産期課題への理解を深め、課題を焦点化できる力を修得する。また、女性の生涯を通じて、リプロダクティブヘルス/ライツに焦点を当てて支援する健康教育技法を修得する。助産学実習では、最新の周産期医療および助産技術を学習し、対象の幅広いニーズに応えられる問題解決能力、実践能力を高める。
- (3) 助産学関連領域では、国際社会を視野に入れて、女性とその家族のライフサイクルに応じた健康支援を自律して実践できる能力を養う。また、科学的探究心および研究能力を培い、生涯にわたり自己の資質の向上に努める能力を養う。

## 教育課程の実施方針

- (1) 知識の活用能力、批判的・論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現力、コミュニケーション力など、社会生活において必須となる汎用的な能力を養成するために、1年を通して学生主体・ディスカッションを主軸とした教育を実施する。
- (2) 助産学専攻科専任教員のほか、妊娠期における超音波診断、新生児の蘇生などの演習など、様々な講師による授業を展開して、充実した実習環境で助産実践力を培う。
- (3) 助産学実習においては、周産期を中心に、地域・国際社会での助産師活動や助産管理など、助産師としての技術、知識を修得する。
- (4) 獲得した専門知識や助産技術を統合し、問題の解決と新たな価値の創造につなげていく能力や態度を養成するために、1年を通して研究の基礎的能力を培う。

## 修了要件

助産学専攻科の修了要件は、専攻科に1年以上在学し、所定の単位(助産学基礎領域から7科目9単位、助産学実践領域から14科目21単位、助産学関連領域から必修1科目2単位及び選択1科目1単位以上、合計33単位以上)を修得した者について修了を認定する。

## 入学者の受入方針(アドミッション・ポリシー)

助産学専攻科は、本学の教育理念に共感し、自ら考え行動しようとする、以下のような学習意欲の高い人を求めます。

1. 助産に関心をもち生命誕生に真摯に向き合える誠実な人
2. 相手の身になって考えることができ、周囲と積極的に協力し合える人
3. 目標に向かって粘り強く、自ら進んでチャレンジできる人
4. 将来助産師として社会に貢献できる意欲のある人
5. 社会に対し積極的に関わり、専門職としての役割を果たし、地域医療、国際貢献に意欲のある人

## 教育課程

区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位当たりの時間数	履修方法及び修了要件
			必修	選択		
助産学基礎領域	助産学概論	1前	1		15	必修7科目9単位を履修
	助産ケアと倫理	1前	1		15	
	沖縄のケアリング文化と女性	1前	1		15	
	生殖医学	1前	1		15	
	周産期医学	1前	2		15	
	新生児・乳児学	1前	1		15	
	助産管理学	1前	2		15	
小計			9		—	9
助産学実践領域	リプロダクティブヘルス支援	1通	1		30	必修14科目21単位を履修
	妊娠期の助産診断・技術学	1前	1		30	
	分娩期の助産診断・技術学	1前	1		30	
	産褥・新生児・育児期の助産診断・技術学	1通	2		30	
	助産過程の展開	1前	1		30	
	健康教育技法	1通	1		30	
	分娩期助産演習	1前	1		30	
	母子の栄養・薬理学	1前	1		30	
	やんばるの母子保健	1前	1		30	
	助産学実習Ⅰ(妊娠・継続ケース)	1通	2		45	
	助産学実習Ⅱ(分娩・産褥・新生児期)	1通	6		45	
助産学実習Ⅲ(NICU)	1後	1		45		
助産管理学実習	1前	1		45		
母子ケアリング実習(僻地・離島)	1後	1		45		
小計			21		—	21
助産学関連領域	国際母子保健学	1後		1	30	必修1科目2単位、選択1科目1単位以上を履修
	母子の癒し援助論	1後		1	30	
	助産学研究	1通	2		30	
小計			2	2	—	3単位以上
修了要件単位数						33単位以上
助産師国家試験資格を取得する場合の最低必要単位数						33単位以上

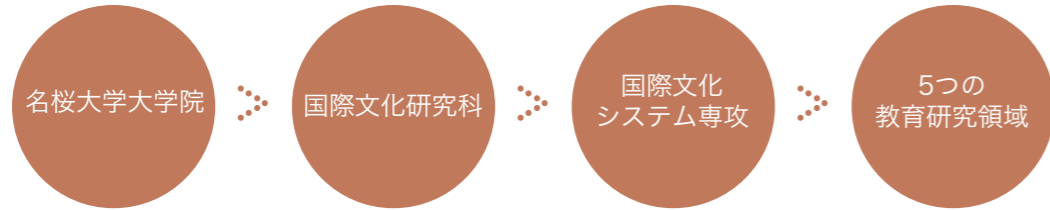
# 大学院 国際文化研究科

## 修士（国際文化）

- 言語文化教育研究領域
- 社会制度政策教育研究領域
- 経営情報教育研究領域
- 観光環境教育研究領域
- 健康科学教育研究領域

### グローバル化、情報化が進展する 国内外の諸課題に対応できる 高度専門的職業人および研究能力を有する人材を育成

本研究科では、さまざまな文化を理解する能力を持ち、国内外における地域課題の解決に必要な視野を持った高度の専門的職業人および高度の研究能力を有する人材の養成に努めている。社会人や留学生の就学環境を考慮し、昼夜開講制や Semester（学期）制等を採用している。中学校教諭専修免許状（英語）および高等学校教諭専修免許状（英語および商業）も取得できる。



#### 国際文化研究科教育スタッフ 平成29年5月1日現在

国際文化研究科長 田代 豊	
<b>言語文化教育研究領域</b>	
教授	山里 勝己 …… 米文学特論 嘉納 英明 …… 比較教育文化研究特論 小番 達 …… 日本古典文学特論 住江 淳司 …… 中南米文化特論 渡慶次 正則 …… 英語教育評価特論 中村 浩一郎 …… 言語学特論 I 山田 均 …… 東南アジア文化特論 李 鎮榮 …… 異文化接触特論 与那覇 恵子 …… 英語教授法特論 I
上級准教授	小嶋 洋輔 …… 日本近代文学特論 照屋 理 …… 琉球文学特論 屋良 健一郎 …… 日本史特論
准教授	メーガン・クックマン …… 英文学特論
<b>社会制度政策教育研究領域</b>	
教授	高嶺 司 …… 国際政治特論
上級准教授	大城 渡 …… 公法学特論 菅野 敦志 …… 東アジア地域特論 宮城 敏郎 …… 地域開発政策特論
<b>経営情報教育研究領域</b>	
教授	アリファテヘルアリム.F …… 情報知能特論 木村 堅一 …… 社会心理学特論 金城 亮 …… 小集団心理学特論 田邊 勝義 …… 経営活動情報特論 仲尾次 洋子 …… 会計学特論 中里 収 …… 情報交流特論 宮平 栄治 …… 産業組織特論
上級准教授	林 優子 …… 経営戦略特論
<b>観光環境教育研究領域</b>	
教授	新垣 裕治 …… エコツーリズム特論 田代 豊 …… 環境科学特論 朴 在徳 …… 観光市場分析特論
上級准教授	大谷 健太郎 …… 観光開発特論 許 点淑 …… 観光文化特論
<b>健康科学教育研究領域</b>	
教授	小川 寿美子 …… グローバル・ヘルス特論 平野 貴也 …… スポーツレニング・コーチング特論

五つの教育研究領域		共通科目	教育研究領域科目				
言語文化教育研究領域 Language and Culture	言語の特質や文化についての専門的な知識を持つ人材を育成 琉球列島や東南アジアおよび中南米諸国などの環太平洋地域および英米における特色ある言語文化と地域文化の研究を行い、言語の特質や文化についての専門的な人材を養成する。	人文科学特論  政策科学特論  社会心理学特論  環境科学特論  健康科学特論   学術研究方法特論	言語文化研究演習 I・II 英文法特論 理論言語学特論 中南米文化特論	言語学特論 I・II 英語音声学特論 比較教育文化思想特論 第2言語習得特論	英文学特論 英語教授法特論 I・II 琉球歴史学特論 琉球文学特論	米文学特論 英語教育評価特論 沖縄地域文化研究特論 言語文化特別講義	地域言語学特論 I・II リサーチ方法特論 東南アジア文化特論
社会制度政策教育研究領域 Social Systems and Policies	政治・経済の改革や産業の在り方について政策提言できる人材を育成 地方、国、国際社会の各レベルにおける組織の構造と機能および制度の在り方について研究し、政治・経済・法学的な立場で政策提言ができる人材を養成する。		社会制度政策研究演習 I・II 地域活性化特論 社会制度政策特別講義	国際政治特論 I・II 経済政策特論	地域開発政策特論 公法学特論	都市政策特論 東アジア地域特論	地方自治特論 国際協力・ボランティア特論
経営情報教育研究領域 Management and Information Science	情報科学を理解し実務に応用して地域経済に貢献できる人材を育成 グローバル化、情報化、福祉化が進展しつつある社会の中で高度の情報技術を有し、産業活動を文化や福祉等の視点から理解し実務に応用して地域経済に貢献できる人材を養成する。		経営情報研究演習 I・II 小集団心理学特論 会計学特論	経営活動情報特論 人的資源管理特論 マーケティング特論	経営戦略特論 比較経営学特論 情報・通信技術特論	産業組織特論 e-ビジネス特論 経営情報特別講義	情報交流特論 情報知能特論
観光環境教育研究領域 Tourism and Environmental Science	総合科学としての観光環境を理解し地域特性を活かした国際的提言のできる人材を育成 総合科学と呼ばれる観光学を文化および自然環境の視点から、熱帯・亜熱帯性、海洋性、島嶼性等について観光政策的および環境科学的に研究し、国内外で政策提言ができる人材を養成する。		観光環境研究演習 I・II 異文化接触特論 島嶼生態学特論	観光開発特論 ホテル実務特論 観光文化特論	観光政策特論 エコツーリズム特論 観光調査法特論	島嶼開発特論 観光市場分析特論 観光環境特別講義	島嶼文化特論 観光資源特論
健康科学教育研究領域 Health Sciences	知識技能はもとより、ヒューマニズムを基礎とした実践力や行動力を持ち、人間と人間がおかれている環境との関係を深く理解でき、社会と自分の関わりを、人間健康科学をキーワードに探求できる人材を育成 人間の健康を科学的に究明し「こころ」と「からだ」の理解とヒューマニズムの精神を基礎に、積極的に国内外に情報を発信し、かつ社会貢献できる学際的な人材を養成する。		健康科学研究演習 I・II 伝統武道特論 健康栄養学特論	グローバル・ヘルス特論 スポーツレニング・コーチング特論 社会福祉学特論	健康心理学特論 健康科学特別講義	地域保健学特論 ヘルスプロモーション・ウェルネス特論	健康・スポーツ指導特論

修了要件  
●大学院国際文化研究科の修了要件は、大学院に2年以上在学し、講義科目22単位以上、演習科目8単位の合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格することとする。



# 大学院 看護学研究科

## 修士（看護学）

### やんばるのケアリング文化に根ざした看護学を探究

#### ■ 養成する人材像

本研究科は、地域に根ざし地域の健康問題を創造的に解決していく卓越した看護実践能力の養成と看護現象の解明を目的とした研究能力の開発、看護の新たな価値の創出を目指し、高度専門職業人および教育・研究者の養成を目的としている。

##### (1) 高度専門職業人の養成

地域の看護需要に対応して問題を解決するための指導的役割を果たす看護実践のリーダーを養成する。

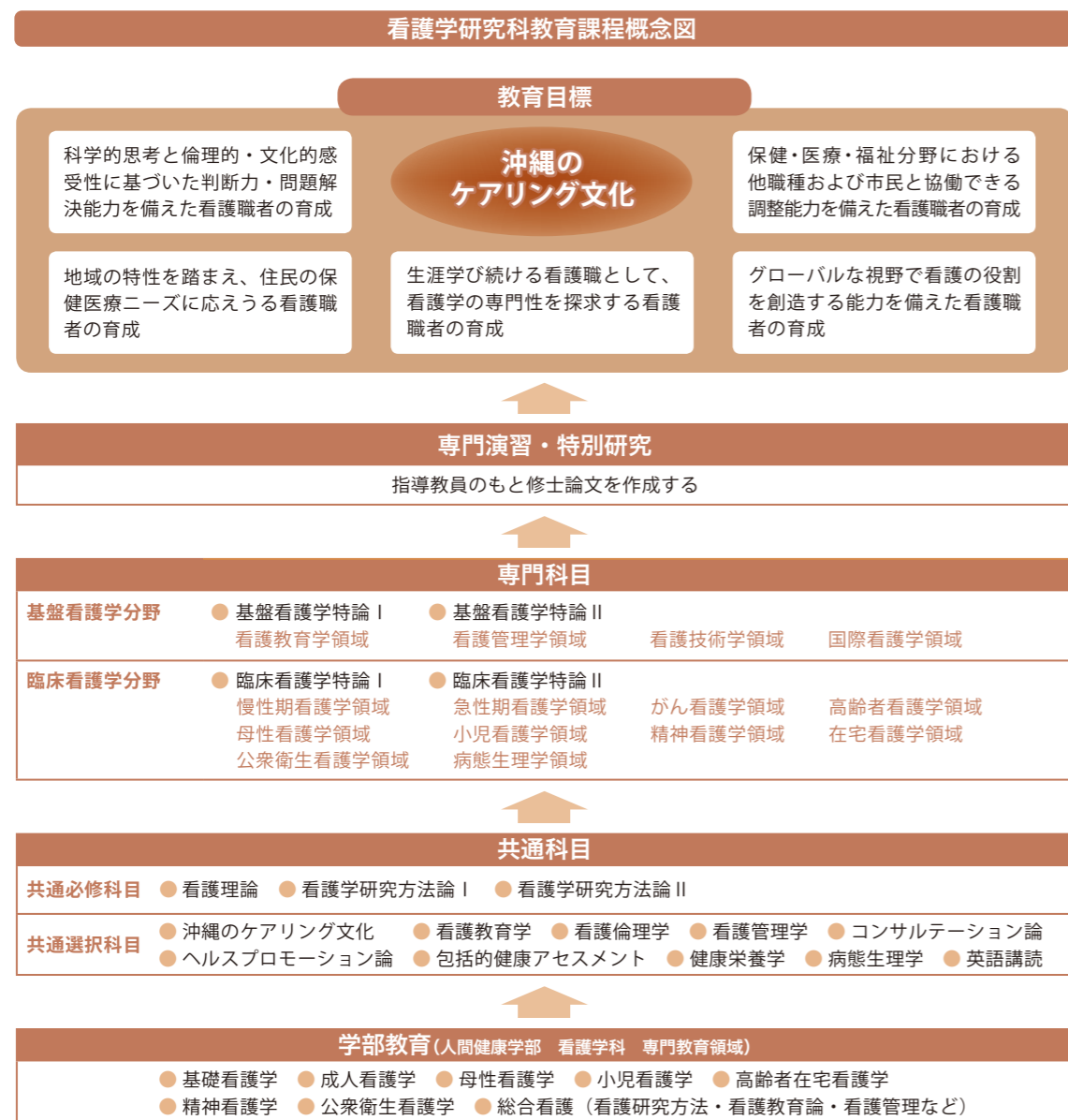
##### (2) 教育・研究者の養成

ケアリング文化に根ざした看護教育を探究する教育者および研究者を養成する。

#### ■ 社会人も学べる教育環境

現場の看護師や保健師等の社会人が仕事をつづけながら学修できる教育環境を整備している。

- ①昼夜開講制の導入、②長期履修制度の導入、③施設の夜間利用



#### 大学院教育スタッフ 平成29年5月1日現在

看護学研究科長 佐久川 政吉

<b>教授</b>	佐久川 政吉 …… 看護理論、看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱ、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
	鈴木 啓子 …… 看護理論、看護学研究方法論Ⅰ、看護管理学、コンサルテーション論、包括的健康アセスメント、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
	横川 裕美子 …… 看護管理学、基盤看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
	砂川 昌範 …… 看護学研究方法論Ⅰ、病態生理学、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
	小西 清美 …… 看護倫理学、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
	島田 友子 …… 沖縄のケアリング文化、看護管理学、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
	永田 美和子 …… 看護理論、包括的健康アセスメント、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
	大城 凌子 …… 看護理論、沖縄のケアリング文化、包括的健康アセスメント、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
	松下 聖子 …… 看護学研究方法論Ⅱ、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
	田場 真由美 …… 看護理論、看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱ、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
	高瀬 幸一 …… ヘルスプロモーション論
<b>上級准教授</b>	伊礼 優 …… 看護学研究方法論Ⅱ、看護理論、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ
	清水 かおり …… 看護理論、看護教育学、看護管理学、基盤看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
	比嘉 憲枝 …… 看護理論、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ
	平上 久美子 …… 臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ
	玉井 なおみ …… 看護理論、看護学研究方法論Ⅰ、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ、専門演習、特別研究
<b>准教授</b>	木村 安貴 …… 看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱ、病態生理学、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱ
	名城 一枝 …… 看護管理学

#### 看護学研究科授業科目

授業科目	
共通科目	共通必修科目 看護理論 看護学研究方法論Ⅰ 看護学研究方法論Ⅱ
	共通選択科目 沖縄のケアリング文化 看護教育学 看護倫理学 看護管理学 コンサルテーション論
基本科目	基盤看護学分野 基盤看護学特論Ⅰ 基盤看護学特論Ⅱ
	臨床看護学分野 臨床看護学特論Ⅰ 臨床看護学特論Ⅱ
科目	演習・研究 専門演習 特別研究

**修了要件**  
看護学研究科の修了要件は、大学院に2年以上在学し、共通科目14単位以上、専門科目4単位以上、演習・研究科目12単位、合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格することとする。

#### 教育課程の特色

修士課程において、次の3つの構成で体系的な教育課程を編成している。

- ① 研究方法の開発を広い視野で追及するために有効となる共通科目を設定。
- ② 看護実践の質の向上に直結した研究の効果的展開を目指した専門科目を設定。
- ③ 研究方法や研究デザイン、研究計画等、研究に必要な基礎を修得する演習科目(専門演習)、研究指導および修士論文に直結する研究指導を行う研究科目(特別研究)を配置。

##### 【共通科目】

グローバルな視野に立った看護の高度専門職として実践・研究を遂行するにあたり、共通科目として13科目を配置した。看護理論と看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱの6単位は共通必修科目、共通選択科目は8単位以上になるように科目を選択とし、うち4単位は国際文化研究科の共通科目や教育研究領域科目から履修することができる。共通科目は、計14単位以上を履修要件としている。

##### 【専門科目】

基盤看護学分野と臨床看護学分野の2つの専門分野からなる。基盤看護学分野は、基盤看護学特論Ⅰ・Ⅱを配置し、専門領域として看護教育学、看護管理学、看護技術学、国際看護学から探求したい領域を選択する。臨床看護学分野は、臨床看護学特論Ⅰ・Ⅱを配置し、専門領域として慢性期看護学、急性期看護学、がん看護学、高齢者看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学、在宅看護学、公衆衛生看護学、病態生理学から探求したい領域を選択する。2つの専門分野から1つ選択し、2科目4単位以上を履修要件としている。

##### 【演習・研究科目】

学生の研究テーマに関連する専門分野ごとに研究指導教員を配置し、「専門演習」「特別研究」を設置している。研究指導教員および研究指導補助教員の指導により、専門演習4単位および特別研究8単位の計12単位、合計30単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格することを修了要件としている。



総合研究所は、外部の研究機関と連携しながら主として沖縄県北部の地域社会へ研究成果を還元し、地域のシンクタンクとしての機能を果たすべく1996年に設置された研究施設である。主な活動としては以下の項目がある。

- 1 総合研究所紀要の発行、研究発表会の開催
  - 2 研究助成(学際的共同プロジェクト研究、特定研究、出版助成)
  - 3 基盤形成事業、地域貢献研究萌芽的プロジェクト
  - 4 科学研究費および外部の研究助成・受託研究・共同研究の受入
  - 5 コンプライアンス教育研修会の開催
  - 6 総合研究所主催シンポジウム・講演会
- また、70名収容の研修室は、学外機関の研修会や講習会の会場として地域市民に開放されている。

【問い合わせ先】名桜大学総合研究所 TEL 0980-51-1107 FAX 0980-51-1136

## 活動実績

### 総合研究所 一般研究 平成28年度実績

	研究代表者	共同研究者	研究テーマ
1	菅野 敦志	—	1980年代中国における「ハイク・ムーブメント」
2	渡慶次 正則	3名	「アカデミック英語基礎」講義のカリキュラム構築と英語文献集の作成
3	仲尾次 洋子	—	中小企業の財務管理に関する日台比較研究
4	砂川 昌範	—	血管内皮機能を高める沖縄産の植物成分の探索

### 学際的共同プロジェクト研究 (継続) 平成28年度実績

	研究代表者	共同研究者	研究テーマ
1	李 鎮榮	3名	沖縄における貧困と格差に関する学際的研究 —沖縄本島を中心に—
2	奥本 正	10名	自律促進型健康支援と健康な町づくり施策は住民の健康度を向上させるか ～大宜味における健康サポート活動と都市環境整備の効果検証～
3	本村 純	8名	遺伝的要因に対応させた糖尿病PDAプログラムの開発

### 新規採用者助成 平成28年度実績

	研究代表者	共同研究者	研究テーマ
1	迫田 幸栄	—	現代日本語における分析的な構造をもつ派生動詞「してしまう」の研究
2	柳 銀珠	—	ヘルスツーリズムによる地域活性化 —韓国・済州島の事例を通して—
3	玉城 将	—	卓球においてサーブがその後のラリーに与える影響の定量化
4	大峰 光博	—	運動部活動における生徒の体罰受容のメカニズム

### 講演会等 平成28年度実績

部門	タイトル	開催日	講演者及びシンポジスト
健康科学部門	オリンピックから考えるスポーツの価値 ～東京2020に向け我々ができること～	平成29年2月4日(土)	山崎一彦 氏(順天堂大学、リオオリンピックNHK解説者) / 桐生祥秀 氏(東洋大学) / 譜久里武 氏(CCO) / 司会:小賦肇(名桜大学上級准教授)
国際シンポジウム	第2言語としての英語習得と学力増進	平成28年12月17日(土)	白井恭弘 氏(ケースウェスタンリザーブ大学教授) / パトラ後藤裕子 氏(ペンシルバニア大学准教授) / 李 鎮榮(名桜大学教授) / 司会:中村浩一郎(名桜大学教授)

### 総合研究所発表会 平成28年度実績

	研究代表者	共同研究者	開催日	研究テーマ
1	渡慶次 正則	ノーマン フィーウェル/メーガン クックルマン	平成28年 9月20日(火)	名桜大学教養英語必修科目におけるEラーニング教材の効果と課題の検証
2	田邊 勝義	—		台風災害リスクコミュニケーションのための浸水ハザードマップ構築に関する研究
3	許 点淑	3名		トランスナショナル・ファクターによる沖縄戦記憶の検証 —沖縄と朝鮮半島—
4	平上 久美子	鈴木 啓子 / 大城 凌子		「イマドキ」の看護大学生の抱える問題特性とその支援に関する研究 —大学教員へのインタビューを通して—
5	鬼頭 和子	鈴木 啓子		精神科臨床実習において看護学生が触れるケアを実施する意義についての検討
6	上原 なつき	—	平成28年 9月26日(月)	ペルーおよびスペインにおけるアニメーロの比較研究
7	メーガン クックルマン	—		Comics and Selfhood in the Poetry of Leslie Scalapino
8	新垣 裕治	4名		「やんばる」地域における外国人観光客受け入れ対応に関する調査研究
9	遠矢 英憲	9名		マリンスポーツ安全教室を通じた海洋危険生物による刺咬症に対する安全教育に関する研究
10	八田 早恵子	—		インドネシアの気になる子どもの基礎研究
11	小嶋 洋輔	—		琉球弧における島尾敏雄受容史の構築
12	宮城 敏郎	大谷健太郎 / 伊良皆啓		沖縄観光産業史に関する研究 ～沖縄国際海洋博覧会閉会後の1985年から2000年までの沖縄観光を中心として～

### その他共催事業 平成28年度実績

	共催	タイトル	開催日	主催
総合研究所	西平 守孝	サンゴの移植①—サンゴの移植活動のこれまでとこれから—	平成28年12月8日(木)	沖縄美ら島財団総合研究センター
総合研究所	西平 守孝	サンゴの分類と同定 2017	平成29年3月23日(木)～3月26日(日)	沖縄美ら島財団総合研究センター

### 文部科学省選定事業

事業名およびプログラム名	取組名	採択期間
平成24年度大学間連携共同教育推進事業	多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築	H24年～28年度
平成27年度 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)	新たな地域社会を創造する「ミライカナナイ(未来叶い)プロジェクト」	H27年～30年度

### 平成28年度 科学研究費助成事業

#### 研究代表者採択状況

研究種目	研究課題名	研究代表者	採択期間	備考
基盤研究(C)	長寿県沖縄の復活に向けての基礎研究—高齢者の身体活動状況、生活習慣、健康状態—	東恩納 玲代	H26～29年度	継続
基盤研究(C)	韓国の華僑の社団の立て直しと関係の再生過程に関する動態的研究	李 鎮榮	H26～28年度	継続
基盤研究(C)	「看取り難民ゼロ」を目指した住民参画型エンドオブライフケアに関する研究	大城 凌子	H26～28年度	継続
基盤研究(C)	在沖縄米軍基地跡地利用に関する研究:地域経済社会の持続可能な内発的発展を視座に	真喜屋 美樹	H26～28年度	継続
若手研究(B)	スノーケリングを用いた水泳指導教材の開発と効果検証	田原 亮二	H26～28年度	継続
若手研究(B)	集団スポーツ競技の知覚—運動スキル獲得に貢献するパラメータの抽出	石橋 千征	H26～28年度	継続
若手研究(B)	種子島史料の研究	屋良 健一郎	H26～29年度	継続
基盤研究(C)	「認知症もナンノソノ」公民館を拠点とした地域住民が創る認知症ケアに関する研究	永田 美和子	H27～29年度	継続
基盤研究(C)	高等教育機関における人権教育についての基礎的研究	板山 勝樹	H27～29年度	継続
挑戦的萌芽研究	精神疾患患者へのハンドマッサージを用いたケア技術の開発に関する研究	鈴木 啓子	H27～29年度	継続
挑戦的萌芽研究	へき地における産後ケア促進のための産後院モデルシステム開発	小西 清美	H27～29年度	継続
基盤研究(C)	琉球弧における島尾敏雄受容史の構築	小嶋 洋輔	H28～30年度	新規
基盤研究(C)	沖縄の字公民館幼稚園を支える地域の教育自治に関する研究	嘉納 英明	H28～30年度	新規
基盤研究(C)	乳がん患者の生命予後に影響するオーダーメイドのウォーキングプログラムの開発と普及	玉井 なおみ	H28～31年度	新規
基盤研究(C)	終の棲家で最期を安心して迎えるための入所者参画型看取り看護ガイドラインの構築	伊波 弘幸	H28～30年度	新規
挑戦的萌芽研究	困難事例を抱えるイマドキ看護大学生のピアサポート効果の検討	平上 久美子	H28～30年度	新規
若手研究(B)	卓球において打球の時空間特徴が得点に与える影響の定量化	玉城 将	H28～30年度	新規

#### 研究分担者採択状況

研究種目	研究課題名	研究分担者	備考
基盤研究(A)	生涯学習基盤としての大規模オンラインコース(MOC)の構築と運用に関する研究	小川 寿美子	継続
基盤研究(B)	迷惑施設をめぐる権利の正当性:日中での比較調査・実験・ゲーミングによる多角的検証	田代 豊	継続
基盤研究(C)	主節以外の文要素の左右周辺部構造と文法現象についての研究	中村 浩一郎	継続
基盤研究(C)	Immediate Feedback And The Use Of Polling Systems For EFL Instruction	ノーマン フィーウェル	継続
基盤研究(C)	青・壮年期における健康づくり行動のエコロジカル研究	東恩納 玲代	継続
基盤研究(B)	日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究	山田 均	継続
基盤研究(C)	野宿生活者が「野宿」から「社会」に戻ることを目指した看護支援	島田 友子、吉岡 萌	継続
基盤研究(C)	精神疾患患者のエンパワメントと参画型糖尿病教育プログラムの開発	金城 祥教	新規
基盤研究(C)	沖縄と朝鮮半島を跨ぐトランスナショナルな戦争記憶の歴史的考察	許 点淑	新規
基盤研究(C)	高齢者の運動・移動障害発症の予知因子としての歩数の有用性に関する研究	東恩納 玲代	新規
基盤研究(B)	発達障害傾向のある看護学生への現任教育まで含めた適応支援ガイドラインの作成	金城 祥教	新規
基盤研究(B)	琉球史科学の基礎的構築に基づく近世琉球史研究	屋良 健一郎	新規
基盤研究(C)	要介護高齢者が組織的コミュニティへの参加を継続する支援方法の提案	佐久川 政吉	新規
基盤研究(C)	健康の社会格差の視点を包含した社会的弱者に対する保健師活動支援方略の検討	本村 純	新規

### 平成28年度実績

#### 宇流麻学術研究助成基金

研究者	研究課題
卯田 卓矢	沖縄本島における初詣、七五三、厄除けの実態解明に向けた人文地理学的基礎研究
下地 紀靖	基礎看護教育における手術室看護実習に関する倫理的課題の認識

#### 受託事業

	受託者	事業名	委託者
1	遠矢 英憲	平成28年度ライフスタイルイノベーション創出推進事業「水辺野外活動における安心安全向上IoTシステムの研究開発」	株式会社レキサス
2	遠矢 英憲	平成28年度ライフスタイルイノベーション創出推進事業「海洋危険生物による被害を防止するための安全性、機能性を兼ね備えたマリンスーツ・シューズの研究開発」	有限会社国際潜水教育科学研究所
3	遠矢 英憲	やがし夢の懸け橋事業	株式会社国建
4	卯田 卓矢	一般財団法人東海冠婚葬祭産業振興センター調査研究助成	一般財団法人東海冠婚葬祭産業振興センター
5	教員養成支援センター	名護市学習支援教室「びゅあ」	名護市
6	教員養成支援センター	名護市学習支援教室「びゅあ第二教室」	名護市
7	教員養成支援センター	名護市学習支援教室「びゅあ送迎バス運行業務」	名護市
8	エクステンションセンター	名護市職員研修業務委託事業	名護市
9	エクステンションセンター	キッズウインドサーフィン	一般財団法人沖縄美ら島財団

#### 外部資金受入状況

区分	平成28年度	
	件数	受入額(千円)
文部科学省選定事業	2	13,441
科学研究費補助金	32	21,825
受託研究・事業	9	12,539
寄附金(使途特定あり)	17	8,165
寄附金(使途特定なし)	—	—

※(H28)寄附金(使途特定あり)のうち、奨学金指定は2,376千円となります。

## 地域貢献 I REGIONAL CONTRIBUTIONS

### 名桜大学と地域をつなぐ総合窓口

#### 地域連携機構

平成25年4月1日、エクステンションセンターを北部生涯学習推進センター施設内に設置(平成29年4月1日、地域連携機構に名称変更)。名桜大学における教育研究の成果を積極的に地域社会へ還元し、地域への貢献及び地域との連携活動を推進する目的で設置され、大学と地域をつなぐ総合窓口です。

当機構を中心に、その下に委員会を設置し、国際学群・人間健康学部、総合研究所、事務局、健康・長寿サポートセンター、看護実践教育研究センターとの連携を図り、大学の使命の一つである地域貢献を果たしてまいります。



#### 平成28年度 公開講座 活動実績

講座名	開催日	講師
救急法救急員養成講習会 (赤十字救急法救急員養成講習会)	4月16日(土)、17日(日)、23日(土)、24日(日)	前川 美紀子 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 上級准教授) 学外講師 4名
ゆんたくしながらヘルスアップ (出前出張part9)	5月24日(火)、7月26日(火)、9月6日(月)、12月19日(月)	永田 美和子 (名桜大学 人間健康学部 看護学科 教授) 学外講師 1名
ゆんたくしながら健康づくり in 名護市場	6月19日(日)、8月21日(日)、10月16日(日)、 12月18日(日)、2月4日(日)	永田 美和子 (名桜大学 人間健康学部 看護学科 教授) 佐和田 重信 (名桜大学 人間健康学部 看護学科 准教授) 安仁屋 優子 (名桜大学 人間健康学部 看護学科 助手) 吉岡 萌 (名桜大学 人間健康学部 看護学科 助手)
ハブ(蛇)対策講座	6月9日(木)	新垣 裕治 (名桜大学 国際学群 観光産業教育研究学系 教授) 学外講師 1名
ウォーキング&「脳」活性化プログラムの理論と実践 ヤンバルクイナ保護の現場視察	6月25日(土) 7月9日(土)	平巖 善盛 (名桜大学 名誉教授) 新垣 裕治 (名桜大学 国際学群 観光産業教育研究学系 教授)
臨床医学と診療情報管理学	7月16日(土)	大城 真理子 (名桜大学 国際学群 経営情報教育研究学系 上級准教授) 学外講師 2名
医療福祉介護領域で働く人のための足爪フットケアの 基本のキ	7月31日(日)	大城 凌子 (名桜大学 人間健康学部 看護学科 上級准教授) 伊波 弘幸 (名桜大学 人間健康学部 看護学科 助教)
キネステティック体験会 ー相手を抱えたり、持ち上げたりしない介助法ー	7月31日(日)	大城 凌子 (名桜大学 人間健康学部 看護学科 上級准教授) 伊波 弘幸 (名桜大学 人間健康学部 看護学科 助教)
中世今帰仁勢力と娯楽 ～ナルド(陣取り遊び)の観点から～	8月25日(木)	上間 篤 (名桜大学 名誉教授)
名護市羽地中部地域の歴史文化探訪	9月4日(日)	中村 誠司 (名桜大学 名誉教授) 学外講師 1名
子どもの応急手当	9月24日(土)	安里 葉子 (名桜大学 人間健康学部 看護学科 准教授) 名城 一枝 (名桜大学 人間健康学部 看護学科 准教授)
英文法再考: ながかどう理解したいかを明らかにする 生涯スポーツのための卓球講座	9月24日(土)、10月1日(土) 10月15日(土)、16日(日)	中村 浩一郎 (名桜大学 国際学群 国際文化教育研究学系 教授) 玉城 将 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 助教)
短歌入門	10月20日(木)、11月17日(木)、12月3日(土) 1月29日(日)	屋良 健一郎 (名桜大学 国際学群 国際文化教育研究学系 准教授) 大城 真理子 (名桜大学 国際学群 経営情報教育研究学系 上級准教授) 学外講師 1名
筋力アップでますます元気!マシンを使った実践講座 (9回コース)(健康運動指導士がサポート)	11月5、12、20、26日、12月3、10、17、23日、 1月7日(毎土曜日開催、日曜に変更有り)	山本 薫 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 准教授) 学外講師 1名
スウェーデン生まれのニュースポーツ KUBBを体験しよう	11月23日(水)	平野 貴也 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 教授) 学外講師 1名
中世日本と琉球の関係史	2月12日(日)	屋良 健一郎 (名桜大学 国際学群 国際文化教育研究学系 准教授)

#### 平成28年度 地域出前講座 活動実績

講座タイトル	開催日	講師	機関・団体名
最新の健康運動を楽しく実践! ーJOYBEATを利用した健康教室ー	5月27日(金)	高瀬 幸一 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 教授)	古我知公民館
出張健康鑑定団! あなたの健康度測定してみませんか?	5月27日(金)	高瀬 幸一 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 教授)	古我知公民館
ウォーキング、ジョギング講座 ー科学的知見からのアプローチー	6月24日(金)	高瀬 幸一 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 教授)	古我知公民館
キネステティック ー持ち上げない体の動かし方を体験しようー	6月24日(金)	伊波 弘幸 (名桜大学 人間健康学部 看護学科 助教)	NPO法人ぐすくティサービス 会ふさと苑
精神障害者の家族支援	6月29日(水)	伊礼 優 (名桜大学 人間健康学部 看護学科 上級准教授)	国頭村立保健センター
「心肺蘇生法ーガイドライン2015」 ーみんなで学ぼう救急救命法ー(心肺蘇生法とAEDの実手順)	6月30日(木)	山本 薫 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 准教授)	介護老人保健施設もどぶ ふくぎの里
摂食・嚥下障害を考える ーむせなければ安全でしょうか?ー	7月1日(金)	金城 利雄 (名桜大学 人間健康学部 看護学科 教授) 加藤 節子 (名桜大学 大学院 看護学研究科 2年次)	特定非営利活動法人ぐすく会 デイサービスふさと苑
介護予防、機能回復運動を楽しく実践 FESTAを利用した易しい運動教室	7月21日(木)	高瀬 幸一 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 教授)	今帰仁村古宇利区
セルフコーチング	7月22日(金)	仲田 好邦 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 准教授)	名護特別支援学校
摂食・嚥下障害を考える ーむせなければ安全でしょうか?ー	7月22日(金)	金城 利雄 (名桜大学 人間健康学部 看護学科 教授) 加藤 節子 (名桜大学 大学院 看護学研究科 2年次)	さわやか介護連絡会北部支部
「心肺蘇生法ーガイドライン2015」 ーみんなで学ぼう救急救命法ー(心肺蘇生法とAEDの実手順)	7月25日(月)	山本 薫 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 准教授)	沖縄県立陽明高校
相手をその気にさせる心理学 (対人コミュニケーション論入門)	7月28日(木)	木村 堅一 (名桜大学 国際学群 経営情報教育研究学系 教授)	名護特別支援学校
正しい油の知識で健康を手に入れよう ー脂質の代謝と生理学的なお話ー	7月28日(木)	高瀬 幸一 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 教授)	名護特別支援学校
キネステティック ー持ち上げない体の動かし方を体験しようー	8月1日(月)	伊波 弘幸 (名桜大学 人間健康学部 看護学科 助教)	沖縄愛楽園
健康の維持・増進、老化防止に役立つ食べ物 ー科学的エビデンス(証明)をもとにー	8月22日(月)	高瀬 幸一 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 教授)	名護地区ろうきん友の会
最新の健康運動を楽しく実践! ーJOYBEATを利用した健康教室ー	9月7日(水)	高瀬 幸一 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 教授)	北部保健所
沖縄の健康が危ない!	9月9日(金)	高瀬 幸一 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 教授)	名護市社会福祉課
最新の健康運動を楽しく実践! ーJOYBEATを利用した健康教室ー	9月9日(金)	高瀬 幸一 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 教授)	名護市社会福祉課

セルフコーチング	9月27日(火)	仲田 好邦 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 准教授)	名護すいらんマリーンス
沖縄発 国際協力の可能性	10月8日(土)	小川 寿美子 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 教授)	金武町立図書館
健康づくりのための身体活動基準2013 身体活動指針(アクティブガイド) 「1日10分プラスで健康になろう!」～実践編～	10月14日(金)	山本 薫 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 准教授)	名護市健康増進課
いadakimasuの意味を考えよう	10月21日(金)	高瀬 幸一 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 教授)	名護特別支援学校
出張健康鑑定団! あなたの健康度測定してみませんか?	11月25日(金)	高瀬 幸一 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 教授)	古我知公民館
沖縄の健康が危ない!	12月6日(火)	高瀬 幸一 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 教授)	宮里区老人会
健康づくりのための身体活動基準2013 身体活動指針(アクティブガイド) 「1日10分プラスで健康になろう!」～実践編～	2月2日(木)	山本 薫 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 准教授)	名護市役所健康増進課
出張健康鑑定団! あなたの健康度測定してみませんか?	2月14日(火)	高瀬 幸一 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 教授)	伊江村
ウォーキング、ジョギング講座 ー科学的知見からのアプローチー	2月14日(火)	高瀬 幸一 (名桜大学 人間健康学部 スポーツ健康学科 教授)	伊江村

#### 健康・長寿サポートセンター

##### MEIO COOL HEALTH PROJECT

健康・長寿サポートセンターは、スポーツ・健康科学、看護科学、医学に関する知見を応用し、科学的根拠に基づく健康支援活動を北部12市町村の人々に提供するための中核機能を果たすことを目的として、平成24年12月21日に設立。

主な活動として、「ヘルスサポート(健康支援活動)」、「食育劇活動」、「名護市宮里地区朝市健康相談活動」などがあり、大学で学んだ専門知識を学生が地域に積極的に健康支援という形で還元(展開)している。平成26年には、厚生労働省スマートライフプロジェクト「第3回健康寿命を伸ばそうアワード」において健康局長優良賞を受賞。また平成29年2月には、第1回沖縄県健康づくり表彰「がんじゅうさびら賞:知事表彰」においてヘルスサポートが準グランプリを受賞。



#### 平成28年度 ヘルスサポート 活動実績

市町村	活動内容	実施回数	活動時間	参加人数
沖縄県	平成28年度みんなのヘルスアクション創出事業共催: JOYBEAT運動教室、健康測定、健康相談	4	32	550
うるま市	健康Life JOYBEAT教室共催: JOYBEAT運動教室、健康測定、健康相談	8	32	334
伊平屋村	ウェルネス伊平屋推進事業共催: JOYBEAT運動教室、健康教室、健康相談、レクなど ビーチ&トレイルラン大会及びウォーク大会ボランティア	24 1	72 8	725
大宜味村	大宜味村健康長寿復活支援プログラム共催: 健康講話、スポーツレク、JOYBEAT運動教室、健康測定、健康相談など	11	28	220
東村	JOYBEAT運動教室、健康教室、健康相談	49	98	526
名護市	名護市立図書館: イノベーションイベント(ヨガ教室、健康測定、健康相談)	12	60	825
	古我知区自治会: JOYBEAT運動教室、健康測定など 宮里病院: 健康支援交流会	8 5	16 10	102 164
伊江村	JOYBEATによる運動教室、ジョギングおよびウォーキング講座	2	6	50
番組出演	琉球放送「金曜日ゆうわく」			
総計		124回	362時間	3,496人

#### 平成28年度 食育劇活動 活動実績

食育劇や食育に関する講話を年間通して12回実施。名護市や本部町、今帰仁村等の幼稚園、小・中学校、高等学校、各種団体の幼児・児童・保護者・高齢者を対象に展開した。平成28年度は、本部町立幼稚園会の生活習慣見直し取り組み計画の協働取り組みを行った。

#### 平成28年度 名護市宮里地区朝市健康相談活動 活動実績

宮里区が主催する「朝市」の場を活用して、住民の健康チェックおよび健康相談活動等を毎月1回開催し、4月～3月までに延べ人数で565名の住民の健康づくりを支援した。また、7月の「宮里まつり」への運営協力や、12月には学生が企画運営をし、「朝市」ゆんたく健康まつり」を開催した。

#### 看護実践教育研究センター

##### “実践・教育・研究”の地域拠点 (Center of Community)

名桜大学看護実践教育研究センターは、北部地域の保健・医療・福祉施設におけるケアの質の向上を目的とした看護系職員の継続教育・研究の支援を行う。あわせて、関係自治体や機関等と連携し、少子・高齢化社会に対応するケアの“実践・教育・研究”の地域拠点(Center of Community)を目指す。やんばるの地に根ざしたケアリング文化並びに社会の発展に貢献する看護系人材養成を目的とした事業を行う。



#### 平成28年度 看護実践教育研究センター 活動実績

	活動内容	開催日	参加人数
1	平成28年度臨床で活かす看護研究 ～ケアの質の向上をめざして～	5/7、5/21、6/4、6/25	126
2	ナーシングバイオメカニクスに基づく生活支援技術セミナー(初級編、口腔ケア)	11/20、11/21、11/23	48
3	臨床教育力の向上をめざしたケアリングCSD①(研修報告伝達講習会)	10/29	11
4	臨床教育力の向上をめざしたケアリングCSD②(臨床指導者研修会)	7/30	25
5	北部地域看護・介護実践報告会及び表彰	3/11	72
6	第1回北部地域施設代表者懇談会～情報交換会～・講演会～	7/29、1/30	23
7	ケアリング事例検討会～シリーズ「沖縄の文化と看護」～(第1回～3回)	5/16、9/16、2/7	119
8	誰でも住み慣れた地域で暮らしたいーそのための知恵づくりー(第1回～3回)	5/27、7/11、11/29	22
9	精神障がい者の地域生活支援ユングク会～土屋徹先生講演会・研修会～	6/21	45
10	キネステティックで学ぶ お互い楽になる介助法	9/4	20
11	保育園看護師&保育士で保育保健についての情報交換や学びを深めましょう～情報交換会～(第1回～4回)	5/26、9/15、12/15、1/26	72
12	保育園看護師&保育士で保育保健についての情報交換や学びを深めましょう～講演会～(第1回～3回)	6/6、9/15、3/4	264
13	在宅ケア施設見学と情報交換(第1回～6回)	5/21、7/16、9/17、11/26、1/21、3/11	115
14	やんばる母子支援研究会(第1回～4回)	5/20、7/22、10/21、12/2	61
15	北部広域保健事例検討会(第1回～3回)	10/18、11/15、1/17	26
16	保健師スキルアップ研修会	10/18	40
17	メンタルヘルス・精神看護事例検討会～(第1回～3回)	6/25、8/13、11/26	40
18	精神看護研究会	4/23、5/28、7/30、9/24、10/22、1/28	253
参加者合計			1,382

名桜大学のさまざまな機能・施設を地域みなさんに提供します。



名桜大学は、沖縄県北部12市町村とその住民に支えられて開学した経緯があり、地域住民に開かれた大学を目指しています。そのため本学の機能・施設を地域住民に開くことは、本学の重要なサービスの一つです。

現在、名桜大学が地域に提供している機能・施設として、多種多様な公開講座、図書館の一般利用、授業科目の公開、各種体育施設の団体利用、さまざまなイベントに対応できる多目的ホールなどがあります。それらの利用に関してご案内します。

施設の利用案内

学生会館 SAKURAUM 利用案内

「学生の主体的な学び」の場として、先輩・後輩コミュニティを基本とした学習支援や、教員、職員、学生、市民が自律的に学習できる環境の実現に尽力することを目的に名桜大学学生会館SAKURAUMが建設されました。教職員、学生、市民の教育・学習・研究活動が「みえる・つながる・ひろがる」をコア・コンセプトとして館内の環境整備が推進されており、学内外の交流の場として有効に活用されることが期待されています。

開館時間等	○ 月～金 / 8:00～20:00 ※長期休業中（夏季、冬季、春季休業） 月～金 / 8:00～18:00
休館日	○ 土・日・祝祭日 ○ 6月23日（慰霊の日） ○ 夏季休暇（教職員） ○ 12月28日～1月3日までの日

学生会館 SAKURAUM の主な館内施設

6階	スカイホール（ホールA・ホールB）	会議
5階	キャリア支援課・教員養成支援センター・S-CUBE 学生会館運営室・アクティブラーニングスペース・研修室B カンファレンスルームB・カンファレンスルームC	学生支援関連
4階	言語学習センター・数理学習センター・ライティングセンター ウェルナビ・アクティブラーニングスペース・研修室A カンファレンスルームA	
3階	大講義室A・大講義室B・学生ラウンジ	学習・講義関連
2階	カフェ	
1階	総窓窓口・ウェルカムホール・ ホームカミングコーナー・プレゼンテーションコーナー	エントランス

問い合わせ先 学生会館運営室 TEL 0980-51-1200

多目的ホール

多目的ホールは名護市と本学との合意により建設された施設で、名護市における教育、文化及び産業活動、そして名桜大学の教育研究活動の活性化を図るために行われる各種事業に供されています。

多目的ホール内には、外部利用が可能な施設として講堂、研修室、マルチメディア講義室、マルチメディア編集室、屋外ステージがあります。これらの施設は、名桜大学生や名護市民はもちろん、県内の各種団体、公共機関のみなさんが利用できます。利用できる日時は下記のとおりとなります。使用料や申し込み等の詳細については、問い合わせ先窓口までお願い致します。

利用日	原則として次に挙げる日以外の日 ・ 土曜日、日曜日 ・ 祝祭日 ・ 12月28日～翌年1月4日
時間	原則として9:00から21:00までの間

問い合わせ先 施設課 TEL 0980-51-1246

その他の大学施設利用案内

学内の教育研究活動及び行事が優先となりますが、講義棟の教室やグラウンド、体育館、テニスコート等の体育施設も支障がない範囲で地域の皆様も借用が可能となります。利用を希望する場合、下記の担当窓口までお問い合わせください。

問い合わせ先 施設課 TEL 0980-51-1246

名桜大学附属図書館

約15万冊の図書資料を学外のみなさんにも提供しています。館外貸出を希望されるみなさんは「図書館利用者証」の発行手続きをとってください。開館時間、その他の問い合わせなどは下記まで。

開館時間等	●月～金 / 8:45～22:00 ●土曜日 / 12:00～18:00 ※長期休業中（夏季、冬季、春季休業） 月～金 / 8:45～17:00 土曜日 / 12:00～18:00																		
休館日	●日・祝祭日 ※開館時間の変更、臨時休館は随時館内に掲示しお知らせします。																		
図書館のサービス	●図書等の貸出 学外者で図書の貸出を希望する場合は図書館利用者証の発行手続きが必要です（無料）。 利用者証を発行する際は、現住所（県内在住）の証明できる身分証（運転免許証など）、顔写真1枚（縦3cm、横2.5cm）をご持参ください。 なお、県内在住の高校生を含む15歳以上19歳未満の方は保護者の同意書が必要です。利用者の有効期限は発行日から1年間です。 ●端末機で図書情報を検索 ●文献複写サービス ●インターネットの利用 ●視聴覚サービス																		
名桜大学懸賞作品コンクール	高校生以上の県内在住者及び県出身者を対象とした小説と詩歌の懸賞作品コンクールを平成17年より毎年実施しています。平成28年度より小説部門、詩部門、短歌部門の3部門に分け、それぞれの受賞作品の作者には賞状と賞金が授与されます。																		
館外貸出冊数及び期間	<table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>冊数</th> <th>期間</th> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>10冊以内</td> <td>4週間以内</td> </tr> <tr> <td>大学院生</td> <td>10冊以内</td> <td>4週間以内</td> </tr> <tr> <td>学部学生</td> <td>5冊以内</td> <td>2週間以内</td> </tr> <tr> <td>事務局職員</td> <td>5冊以内</td> <td>2週間以内</td> </tr> <tr> <td>学外者</td> <td>2冊以内</td> <td>2週間以内</td> </tr> </table>	区分	冊数	期間	教員	10冊以内	4週間以内	大学院生	10冊以内	4週間以内	学部学生	5冊以内	2週間以内	事務局職員	5冊以内	2週間以内	学外者	2冊以内	2週間以内
区分	冊数	期間																	
教員	10冊以内	4週間以内																	
大学院生	10冊以内	4週間以内																	
学部学生	5冊以内	2週間以内																	
事務局職員	5冊以内	2週間以内																	
学外者	2冊以内	2週間以内																	

問い合わせ先 名桜大学附属図書館 TEL 0980-51-1062

名桜大学総合研究所

名桜大学総合研究所は「地域に根差した研究所」をモットーに日頃の研究成果を広く地域社会へ還元することを目的とし、以下のような事業に取り組んでいます。

1. 総合研究所紀要の発行、研究発表会の開催
2. 研究助成（学際的共同プロジェクト研究、特定研究、出版助成）
3. 基盤形成事業、地域貢献研究萌芽のプロジェクト
4. 科学研究費および外部の研究助成・受託研究・共同研究の受入
5. コンプライアンス教育研修会及び研究倫理教育研修会の開催

シンポジウム・講演会等の開催につきましては、大学ウェブサイトやマスコミを通じて開催前から随時お知らせしております。詳しくは以下の連絡先までお問い合わせください。

問い合わせ先 名桜大学総合研究所  
TEL 0980-51-1107 FAX 0980-51-1136

名桜大学 授業科目の公開

名桜大学では、平成13年度後学期から正規の授業科目を公開しています。高等教育機関として、社会人の生涯教育、リフレッシュ教育の推進を図るため、公開講座のみならず、正規の授業科目も広く社会人に公開します。前学期（4月～7月）、後学期（10月～1月）の受講生の募集を行いますので、お問い合わせください。

受講対象者	一般社会人、シニアシティズン（60歳以上）
公開される授業科目	実習、演習、実技科目を除くすべての科目
受講の条件と資格等	名桜大学に通学して、学生とともに15週にわたって受講できる社会人であること。1週間における授業回数は1科目で1回または2回です。社会人であれば学歴を問いません。1人2科目まで受講できます。
受講料	1科目につき、7,000円（テキスト代は別）（シニアシティズンの方は、1科目は受講料を徴収しない。）その他、問い合わせは下記まで。

問い合わせ先 教務課（本部棟2階） TEL 0980-51-1055

名桜大学出張講座 一中・高等学校対象一

名桜大学では、沖縄県内の高等学校、北部所在の中学校、奄美地域所在の高等学校を対象に「出張講座」を実施します。総合学習の時間、ロングホームルームの時間をご利用ご活用ください。

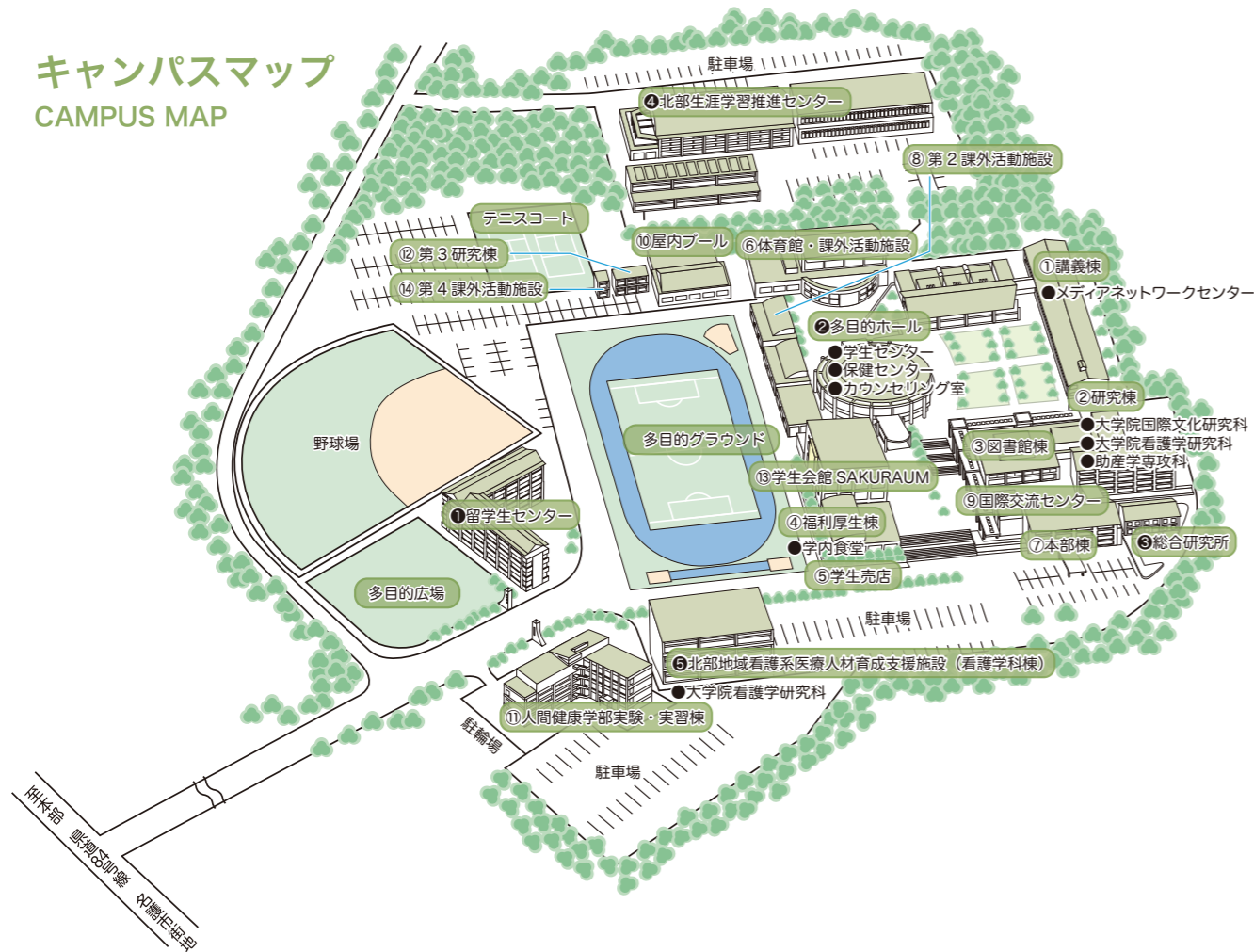
【平成29年度 名桜大学出張講座 一中・高等学校向け一】

講座名称	担当教員／専門分野	講座名称	担当教員／専門分野
シルクロードとインターネット	シャイステファロク(比較芸術学)	同窓会を差をつけよう！「秀ない老けない太らない私へと！」	
沖縄の教育の歩み	嘉納 英明（教育学）	ファーストフードの驚くべき秘密「知ると怖〜い食べ物」(New Version!)	
『おもろさうし』からみる地域の歴史・民俗文化	照屋 理（琉球文学）	いただきますの意味を考えよう	
短歌をよむ		筋肉の種類で決まる運動種目の適正「トレーニングを科学する」	高瀬 幸一（運動生理学）
琉球と薩摩	屋良 健一郎（日本史、日本文化）	科学的に捉えるポルト選手秘密	
江戸時代の日本と外国		健康で長生きするにはどうしたらいい？	
インカ帝国の文化と信仰	上原 なつき（文化人類学）	長野＝長寿！健康で長生きの秘訣とは！	
英語圏留学をしてみませんか	渡慶次 正則（英語教育）	ダイエット情報のウソ・ホント？	
通訳技能で英語力アップ!!		スポーツ選手の体の秘密	
ディベートで英語力アップ!!	与那覇 惠子（英語科教育）	スポーツ科学を目指す君たちへ〜数学や理科は何故必要か？〜	奥本 正（スポーツ栄養学）
日本語と英語の比較・対照	中村 浩一郎（言語学）	ストレッチでも体力は高まる？	
小説作品における沖縄本島北部の描かれ方	小嶋 洋輔(日本近・現代文学研究)	スポーツ選手の栄養摂取方法	
アイドルの経済学	宮平 栄治（経済政策）	スポーツトレーニングにおける科学的データの活用法	
ヒューマン・エラーの心理学(問題解決の心理学入門①)		スポーツとコーチング	平野 貴也(スポーツコーチング)
占いにハマる心理(問題解決の心理学入門②)		生涯スポーツ実践講座！	
リーダーシップの心理学(人間関係論入門①)	金城 亮（産業組織心理学）	携帯端末でスポーツマンになる	田原 亮二(スポーツバイオメカニクス)
あなたの気持ち、うまく伝わってる？(人間関係論入門②)		スノーケリングを利用した水泳教室	遠矢 英恵(野外教育)、田原 亮二(体育科教育)
ひとは何のために働くのか？(産業組織心理学入門)		統計に惑わされないために	山本 健司(心理学)
偏見・差別を乗り越える！(社会心理学入門)	木村 堅一（心理学）	科学の眼から見たアスリートの巧み	石橋 千征(スポーツ心理学、バスケットボール部監督)
相手をその気にさせる心理学(対人コミュニケーション論入門)		バスケットボールクリニック	
起業する（会社をつくる）	林 優子（経営戦略）	レクリエーション・スポーツ	東恩納 玲代(健康・スポーツ科学)
おこづかい帳と簿記	仲尾次 洋子（会計学）	「健康」について考えよう ー身体活動の重要性ー	
憲法と沖縄	大城 渡（公法学）	スポーツと人種〜黒人アスリートの歴史〜	
起業者の想い		スポーツマンシップについて考えよう	大峰 光博(スポーツ哲学)
企業は、ヒトなり！	大城 美樹雄（経営学）	オリンピックの歴史	
経営学と経済学		スポーツに役立つ映像の基礎知識	
地域活性化と経営学		スポーツとコンピュータビジョン	玉城 将(スポーツ工学、卓球)
大学へのプログラミング		生涯スポーツとしての卓球	
ロボットと話をする日	中里 収（情報）	スポーツにおけるデータ分析の最新事例	
検索システムってどうなってるの？-googleって、すごいねえ-	田邊 勝義（情報）	感情労働と看護ー「白衣の天使」像の矛盾と葛藤ー	
コンピュータがコンピュータになった？アクションの情報理論を理解しよう！	佐久本 功達（情報科学）	若い皆さんにとって看護を学ぶ意義と可能性について	
30分で相撲ゲーム作成		誰にでも起こりうる精神的トラブル	鈴木 啓子（精神看護学）
Linuxってすごいよ！	アラスーン・ピーター M.（コンピュータ・グラフィックス）	身近な人から「死にたい」と訴えられたらー	
無料ソフトで自分の家をデザインしてみない？		月経に伴う症状に対するセルフケアについて	小西 清美（母性看護学）
短いアニメの作成を目標に、小学生でもわかるプログラミング入門を体験する		赤ちゃんってすごいを学ぼう	島田 友子（母性看護学）
SEとPGって何が違うの？	天願 健（情報）	認知症について知ろう&できることを始めよう！	
IT業界の業種と職種		高齢者に優しく接していますか。	永田 美和子（高齢者在宅看護）
自分で検索するための「医療用語」入門	大城 真理子(医学、病理診断学)	看護のいるにはほへと	
目でみる「がん細胞」のかたち		看護の魅力(Part1)「命の誕生から命を看取るその日まで」	大城 凌子（基礎看護学）
「エコツーリズム」、沖縄の観光の魅力はこれに尽きる！		キネステティクスー持ち上げない体の動かし方を体験しようー	
グレートバリアリーフでの環境保全と観光	新垣 裕治(生物学、エコツーリズム)	進路に悩んでいるあなたへ	名城 一枝（基礎看護学）
沖縄のマンガースと移入種		「相手の立場になって考える」とは	
ヤンバルクイナが絶滅の危機！現状と対策		自分を知ってのりきる、人生の危機 ー思春期編ー	
やんばると奄美の赤土汚染	田代 豊(環境科学)	“摂食障害”について考えてみる	平上 久美子（精神看護学）
必殺!!「環境調査人」のお仕事		多様な性と生を考える	
人間と環境ーなぜ木を植えるのか？ー		誰にでも簡単にできるリラクゼーション技法ー足浴-	
米軍基地の環境問題	長谷川 順一郎(ホスピタリティ経営論)	足のマッサージを体験して学ぼうー	鬼頭 和子（精神看護学）
国際級ホテルの魅力		身体を温めリラックスしよう！ハーバルボール体験	
世界はなぜ不平等なんだろう？〜貧困と健康格差社会について〜		国際理解ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」	金井 優子(総合看護)、横川 裕美子(総合看護)
「ボランティア」と「奉仕」って違うの？	小川 寿美子（公衆衛生学）	みんなで考える生〜「自分を大切にしよう」ってどんなこと？〜	
ソーラークッキングでエコ体験！		みんなで考える性〜“すぎ”だからできること、許せることって何だろう？〜	小柳 弘恵（助産学・母性看護学）
沖縄＝長寿？沖縄の健康が危ない！	高瀬 幸一（運動生理学）	学校で取り組む思春期教育〜生と性の教育における学校と家庭の役割〜	
なぜアフリカのランナーは速いの？「ペケレ」選手の秘密		夢が広がる数学の学び	高安 美智子（数学教育）
私ってなぜ運動オンチなの？		「你好！」あいさつで覚える中国語	賀 南（中国語教育）
「遺伝」するもの、しないもの！性格・頭脳・運動神経・病気…			

問い合わせ先 入試課 TEL 0980-51-1056

# 校舎等施設

## キャンパスマップ CAMPUS MAP



### 1 校地面積 ..... 平成 29 年 5 月 1 日現在

(1)自己所有地	114,085.00㎡
(2)無償貸借地	140,405.98㎡



### 2 校舎面積 ..... 平成29年5月1日現在

(1) 自己所有	① 講義棟	5,076.58㎡
	② 研究棟	2,985.82㎡ <small>(大学院 466.98㎡含む)</small>
	③ 図書館棟	2,502.27㎡ <small>(研究室 568.31㎡含む)</small>
	④ 福利厚生棟	985.15㎡
	⑤ 学生売店	92.74㎡
	⑥ 体育館・課外活動施設	1,770.35㎡
	⑦ 本部棟	2,081.88㎡
	⑧ 第2 課外活動施設	717.94㎡
	⑨ 国際交流センター	338.34㎡
	⑩ 屋内プール	929.42㎡
	⑪ 人間健康学部実験・実習棟	2,367.60㎡
	⑫ 第3 研究棟	683.15㎡
	⑬ 学生会館 SAKURAUM	6,191.12㎡
	⑭ 第4 課外活動施設	160.38㎡
(2) 名護市指定 管理施設	① 留学生センター	2,099.67㎡ <small>(大学所有分 799.44㎡含む)</small>
	② 多目的ホール	2,872.00㎡
	③ 総合研究所	854.00㎡
	④ 北部生涯学習推進センター	6,379.00㎡
	⑤ 北部地域看護系医療人材育成支援施設	3,762.00㎡

### 本部棟



4 階	理事長室、学長室、事務局長室、副学長室、第一会議室
3 階	人間健康学部長室、総務企画部、財務部、第二会議室
2 階	国際学群長室、教務部、非常勤講師控室
1 階	守衛室、防災センター

### 研究棟



2～5 階	教員研究室
1 階	大学院国際文化研究科、助産学専攻科

### 講義棟



大講義室3室
中講義室6室
語学系講義室9室、多目的教室2室、事務室1室
ゼミ室3室
自然系実験室1室
情報系講義室4室 (内準備室1)

### 多目的ホール



名護市により建設されたドーム型の多目的施設。大ホールは451席のスペースを有し、授業や講演会、学会、シンポジウム、コンサートなど、学内外に広く開放・利用されている。また、屋外ステージは、1,000人規模のコンサートやイベントに利用されている。

平成11年6月完成

### 附属図書館



教育研究に必要な図書資料・情報を収集・整理・保存し、学生・教員そして市民に利用を提供している。蔵書数は次のとおり。

平成 29 年 4 月 1 日現在

資料種別	資料種別	蔵書数
図書(冊)	和	120,597
	洋	39,100
	合計	159,697
雑誌(種)	和	423
	洋	106
	合計	529
A V(点)	和	2,886
	洋	402
	合計	3,288

### 北部地域看護系医療人材育成支援施設 (看護学科棟)



看護学科棟は、北部地域看護系医療人材育成支援機能を兼ねて、高度な教材備品と、充実した設備が完備されている。開放的な空間が広がり、各階のピロティには、ポップカラーのテーブルと椅子が配置され、学生の憩いの場となっている。

平成21年3月完成

人間健康学部実験・実習棟 ..... 平成18年3月完成



最新のトレーニング機器や筋機能測定装置、トレッドミル・エルゴメーターなどを備えた運動学・運動生理学実験室、看護・介護・養護実習室、プレイルーム・心理学実験室などの充実した設備が完備されている。

保健センター ..... 平成18年3月完成



保健センターでは、保健室、学生相談室で学生、教職員がセルフメディケーションを行えるようサポートしている。さらに、学業・人間関係・健康の保持増進(身体面・精神面)・疾病の予防・活動(部活動・サークル活動・アルバイト等)を通し、よりよい学生生活を営むことができるよう、自己管理を目標とし、学生を中心にびゅう活動を行っている。  
【保健室利用時間】8:30~19:00  
【学生相談室利用時間】保健室にてご確認ください。※要予約

体育館 ..... 平成18年3月完成



講義での使用はもちろん、バスケットボール、ハンドボール、バレーボールなどのサークル活動でも使用されている。

野球場 ..... 平成16年3月完成



硬式野球部のサークル活動で利用されている。充実した課外活動が行えるよう、夜間照明設備も整備されている。

留学生センター ..... 平成6年4月完成(1階)/平成11年1月増築分完成(2・3・4階)



留学生センターはキャンパス内の宿舎で、全室個室でキッチン、バス、トイレ、冷蔵庫、食器棚、ベッド、クーラーを完備した95室が用意され、主に外国人留学生を対象に学習・生活の支援を行っている。

国際交流センター ..... 平成27年4月完成



平成27年4月から発足した「国際交流センター」は、本学の海外協定大学・研究機関との教育研究交流を中心に、留学生センターの運営管理、外国人留学生の修学及び生活に係る指導や相談、海外協定大学との交換留学及び留学生奨学金などの業務を担っている。

学内食堂・売店 ..... 平成17年3月完成



学内食堂  
名護湾を見下ろせるコーナーやボックスシート、ランチタイムを快適に過ごせるような空間となっている。メニューは栄養バランスが配慮され、価格は280円から480円。座席数は320席、営業時間は11時から15時まで。施設は8時から20時まで開放。

売店  
8時から19時まで営業。教科書をはじめ、書籍、雑誌、文具、日用雑貨、弁当、菓子パン、スナック菓子や飲料水等を販売。

屋内プール ..... 平成17年3月完成



平成17年3月に完成した屋内プールは、25mのプールと水深5mのダイビング訓練用潜水プールを備えており、授業やサークル活動は勿論のこと消防や海上保安庁の訓練でも使用されている。

北部生涯学習推進センター ..... 平成16年10月開設

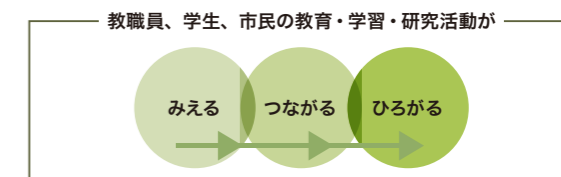


沖縄県北部地域における生涯学習や地域振興に資する人材育成などを目的とした、産官学の連携による名護市公共施設としてキャンパス内に建設され、管理・運営が名桜大学に委託されている。施設内には、研修室、パソコンルームなどが整備されている。

学生会館 SAKURAUM ..... 平成26年12月完成

～「みえる・つながる・ひろがる」をコア・コンセプトにした交流の場～

名桜大学開学20周年・公立大学法人化5周年記念事業の一環で「学生の主体的な学び」の場として、先輩・後輩コミュニティを基本とした学習支援や教員、職員、学生が自立的に学習できる環境の実現を目的として名桜大学学生会館SAKURAUMが建設され、学内外の交流の場としても有効に活用されている。



オープンスペース	学習環境の充実	学習支援の充実	プレゼンテーションスペース	集う空間	食・憩・話	相談窓口の充実	学習情報の一元化
敷地面積	218,228.00㎡						
階数	地上6階						
高さ	最高の高さ29.65m 軒高28.25m						
面積	6,191.12㎡						

SAKURAUMとは

名桜大学の桜=サクラのイメージとドイツ語で空間を意味するラウム (Raum) を合わせて、サクラ+ラウムの造語。サクラウム=桜生むということで、この施設で新たな教育の原動力を生むことにもつながります。

1F ウェルカムホール

開放感のあるエントランスの一角には仕切りのないプレゼンテーションコーナーが設置されている。



2F カフェ

コミュニケーションスペースとして利用。琉球畳を敷いたスペースもある



3F 大講義室(2室)

248人収容の大講義室



4F 学生支援

言語学習センター  
数理学習センター  
ライティングセンター  
アクティブラーニングスペース  
ウェルナビ



5F 学生支援

キャリア支援課教員養成支援センター  
アクティブラーニングスペース  
S-CUBE



6F スカイホール

名護湾・名護市街が一望できる最上階のスカイホール



多目的グラウンド ..... (平成28年11月完成)

テニスコート ..... (平成28年11月完成)

多目的広場 ..... (平成29年6月完成)

全天候型ウレタン舗装の400mトラック(6レーン、直線部6レーン)、フィールド競技として走高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投を設置し、日本陸連4種公認取得予定の陸上競技場及びインフィールドに人工芝のサッカー場とラグビー場を設けた。講義・課外活動をはじめ各種大会等も行われている。

また、周辺整備として全面人工芝2面のテニスコートを移設整備し、多目的広場をソフトボールおよび軟式野球場の練習場として改修した。平成29年8月から夜間の使用も可能。

面積：多目的グラウンド	17,465.00㎡
テニスコート	1,277.80㎡
多目的広場	3,261.00㎡



学部・学群

在籍者数 平成29年5月1日現在

学部	学科	入学定員 (編入)	1年次			2年次			3年次			4年次			合計			収容 定員	定員 超過率
			男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計		
国際学群	国際学類	280(15)	123	171	294	141	174	315	141	180	321	162	192	354	567	717	1,284	1,150	1.12
人間健康 学部	スポーツ健康	95(5)	56	45	101	61	40	101	50	51	101	66	49	115	233	185	418	390	1.07
	看護	80(5)	12	77	89	12	72	84	26	65	91	18	68	86	68	282	350	330	1.06
	小計	175(10)	68	122	190	73	112	185	76	116	192	84	117	201	301	467	768	720	1.07
合計		455(25)	191	293	484	214	286	500	217	296	513	246	309	555	868	1,184	2,052	1,870	1.10

留学生・外国人学生(再掲) 平成29年5月1日現在

国籍	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
中国	3	4	3	8	18
韓国	0	1	1	1	3
マレーシア	2	0	0	0	2
セネガル	0	2	0	0	2
台湾	0	0	1	0	1
合計	5	7	5	9	26

沖縄県費留学生 平成29年5月1日現在

国籍	人数
台湾	1
合計	1

科目等履修生・特別聴講学生・研究生 平成29年5月1日現在

科目等履修生	特別聴講学生	研究生	合計
11	42	0	53

国際学群国際学類専攻別在籍者数 平成29年5月1日現在

学群	学類	専攻	3年次				4年次				合計			
			男	女	男女計	学年全対比	男	女	男女計	学年全対比	男	女	男女計	専攻全対比
国際学群	国際学類	専攻なし	4	3	7	2.2%	0	0	0	0.0%	4	3	7	1.0%
		国際文化	24	34	58	18.1%	24	33	57	16.1%	48	67	115	17.0%
		語学教育	31	60	91	28.3%	39	66	105	29.7%	70	126	196	29.0%
		経営	33	17	50	15.6%	41	27	68	19.2%	74	44	118	17.5%
		情報システムズ	8	5	13	4.0%	16	5	21	5.9%	24	10	34	5.0%
		診療情報管理	2	10	12	3.7%	6	15	21	5.9%	8	25	33	4.9%
		観光産業	39	51	90	28.0%	36	46	82	23.2%	75	97	172	25.5%
合計			141	180	321	100%	162	192	354	100%	303	372	675	100%

※国際学群学生は、3年次から専攻に所属する教育システムとなっている。

都道府県別在籍者数 平成29年5月1日現在

都道府県名	1年次	2年次	3年次	4年次	合計	都道府県名	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
北海道	8	7	10	12	37	滋賀県	1	0	0	0	1
青森県	0	3	4	4	11	京都府	5	3	5	5	18
岩手県	1	12	4	11	28	大阪府	6	8	5	7	26
宮城県	3	0	2	0	5	兵庫県	8	10	4	11	33
秋田県	1	1	3	3	8	奈良県	2	1	4	0	7
山形県	1	1	1	1	4	和歌山県	1	2	0	1	4
福島県	3	2	1	2	8	鳥取県	3	2	3	2	10
茨城県	14	5	6	10	35	島根県	1	2	0	3	6
栃木県	2	3	0	2	7	岡山県	3	6	4	7	20
群馬県	4	2	0	1	7	広島県	8	11	14	7	40
埼玉県	0	2	0	1	3	山口県	2	3	0	2	7
千葉県	0	2	4	3	9	徳島県	5	1	1	3	10
東京都	4	2	7	5	18	香川県	0	1	4	3	8
神奈川県	0	1	2	1	4	愛媛県	2	5	10	9	26
新潟県	4	3	4	2	13	高知県	0	1	4	2	7
富山県	3	1	1	0	5	福岡県	22	29	23	24	98
石川県	1	4	1	3	9	佐賀県	6	5	5	3	19
福井県	0	4	3	2	9	長崎県	21	16	18	18	73
山梨県	1	2	2	1	6	熊本県	14	15	9	8	46
長野県	2	4	2	0	8	大分県	14	14	15	25	68
岐阜県	1	2	5	3	11	宮崎県	14	17	14	18	63
静岡県	4	8	7	15	34	鹿児島県	33	33	31	34	131
愛知県	6	5	8	7	26	沖縄県	243	229	258	264	994
三重県	2	3	1	0	6	海外	5	7	4	10	26
合計						484	500	513	555	2,052	

※統計上、出身校の所在都道府県を学生の出身都道府県とした。  
ただし、編入生及び大検学生については、帰省先を出身都道府県とした。

学生数推移(直近10年) ※年度ごとの学生総数。各年度5月1日現在

学部 学科	年度	2008 (平成20)			2009 (平成21)			2010 (平成22)			2011 (平成23)			2012 (平成24)		
		男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計
学 国際 部 国際	国際文化・経営情報・ 観光産業学科	563	212	775	319	115	434	85	24	109	31	5	36	11	1	12
学 国際 群 国際	国際学類	355	138	493	453	197	650	607	326	933	592	428	1,020	583	531	1,114
人間健康 学部	スポーツ健康学科	273	170	443	294	158	452	288	152	440	299	154	453	277	167	444
	看護学科	32	149	181	46	221	267	62	292	354	60	298	358	61	290	351
	小計	305	319	624	340	379	719	350	444	794	359	452	811	338	457	795
合計		1,223	669	1,892	1,112	691	1,803	1,042	794	1,836	982	885	1,867	932	989	1,921

学部 学科	年度	2013 (平成25)			2014 (平成26)			2015 (平成27)			2016 (平成28)			2017 (平成29)		
		男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計
学 国際 部 国際	国際文化・経営情報・ 観光産業学科	2	0	2	1	0	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
学 国際 群 国際	国際学類	581	640	1,221	587	699	1,286	588	697	1,285	574	708	1,282	567	717	1,284
人間健康 学部	スポーツ健康学科	239	187	426	234	185	419	225	191	416	230	185	415	233	185	418
	看護学科	65	301	366	69	288	357	79	277	356	74	285	359	68	282	350
	小計	304	488	792	303	473	776	304	468	772	304	470	774	301	467	768
合計		887	1,128	2,015	891	1,172	2,063	892	1,165	2,057	878	1,178	2,056	868	1,184	2,052

※1 2010年(平成22年)公立大学法人へ移行  
※2 国際学部は2007年(平成19年)学生募集停止。2015年(平成27年)3月31日付廃止。

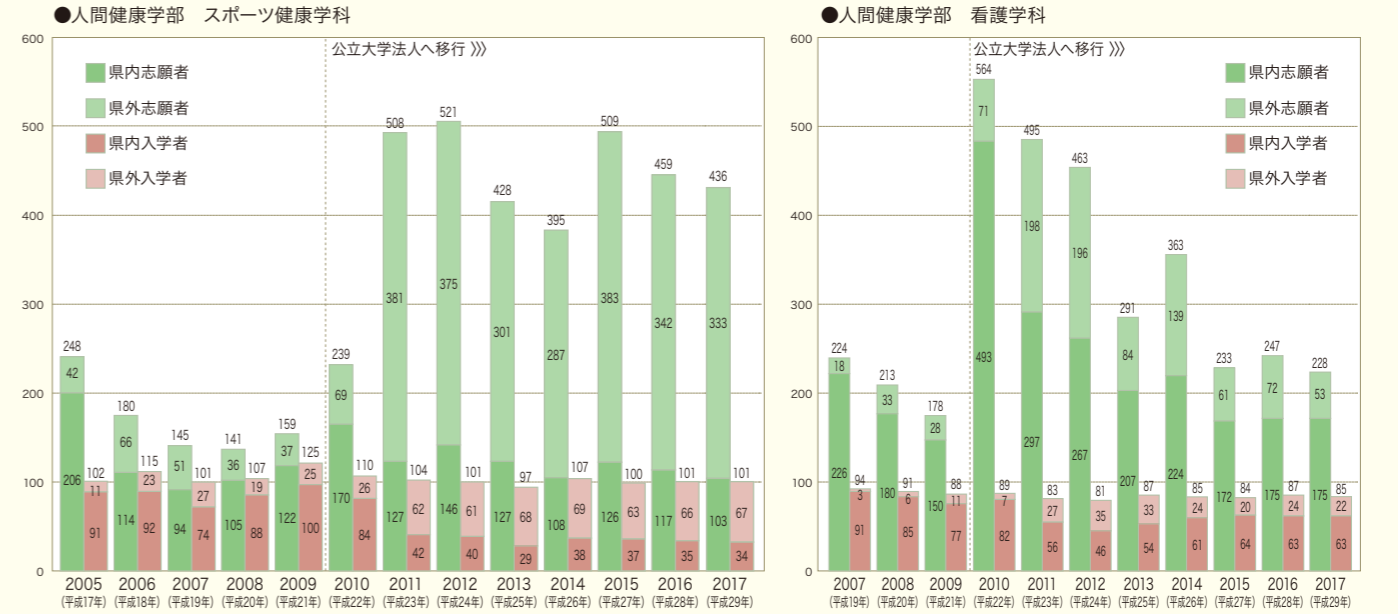
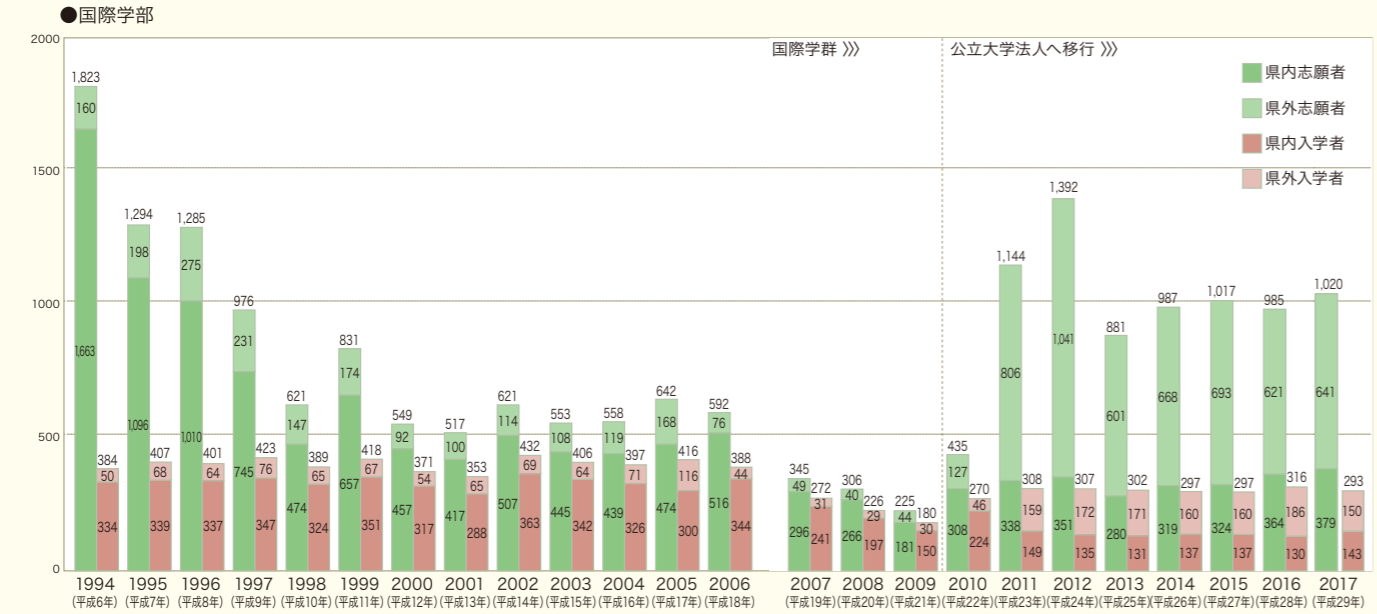




志願・入学状況

学群・学部 志願者・入学者数推移(県内・県外別)

※各年度、4月1日現在



卒業・修了状況

学部卒業生数

卒業年度	1997～2006 (平成9～18)			2007 (平成19)			2008 (平成20)			2009 (平成21)			2010 (平成22)			2011 (平成23)		
	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計
国際学部 年度別 (内留学生)	—	—	—	229	118	347	205	85	290	214	87	301	32	13	45	16	3	19
学部累計 (内留学生)	2,032	1,264	3,296	2,261	1,382	3,643	2,466	1,467	3,933	2,680	1,554	4,234	2,712	1,567	4,279	2,728	1,570	4,298
国際学群 年度別 (内留学生)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	113	69	182	108	54	162
学群累計 (内留学生)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	113	69	182	221	123	344
人間健康学部 年度別	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
スポーツ健康学科	—	—	—	—	—	—	65	43	108	69	45	114	39	41	80	60	30	90
看護学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	13	66	79	15	72	87
学部年度計	—	—	—	—	—	—	65	43	108	69	45	114	52	107	159	75	102	177
累計	—	—	—	—	—	—	65	43	108	134	88	222	186	195	381	261	297	558
全学 年度合計 (内留学生)	—	—	—	229	118	347	270	128	398	283	132	415	197	189	386	199	159	358
総数累計 (内留学生)	2,032	1,264	3,296	2,261	1,382	3,643	2,531	1,510	4,041	2,814	1,642	4,456	3,011	1,831	4,842	3,210	1,990	5,200

2012 (平成24)			2013 (平成25)			2014 (平成26)			2015 (平成27年)			2016 (平成28)		
男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計
7	1	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(0)	(0)	(0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2,735	1,571	4,306	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	(141)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
111	52	163	113	102	215	122	159	281	135	158	293	116	146	262
(1)	(8)	(9)	(11)	(13)	(24)	(4)	(3)	(7)	(5)	(6)	(11)	(3)	(2)	(5)
332	175	507	445	277	722	567	436	1,003	702	594	1,296	818	740	1,558
(4)	(19)	(23)	(15)	(32)	(47)	(19)	(35)	(54)	(24)	(41)	(65)	(27)	(43)	(70)
72	34	106	55	40	95	57	43	100	51	46	97	43	44	87
10	67	77	17	76	93	16	74	90	18	69	87	16	80	96
82	101	183	72	116	188	73	117	190	69	115	184	59	124	183
343	398	741	415	514	929	488	631	1,119	557	746	1,303	616	870	1,486
200	154	354	185	218	403	195	276	471	204	273	477	175	270	445
(1)	(8)	(9)	(11)	(13)	(24)	(4)	(3)	(7)	(5)	(6)	(11)	(3)	(2)	(5)
3,410	2,144	5,554	3,595	2,362	5,957	3,790	2,638	6,428	3,994	2,911	6,905	4,169	3,181	7,350
—	—	(164)	—	—	(188)	—	—	(195)	—	—	(206)	—	—	(211)

※国際学部平成19年度学生募集停止、平成27年3月31日付廃止。人間健康学部スポーツ健康学科平成17年開設、同看護学科平成19年開設。

修士課程修了生数

修了年度	2002～2006 (平成14～18)			2007 (平成19)			2008 (平成20)			2009 (平成21)			2010 (平成22)			2011 (平成23)		
	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計
国際文化研究科 年度別 (内留学生)	—	—	—	4	0	4	4	3	7	4	0	4	2	4	6	5	3	8
累計 (内留学生)	47	32	79	51	32	83	55	35	90	59	35	94	61	39	100	66	42	108
看護学研究科 年度別 累計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
全大学院 年度合計 (内留学生)	—	—	—	4	0	4	4	3	7	4	0	4	2	4	6	5	3	8
全大学院 累計 (内留学生)	47	32	79	51	32	83	55	35	90	59	35	94	61	39	100	66	42	108

2012 (平成24)			2013 (平成25)			2014 (平成26)			2015 (平成27)			2016 (平成28)		
男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計
2	2	4	2	1	3	3	4	7	2	4	6	3	2	5
(1)	(2)	(3)	(1)	(0)	(1)	(2)	(3)	(5)	(1)	(2)	(3)	(0)	(2)	(2)
68	44	112	70	45	115	73	49	122	75	53	128	78	55	133
(25)	(21)	(46)	(26)	(21)	(47)	(28)	(24)	(52)	(29)	(26)	(55)	(29)	(28)	(57)
1	3	4	0	4	4	1	4	5	2	6	8	0	3	3
1	3	4	1	7	8	2	11	13	4	17	21	4	20	24
3	5	8	2	5	7	4	8	12	4	10	14	3	5	8
(1)	(2)	(3)	(1)	(0)	(1)	(2)	(3)	(5)	(1)	(2)	(3)	(0)	(2)	(2)
69	47	116	71	52	123	75	60	135	79	70	149	82	75	157
(25)	(21)	(46)	(26)	(21)	(47)	(28)	(24)	(52)	(29)	(26)	(55)	(29)	(28)	(57)

※看護学研究科平成23年開設



# 大学間交流 INTERNATIONAL & DOMESTIC EXCHANGE

## 国際交流協定

本学が教育・研究の対象としている国・地域の諸大学と国際交流協定を締結し、単位互換制度や地域・文化実習の協力体制を整え、積極的に国際交流事業を展開している。

協定大学間で学生は、1年間を上限に交換留学生として留学することができる。協定大学から本学に留学する外国人学生のために、初級から上級レベルのさまざまな日本語コースが用意されている。

### 国際交流協定大学(15カ国・1地域、36大学)

2017年6月1日現在

国名	大学名	協定年月日	国名	大学名	協定年月日
1 ブラジル Brazil	ロンドリーナ州立総合大学 Universidade Estadual de Londrina	1994年5月25日 May 25, 1994	19 アメリカ USA	スプリングフィールドカレッジ Springfield College	2011年4月27日 April 27, 2011
2 アルゼンチン Argentina	産業社会科学大学 Universidad de Ciencias Empresariales y Sociales	1994年9月29日 September 29, 1994	20 韓国 Korea	済州大(大学) Jeju National University	2011年6月13日 June 13, 2011
3 ペルー Peru	バシフィコ大学 Universidad del Pacifico	1994年10月7日 October 7, 1994	21 アメリカ USA	サウスイースト・ミズーリ州立大学 Southeast Missouri State University	2012年11月27日 November 27, 2012
4 ベトナム Vietnam	ベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学 Vietnam National University	1995年12月12日 December 12, 1995	22 タイ Thailand	サイアム大学 Siam University	2013年1月25日 January 25, 2013
5 マレーシア Malaysia	マラヤ大学 University of Malaya	1996年2月1日 February 1, 1996	23 カナダ Canada	ブロック大学 Brock University	2013年9月27日 September 27, 2013
6 アメリカ USA	ハワイ大学ヒロ校 University of Hawaii at Hilo	1996年9月4日 September 4, 1996	24 メキシコ Mexico	メキシコ国立自治大学 Universidad Nacional Autónoma de Mexico	2014年2月26日 February 26, 2014
7 アメリカ USA	ロングアイランド大学 Long Island University	1997年7月1日 July 1, 1997	25 台湾 Taiwan	中州科技大学 Chung Chou University of Science and Technology	2014年6月12日 June 12, 2014
8 フィリピン Philippines	マニラ大学 The University of Manila	1998年12月5日 December 5, 1998	26 台湾 Taiwan	開南大学 Kainan University	2014年6月13日 June 13, 2014
9 アメリカ America	ジョージ・フォックス大学 George Fox University	2001年5月25日 May 25, 2001	27 韓国 Korea	明知大(大学) Myongji University	2014年10月13日 October 13, 2014
10 インドネシア Indonesia	ハサヌディン大学 Hasanuddin University	2002年11月1日 November 1, 2002	28 アメリカ USA	ナイアガラ大学 Niagara University	2014年12月22日 December 22, 2014
11 タイ Thailand	メーファールアング大学 Mae Fah Luang University	2004年2月2日 February 2, 2004	29 アメリカ USA	ハワイ大学ウエストオアフ校 University of Hawaii at West Oahu	2014年12月24日 December 24, 2014
12 アメリカ USA	グアム大学 University of Guam	2004年3月29日 March 29, 2004	30 ペルー Peru	サン・マルティン・デ・ポレス大学 University of SAN MARTIN DE PORRES	2016年2月18日 February 18, 2016
13 オーストラリア Australia	ウーロンゴン大学 University of Wollongong	2007年3月20日 March 20, 2007	31 台湾 Taiwan	国立高雄大学 National University of Kaohsiung	2016年4月29日 April 29, 2016
14 台湾 Taiwan	大仁科技大学 Tajen University	2008年6月27日 June 27, 2008	32 中国 China	山東大学 Shandong University	2016年6月8日 June 8, 2016
15 中国 China	湖南農業大学 Hunan Agricultural University	2008年11月3日 November 3, 2008	33 カナダ Canada	レスブリッジ大学 University of LETHBRIDGE	2016年8月19日 August 19, 2016
16 中国 China	北京聯合大学旅遊学院大学 Institute of Tourism of Beijing Union University	2008年11月6日 November 6, 2008	34 台湾 Taiwan	台湾師範大学スポーツ・レクリエーション学院 National Taiwan Normal University College of Sports & Recreation	2016年10月19日 October 19, 2016
17 韓国 Korea	啓明大(大学) Keimyung University	2008年12月30日 December 30, 2008	35 韓国 Korea	国立釜慶大学 Pukyong National University	2017年2月20日 February 20, 2017
18 イギリス UK	セントラル・ランカシャー大学 University of Central Lancashire	2009年8月24日 August 24, 2009	36 フィリピン Philippines	デ・ラ・サール大学 De La Salle University	2017年5月24日 May 24, 2017

### 国際交流協定大学 近年の派遣・受入実績

過去5年間

大学名	年度		2012 (平成24)		2013 (平成25)		2014 (平成26)		2015 (平成27)		2016 (平成28)	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
ロンドリーナ州立総合大学	2	2	1	1	5	2	2	2	3	3		
産業社会科学	0	0	0	0	2	0	2	0	1	0		
バシフィコ大	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		
マラヤ大	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		
ハワイ大学ヒロ校	3	0	3	0	0	1	2	0	1	0		
マニラ大	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1		
ハサヌディン大	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0		
メーファールアング大	0	1	3	1	1	2	3	2	4	3		
ウーロンゴン大	8	0	3	0	0	0	5	0	2	0		
セントラルランカシャー大	3	5	3	2	3	0	3	0	3	1		
大仁科技大学	0	0	1	2	1	4	0	4	1	2		
湖南農業大	1	1	2	2	0	3	4	4	0	4		
北京聯合大学旅遊学院大	2	3	2	3	0	3	1	2	2	1		
啓明大(大学)	5	3	4	0	4	3	1	4	1	4		
済州大(大学)	2	0	0	5	3	0	1	0	4	0		
サウスイーストミズーリ州立大	-	-	2	0	4	0	2	0	4	0		
サイアム大	-	-	0	3	1	5	0	3	3	4		
中州科大	-	-	-	-	0	1	0	3	0	3		
ブロック大	-	-	-	-	4	0	4	0	4	0		
メキシコ国立自治大	-	-	-	-	0	0	1	0	0	0		
開南大	-	-	-	-	0	0	4	2	4	3		
明知大(大学)	-	-	-	-	0	0	2	5	3	1		
ナイアガラ大	-	-	-	-	0	0	0	0	1	0		
国立高雄大	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0		
山東大	-	-	-	-	-	-	-	-	0	3		
合計	26	20	24	20	28	25	38	32	44	33		

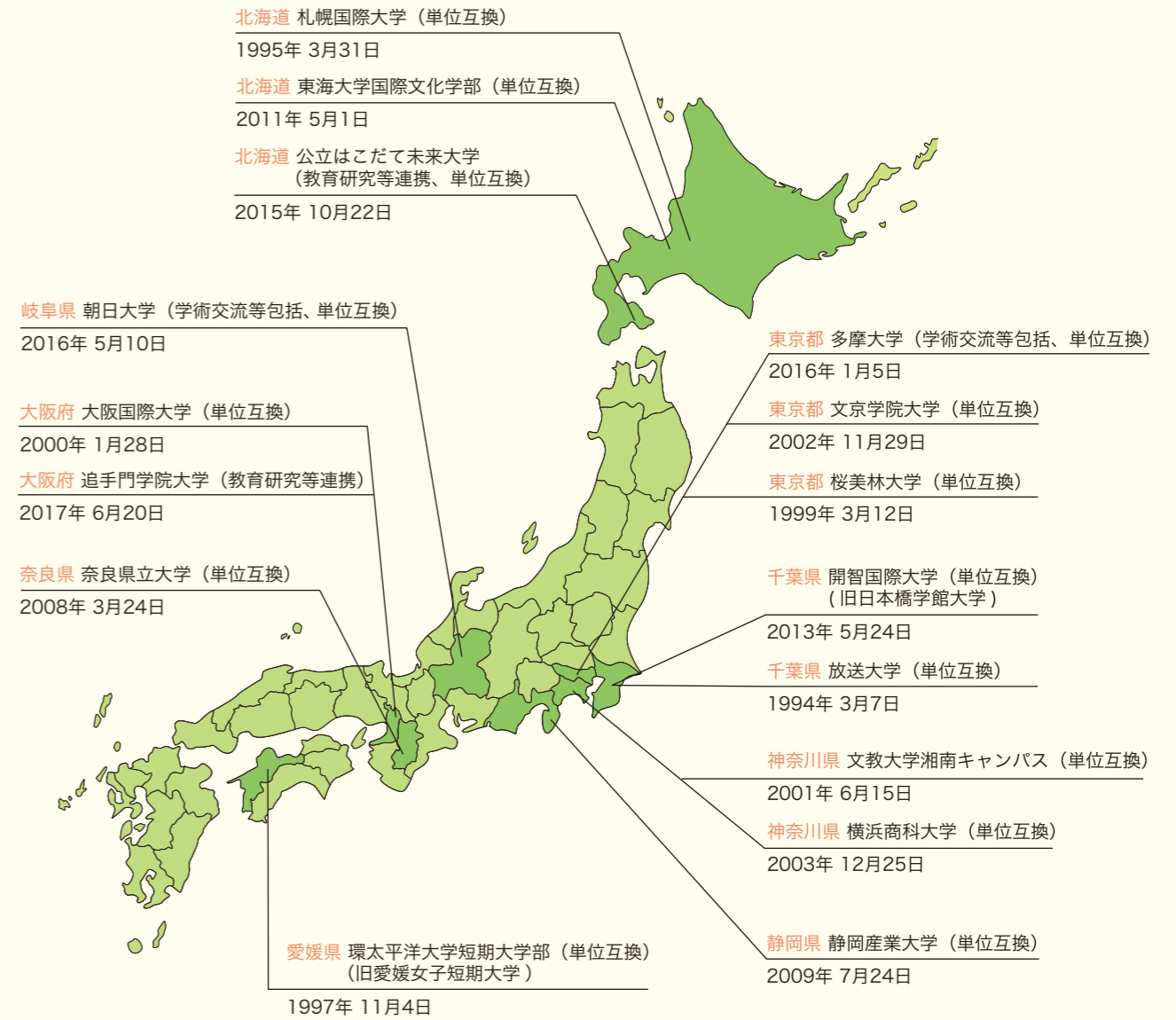
## 国内交流協定大学

本学は、国内の諸大学と交流協定を締結している。協定内容は、「単位互換協定」「学術交流及び連携に関する包括協定」「教育・研究等に関する連携協定」の3種類あり、単位互換や学生交流をはじめ、教職員の交流、地域社会への貢献に関する連携等、各大学間で交流事業を展開している。

単位互換協定の場合、学生は、協定大学に国内留学し、関連する授業科目を1学期あるいは2学期間履修し単位を取得できる。

平成29年6月現在

### 国内交流協定大学(9都道府県・16大学)



### 国内交流協定大学 近年の派遣・受入実績

過去5年間

大学名	年度		2012 (平成24年)		2013 (平成25年)		2014 (平成26年)		2015 (平成27年)		2016 (平成28年)	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
札幌国際大	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0		
桜美林大	2	2	2	1	7	0	2	0	5	0		
大阪国際大	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0		
文教大学湘南キャンパス	0	1	0	0	0	0	1	1	1	0		
文京学院大	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0		
横浜商科大	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
奈良県立大	1	1	0	1	1	0	0	0	0	1		
東海大学国際文化学部	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0		
開智国際大(旧日本橋学館大)	-	-	0	0	0	0	0	0	1	0		
合計	6	4	4	4	9	2	3	2	8	1		



体育系 部活/サークル	活動内容・目標
硬式野球部	各種公式戦への出場及び日々の練習。学則及び日本野球憲章並びに九州地区大学野球連盟規約に基づき、野球技術の向上、野球を通じての人間形成及び全日本大学野球選手権大会・明治神宮野球大会への出場・勝利並びに野球部員間相互の親睦を図ることを目的とする。
陸上競技部	監督・コーチとともに競技力向上を目標に日々の練習に励んでいる。全国レベルで戦えるトップ選手になること。自己ベストの更新。
男子ハンドボール部	大会に向けて、週6回の練習を行っている。また、地域への貢献としてボランティア活動も行っている。九州リーグで1位を目指す。また、二年連続インカレ出場を達成、インカレ1勝を果たす。
女子ハンドボール部	個々やチーム全体で技術向上に励んでいる。大会にできるだけ多く出場し、1試合でも多くの結果を残せるように日々努力している。
男子バスケットボール部	全日本大学バスケットボール選手権大会出場という目標を達成するため、練習に励んでいる。
女子バスケットボール部	全九州大学バスケットボール2部昇格という目標を達成するため、練習に励んでいる。
男子バレーボール部	月・水・金は大学体育館にて練習。土日・祝祭日は大学体育館や他校の体育館にて合同練習及び練習試合。沖縄県大学バレーボールリーグで優勝を目標に練習に励んでいる。
女子バレーボール部	大会へ出場し、結果を残すこと。九州リーグでの好成績に向けて練習に励んでいる。
水泳競技部	競技力の向上のためのトレーニング(プール、トレーニングルーム)。地方大会における競技役員の補助。男女九州国公立大会三連覇。
軟式野球部	練習は週に3～4回行っている。1年で2つの大会に参加。全国及び西日本大会に出場することを目標とする。
サッカー部	週6日、2時間の練習。また公式戦や練習試合など。九州大学サッカーリーグ1部昇格を目標とする。
ゴルフ部	個人練習を主としながら部活でのコース練習。県内・県外大会への参加。九州大会への参加、沖縄学生選手権での上位入賞を目標とする。
硬式テニス部	月・木・日の週3回で練習を行っている。今年度は、積極的に大会に参加し、タイトルを目指す方針である。各大会にて、毎回3位以内に入ることを目標とする。
ラグビー部	毎週、火曜日18:30～、木曜日19:00～、土曜日10:00～、グラウンドにて練習。九州ラグビーリーグ2部昇格を目標とする。
柔道部	毎回、2時間程度の稽古で、試合を意識した乱取りや、体力向上のために基礎トレーニングを行っている。体力向上をめざし、昇段する。また、試合に出て、稽古してきたことを活かす。
卓球部	競技力向上を目的として練習。地域の市民、学生、各種団体との交流活動。
男女バドミントン部	1週間に4回の練習および、北部ジュニアのスタッフなど。1つでも多く入賞を目標として活動している。初心者は、大会出場できる程の技術をつけることを目標としている。
男子ソフトボール部	競技性を追求し、それに基づいた人間性、社会性の育成及びボランティアを通じた地域への貢献。西日本インカレ、全日本インカレ出場を目指す。
女子ソフトボール部	火・木/16:30～19:30 水・金/7:00～8:00 土・日/9:00～12:00。西日本インカレ、全日本インカレ出場を目指す。
空手道部	形・組手の技術向上。精神の鍛練。学連の大会、県民大会出場を目指すし、形・組手の鍛練を行う。
少林寺拳法部	沖縄県での少林寺拳法の普及、活性化、部員の人間形成。全国大会で活躍するため修練を通し、心身共に健全でたくましい人間形成を図る。大会参加や演武披露を通して少林寺拳法の認知度を高める。
剣道部	剣道を通じての心身発達と良好な友好関係を築く。
女子サッカー部	週4回の練習、試合を通して切磋琢磨しながら自己成長と技術向上を図る。
名桜大学応援団	本団は応援と地域貢献活動を通じて学生の模範となり、名桜プライドの醸成並びに本学の士気高揚に努める。
なぎなたサークル	週1～2回の集まり稽古や自主練習。全日本学生なぎなた選手権大会に演技・個人・団体戦の部で出場、ベスト8を目標とする。
フットサルサークル	火・水・金の3日と休日あわせ、週4～5日程度で活動。より多くの大会に出場し、知名度を上げる。県大会優勝と九州大会出場を目標とする。
ソフトテニスサークル	試合形式、ポジション別の個別練習。県内の春季学生リーグ団体戦2連覇を目指す。
FOOTBALLサークル	全員がサッカーをできるような環境作りを心がける。
トライアスロンサークル	トライアスロン大会への出場を目的として練習を行う。
ハンドボールサークル	学内外のハンドボールの活動によって学生同士や地域との交流を図る。
バレーボールサークル	バレーボールを通じて、豊かな人間性を育み、技術向上に努める。また、大学行事へ積極的に参加する。

文化系 部活動/サークル	活動内容・目標
名桜エイサー	年間を通じて数多くのイベントに参加している。エイサーイベントに積極的に参加すると共に、ボランティア活動等の地域に貢献できる活動に参加する。
吹奏楽部	「地域密着型」の部活動を目指して、週3回様々な演奏会に向けて活動している。コンクールをはじめ、大学のイベントなどにも出演している。大学内だけでなく、名護、さらに北部地区を活性化させることで地域に貢献し、自分たちも成長する。
HIP HOPサークル	沖縄県内のダンスイベントに参加し、ダンスの楽しさを知り、スキルアップを目指す。
ミュージックサークル	県内・外でのライブ活動。音楽活動で沖縄県を盛り上げる。
ポルトガル語研究会	ポルトガル語の学習、ボサノバ、ブラジル料理を通してポルトガル語とブラジル文化を学習する。
The Volunteer Activity Group (VAG)	看護学科内及び地域の看護・福祉に関するボランティアの窓口を担い、看護学生のボランティア活動参加を支援する。
名桜ラテンダンスサークル	南米の様々なダンスの練習。南米特有のダンスを学び、交流する。
Meio Communication Group (MCG)	地域のボランティア・イベント等への参加。
ヘルスサポート	毎週東村や伊平屋村での健康・運動教室、月に1度名護市中央図書館でのヨガ教室及び健康測定、平日は学内でのJOYBEAT ROOMの運営等。健康長寿県沖縄の復活のため、まずは、北部12市町村での健康・運動教室などを行うなかでメンバーの主体性や奉仕の精神を身に付ける。
Table For Two (TFT)	月に1回のミーティング、学祭やイベントでの出店等。国際貢献の在り方を理解し、TFTの認知度を広める。学食やカフェにTFTメニューを導入する。
MHK(放送研究会)	NHK杯全国大学放送コンテストをはじめとした、各種大会・コンテストに向けての練習及び作品制作。各種コンテストで上位入賞。
名桜ウェルナビ	学生ボランティアで構成される新入生支援組織。先輩学生が新入生に大学生活や履修方法などをアドバイスする。学内イベントの企画・運営も行う。
S-CUBE(エス・キューブ)	「名桜生の名桜生による名桜生のための就職支援学生団体」として発足した学生団体。応募書類の書き方や面接対策といった実践的なセミナーや、就活意欲向上のためのイベント企画、名桜生に特化した就活ガイドブックを発行している。また、キャリアコーチという専門スタッフ及びキャリア支援課等学内機関と連携を取りながら、名桜生全体の就職活動支援を行っている。
日本台湾学生会議沖縄支部	本学における日本と台湾の学生相互交流による両国の語学の習得及び、相互の文化の理解、各種イベントへの参加。政治的立場や職業的立場にとらわれない、日本と台湾の学生の相互交流を行う。
教職行事実行委員会	教職を履修している学生同士の交流をはかり、縦と横のつながりを深めていく。教職履修者を対象とした行事の企画・運営を行う。
IGCC(International Global Communication Circle)	異文化交流をしながら、英語でアニメやドラマを視聴、ヘアやグループを作り、英語でディスカッションや会話を行う。
ポケモン研究会	ポケモンのカードゲームで対戦・考察をし、大会や交流会に向けてスキルを高め合う。ポケモンを通じて親交を深めるとともに、普及に貢献する。
創作研究会	手芸やアクセサリー作り、イラスト作成や裁縫などを通して、創作活動の楽しさを知るとともに、個々の技術を向上、新たな技術の習得を目指す。
総合ごらく研究会	ボードゲームやデジタルゲームを行い、サークルメンバーとの交流を深める。
中国語文研究会	中国語の習得を目的とする。市民との交流を図り、地域貢献を目指す。
観光ホスピタリティ研究会	沖縄県のホテルへ訪問し、施設見学やテーブルマナー講座を受け、ホスピタリティを学び研究する。
S L E N G	英会話能力の向上を目的とし、英語でのディスカッション、英検・TOEIC対策などを行う。
現代中国研究会	中国理解のための研究活動や外国語(中国語・英語)の修得などを通し、現代中国を多角的に分析する力を身につける。

平成29年度名桜大学学年暦

前学期			後学期				
4月	4月1日(土)	学年及び前学期開始	9月	9月27日(水)	後学期開始、年次別オリエンテーション、大学院オリエンテーション		
	4月3日(月)～7日(金)	新入生・在来生オリエンテーション(看護学科)		9月28日(木)	後学期講義開始(登録調整期間:9月28日～10月11日)		
	4月4日(火)	新入生一斉力テスト		10月	10月7日(土)	大学院入学試験(10月試験:国際文化研究科・看護学研究科)	
	4月4日(火)～7日(金)	新入生ガイダンス(全学)			10月14日(土)	3年次対象就職・進路ガイダンス(国際学群)	
	4月5日(水)・6日(木)	成績通知・登録関係資料等配布			10月25日(水)	インターンシップ報告会(国際学群・スポーツ健康学科)	
	4月5日(水)	大学院国際文化研究科オリエンテーション			10月26日(木)・27日(金)	名桜大学祭準備	
	4月6日(木)	在来生オリエンテーション(全学)			10月28日(土)・29日(日)	名桜大学祭	
	4月8日(土)	大学院看護学研究科オリエンテーション			10月30日(月)	名桜大学祭後片付け	
	4月8日(土)	入学式			11月	11月3日(金)	キャリア秋季セミナー(スポーツ健康学科)
	4月10日(月)	前学期講義開始(登録調整期間:4月10日～21日)				11月11日(土)	卒業研究発表会(看護学科)
	4月11日(火)～13日(木)	学内合同企業説明会(国際学群・スポーツ健康学科)				11月18日(土)	推薦入学試験(国際学群)、推薦入学試験・特別選抜試験(人間健康学部)、編入学試験(スポーツ健康学科)
	4月15日(土)	1年次教育研修(スポーツ健康学科、看護学科)				12月	12月9日(土)
4月22日(土)	1年次教育研修(国際学群)	12月16日(土)	北部枠推薦入学前懇談会(人間健康学部)				
5月	5月8日(月)～8月4日(金)	4年次臨床実習(看護学科)	12月21日(木)	創立記念日			
	5月13日(土)	新入生歓迎スポーツ大会	12月26日(火)～1月4日(木)	冬季休業			
6月	6月10日(土)	第1回オープンキャンパス	1月	1月5日(金)	後学期講義再開		
7月	7月31日(月)・8月1日(火)	台風等休講による補講予備日		1月12日(金)	2年次対象英語能力試験		
8月	8月2日(水)～8日(火)	学期末試験期間		1月13日(土)・14日(日)	大学入試センター試験		
	8月7日(月)～9月15日(金)	4年次総合実習(看護学科)		1月20日(土)	卒業研究発表会(国際文化教育研究学系)		
	8月9日(水)～9月26日(火)	夏季休業		1月27日(土)	卒業研究発表会(経営情報教育研究学系・スポーツ健康学科)		
	8月9日(水)～9月26日(火)以内に実施	現地実習各コース(国際学群)、インターンシップ(国際学群、スポーツ健康学科)、海外インターンシップ(国際学群)		1月28日(日)	卒業研究発表会(観光産業教育研究学系)		
	8月10日(木)	修士論文中間発表会・修士論文研究テーマ発表会(国際文化研究科)		1月31日(水)	台風等休講による補講予備日		
	8月10日(木)	追試験実施期間		2月5日(月)～9日(金)	学期末試験期間		
	8月11日(金)	再試験実施期間		2月9日(金)	後学期講義終了		
	8月12日(土)	第2回オープンキャンパス		2月10日(土)	大学院入学試験(2月試験:国際文化研究科・看護学研究科)		
	8月21日(月)～23日(水)	自己推薦型試験(国際学群)	2月12日(月)～3月31日(土)	春季休業			
	9月	9月3日(日)～11日(月)	国際看護学Ⅱ海外研修	2月	2月13日(火)	大学院修士論文最終発表及び最終試験、修士論文概要発表会及び研究生研究計画報告発表会(国際文化研究科)	
	9月4日(月)	編入学試験(看護学科)、助産学専攻科入学試験(地域枠)	2月13日(火)～3月16日(金)		2年次領域実習(看護学科)		
	9月4日(月)～8日(金)	夏季休暇(教職員)	2月15日(木)		追試験実施期間		
9月9日(土)	大学院修士論文中間発表会(看護学研究科)	2月16日(金)	再試験実施期間				
9月11日(月)～22日(金)	1年次基礎看護実習(看護学科)	2月17日(土)	大学院修士論文最終発表会(看護学研究科)				
9月14日(木)	9月卒業式・修了式	2月25日(日)	一般選抜入学試験・前期日程個別学力検査(国際学群・人間健康学部)				
9月17日(日)	オープンキャンパス予備日	3月	3月1日(木)		県内・県外病院説明会(看護学科・診療情報管理専攻)		
9月19日(火)～22日(金)	3年次臨床実習ガイダンス(看護学科)		3月2日(金)		3年次キャリアアップセミナー(看護学科)		
9月22日(金)	2年次キャリアアップセミナー(国際学群)		3月12日(月)		一般選抜入学試験・後期日程個別学力検査(国際学群・人間健康学部)、編入学試験Ⅱ期(国際学群)		
9月25日(月)～1月26日(金)	3年次臨床実習(看護学科)		3月24日(土)		卒業式・修了式		
9月25日(月)・26日(火)	成績通知書・登録関係資料配布	9月26日(火)	前学期終了	【注】講義日程の変更について 前学期:平成29年5月2日(火)は金曜日の講義を行う。 後学期:平成29年10月9日(祝・月)は月曜日の講義を行う。 平成30年1月30日(火)は木曜日の講義を行う。			

講義を行わない日	国民の祝日等	前学期			後学期		
		4月29日(土)	昭和の日	9月23日(土)	秋分の日	6月23日(金)	慰霊の日
5月3日(水)	憲法記念日	11月3日(金)	文化の日	10月26日(木)	名桜大学準備		
5月4日(木)	みどりの日	11月23日(木)	勤労感謝の日	10月27日(金)	名桜大学祭準備		
5月5日(金)	こどもの日	12月23日(土)	天皇誕生日	10月30日(月)	名桜大学祭後片付け		
7月17日(月)	海の日	1月8日(月)	成人の日	12月21日(月)	創立記念日		
8月11日(金)	山の日	2月12日(月)	建国記念の日振替休日	1月12日(金)	大学入試センター試験会場設営(休講)		
9月18日(月)	敬老の日	3月21日(水)	春分の日				

## 1. FD(ファカルティ・ディベロップメント)の概要

本学では、教育水準の向上や授業の内容及び方法の改善を図るための全学的なFD(ファカルティ・ディベロップメント)委員会を設置し、学生による授業評価に加え、教員の資質・教育指導能力のレベルアップへ向けて取り組んでいる。

## 2. 実施方法

- 授業評価
 

授業の内容及び方法の改善を目指して、学生に対し授業に関するアンケートを実施し、その評価結果を委員会及び事務局で集計する。評価結果は教員へフィードバックし、学生にとってより魅力のある授業の実施や研究指導内容等の充実など、教員のティーチングスキル向上を目指す。
- 講習会・研究会
 

教育研究上の目的に応じ、外部より講師を招聘して講習会・研究会を開催することとする。また、教員を他

- 大学や学外団体等が主催する各種講演会へ講師として派遣することも予定している。積極的に他大学や学外団体と交流し、意見や情報の交換を行うことによる相互啓発が、教育者としての意識を喚起する効果を期待している。
- 研修会
 

教育の質向上等に関連したテーマを設定し、教員が話題を提供するFD研修会、外部講師を招聘した研修会、ワークショップやグループディスカッション形式を取り入れた研修会を実施している。

### 平成28年度 FD活動実績

回数	日時・場所	「テーマ」・講師
1	平成28年6月29日(水) 学生会館SAKURAUM 3F 大講義室B	FD関連学外研修報告会「大学教育を再考する～イマドキから見えるカタチ～」全体シンポジウム報告 (FD委員長 金城 亮) 1 「地域貢献アウトキャンパス活動がもたらす学生の成長:その現状と可能性について」 (人間健康学部看護学科 准教授 鬼頭 和子) 2 「学ぶきっかけをつかめない学生にどう向き合うか?～教養教育の挑戦～」 (国際学群国際学類 教授 佐久本 功達) 3 「大学における英語・日本語リメディアル教育」 (国際学群国際学類 上級准教授 菅野 敦志) 4 「大学におけるライティングセンターの役割」 (国際学群国際学類 上級准教授 小嶋 洋輔) 5 「学外特設キャンパスでの学び～地域連携と教育効果～」 (国際学群国際学類 上級准教授 林 優子)
2	平成28年10月27日(木) 学生会館SAKURAUM 3F 大講義室B	テーマ:卒業研究評価の現状と課題ールーブリック策定に向けてー 発表者:与那覇 恵子 教授(国際文化教育研究学系) 大城 真理子 上級准教授(経営情報教育研究学系) 大谷 健太郎 上級准教授(観光産業教育研究学系) 田原 亮二 教授(スポーツ健康学科) 横川 裕美子 教授(看護学科)
3	平成29年3月16日(木) 講義棟3階 301教室 302教室 304教室 305教室 306教室	全学卒業研究発表会 発表者:39名 国際学群:16名、スポーツ健康学科:4名、看護学科19名

### FD・SD合同研修会

1	平成28年8月31日(水) 学生会館SAKURAUM 3F 大講義室B	講演:「大学におけるハラスメント」 ・ハラスメントの定義 ・大学におけるハラスメントの事例と対策 ・大学におけるハラスメント防止への取組 講師 杉村 直哉 氏
---	---	---

※FD (Faculty Development): 教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称

## 自己点検・評価、認証評価の取組み

### 自己点検・評価

名桜大学は、教育研究の水準の向上に努め、教育研究活動の活性化と社会的責務を果たすため教育研究活動及び大学運営等について自己点検・評価を実施しています。

- 主な取組みは、自己点検・評価活動を通して
- 学部組織及び全学的委員会の年次報告書の作成
  - 自己点検・評価報告書の作成
  - 改善・向上(将来計画)の達成状況の確認
  - 認証評価の受審
  - 自己評価等の結果の公表

を行い、自己改革、改善との連動・連携を重視し、大学の自主的な質保証機能を高めるために実施することです。

### 認証評価

平成16年4月から、学校教育法第109条により、全ての大学は教育・研究等の状況について7年毎に文部科学大臣が認証する評価機関の評価を受けることが義務付けられました。認証評価は、大学の自己点検評価書に基づいて実施されます。



名桜大学は、平成26(2014)年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、「評価の結果、名桜大学は、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合していると認定する」との通知を受けました。

### 高速バス【那覇空港→名護市バスターミナルまで】

那覇空港到着ロビーを出て、左手のバス乗り場から高速バス(111番)に乗りします。  
【終点の名護バスターミナルまで】  
所要時間:約1時間45分、バス乗車料金:2,190円

### タクシー【那覇空港→名桜大学まで】

那覇空港到着ロビーを出て、右手の遠距離タクシー乗り場から乗車します。  
【名桜大学まで】  
所要時間:約1時間30分～2時間  
料金:約15,000円  
※上記の金額は沖縄自動車道の料金を除く  
※初乗り550円(1.75kmまで)以降372mごとに70円プラス



### レンタカーなどお車での移動【那覇空港→名桜大学まで】

那覇空港近隣のレンタカー各社からは、西海岸を延びる国道58号を北上するコースと沖縄自動車道を利用する方法があります。  
【一般道路(58号北上)の場合】  
所要時間:約1時間30分～2時間  
【沖縄自動車道の場合】  
所要時間:約1時間30分(那覇IC～許田ICまで1,020円)

### 送迎バス(無料)【名護市内】

名桜大学では、送迎バス(無料)を運行しています。時刻表は本学ホームページの名桜大学送迎バス運行時刻表をご確認ください。(ただし、祝日・夏季・冬季・春季休業中等、大学休学時は運休します。)

### 名桜大学アクセスマップ(名護市内)



※①～⑭は名桜大学送迎バス(無料)の各停留所となりますので、詳しくは本学ホームページをご覧ください。